

# 認知症の高齢者に関するアンケート 報告書

平成 26 年（2014 年）3 月

草津市

# 目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
II-1. 調査結果の概要	3
1. 一般市民	3
2. 介護家族	5
II-2. 調査結果（一般市民）	8
1. 回答者の属性	8
2. 認知症に対する知識と認識について	12
3. 本人や本人の家族が認知症になった場合について	25
4. 認知症に関する制度や支援などについて	37
II-3. 調査結果（介護家族）	45
1. 介護者と介護を受けている人の属性	45
2. 介護を受けている人の基本属性	48
3. 認知症の発症から医療機関までのつながりの状況	52
4. 相談相手と周囲とのかかわりについて	61
5. 認知症に関する制度や支援などについて	67
■資料（調査票）	81
1. 一般市民用	81
2. 介護家族用	89

# I. 調査の概要

## 1. 調査目的

この調査は、草津市において、認知症になっても本人、家族ともに安心して生活できるまちをめざし、認知症の正しい理解の啓発や、早期発見・早期対応、地域での見守り、認知症の人やその家族への支援体制の充実など、「草津市認知症施策アクションプラン」策定のための基礎資料を得ることを目的に実施した。

## 2. 調査項目

### ○一般市民用

- (1) 回答者の属性
- (2) 認知症に対する知識と認識について
- (3) 本人や本人の家族が認知症になった場合について
- (4) サービス・制度などについて

### ○家族用

- (1) 介護者と介護を受けている人の属性
- (2) 発症と医療機関までのつながりについて
- (3) 相談相手と周囲とのかかわりについて
- (4) サービス・制度について

## 3. 調査設計

	一般市民用	家族用
(1) 調査対象	草津市在住の 20～69 歳の方を無作為抽出	草津市在住の介護保険サービス利用者の中から認知症のある高齢者を介護する家族の方を無作為に抽出
(2) 調査方法	郵送による調査票の配布・回収	
(3) 調査期間	平成 25 年 8 月 6 日～8 月 26 日	平成 25 年 8 月 8 日～9 月 30 日

## 4. 回収結果

	一般市民用	家族用
(1) 発送数	2, 0 0 0	5 0 0
(2) 回収数	6 5 5	2 9 0
(3) 白票・無効票	0	0
(4) 有効回答数	6 5 5	2 9 0
(5) 有効回答率	3 2. 8 %	5 8. 0 %

## 5. 報告書の見方

- (1) 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%を上下することがある。回答者数（n）が少ない場合は比率の数字が動きやすいため、厳密な比較をすることは難しいので、回答の傾向をみる程度になる。
- (2) 複数回答を依頼した質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- (3) 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢を短縮している場合がある。
- (4) 本文中、表やグラフに「MA%」と表示があるものは、複数回答を依頼した質問である。

## Ⅱ－１．調査結果の概要

### １．一般市民

#### （１）認知症に対する知識と認識について

- 認知症の症状をある程度認識している市民は85.2%にのぼる。「認知症という言葉ぐら  
いは知っている」を合わせると認知症という言葉そのものは20・30歳代の若い世代も  
含め9割の市民に認知され一般化している。
- 認知症と思う症状については、年代によりとらえ方が異なっている。年代別に割合が全  
体平均より高い項目をみると、
  - ・20歳代：「約束を忘れてたり、薬を飲み忘れてたりすることが多くなった」や「ものの  
名前が出てこなくなった」など物忘れに関する症状
  - ・30・40歳代：繰り返し行為のほか、「家事や、仕事上のミスが多くなった」「人に  
会うのを避けるようになった」など、日常生活や対人関係に支障が及ぶ症状
  - ・50歳代：「物事への興味や関心が失われた」や「お金やものが盗まれたと言うよう  
になった」など社会的関心の低下や被害妄想の症状
  - ・60歳代：特に突出したものはないが、「お金やものが盗まれたと言うようになった」  
や「慣れた道でも迷うようになった」が多い
- 認知症についての情報収集手段においても年代により違いがみられる。20～40歳代は  
口コミや印刷物よりも「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が多く、50歳代は「雑誌等の  
書物」や「友人・知人からの話」「介護関連事業所（ケアマネジャー）など」の割合  
が、60歳代では「雑誌等の書物」や「パンフレットなどの認知症啓発物」などの印刷  
物の割合が高くなっている。
- 認知症に関する講演会などに参加経験のある市民は10.4%で、30歳代が13.4%、60  
歳代が13.3%となっているのに対し、20歳代は6.0%で最も低い。
- 認知症について「治療すれば、進行を遅らせることができる」が94.8%で最も多くな  
っているが、年代の上昇とともにその割合は低下している。一方、「治療すれば、治  
すことができる」は50・60歳代の割合がやや高い。
- 認知症予防については、大部分の市民は予防できると考えており、その方法で有効と  
考えているもので多いのは、「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」  
(82.3%)、「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」(76.0%)、「適度な運動を行  
う」(75.9%)である。
- 認知症予防について前向きに取り組みたいと考えている市民は多く、「自宅でもでき  
る簡単な予防活動があれば取り組みたい」(77.1%)や「認知症を早期に発見できる  
テスト等があれば受けてみたい」(51.3%)が多くなっている。特に、認知症の症状  
をよく知っていると回答した人で、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組  
みたい」の割合が80.6%で最も高くなっているとともに、「近くの市民センター等で  
予防活動を行っていれば参加したい」も高く、積極的に予防に取り組みたいとの意欲  
がみられる。

## (2) 本人や本人の家族が認知症になった場合について

- 認知症の人の介護経験について何らかの経験のある市民は 33.6%で、そのうち「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が 22.0%、「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」は 7.5%となっている。20・30 歳代は「仕事やボランティアで経験がある」、30 歳代は「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が、また 40 歳代は「経験はない」の割合が高い。50 歳代は「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」の割合が高く、60 歳代は、「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が高くなっている。
- 自分や家族が認知症になった場合、20 歳代は、「薬や効能、副作用の有無」の割合が、30 歳代は、「症状がどのように進行していくのか」や「医療・介護にかかる費用」の割合が高い。40 歳代は「まず、どこに相談すればよいか」「医療・介護にかかる費用」がそれぞれ高くなっている。50 歳代でも「医療・介護にかかる費用」が最も多く、60 歳代では費用や症状の進行のほか、「病院で何科に診てもらえばよいか」の割合も高い。
- 認知症の疑いがあった場合、「認知症専門医」(36.2%) や「かかりつけ医」(36.6%) が多く、医師への相談ニーズが高い。一方、「どこに相談したらいいのかわからない」の割合は 40 歳代で高い。
- 家族が認知症になった場合の介護について、40・50 歳代は「わからない」が高いが、その他の年代では、自宅での介護希望が 7 割を超え、特に 20 歳代で「できる限り家族・親族だけで自宅で介護したい」「できる限り近所の人との協力と家族・親族中心に自宅で介護したい」の割合が高い。30 歳代や 60 歳代は、「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」が多い。
- 自分が認知症になった場合に希望する介護について、20～50 歳代は「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が多く、60 歳代は「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」の割合が特に高い。また、20 歳代では、「できる限り家族・親族だけで自宅で介護されたい」、30 歳代では「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」など在宅介護を希望する割合も高い。
- 家族が認知症になった場合、30 歳以上の各年代では、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が多いのに対し、20 歳代では「隠す必要もないが敢えてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 40.5%で最も多い。

## (3) 認知症に関する制度や支援などについて

- 市民の間では、「消費生活センター」(65.3%) で最も知られており、これに次いで「成年後見制度」(39.2%)、「地域包括支援センター」(31.9%) で、「地域福祉権利擁護事業」(11.1%) は最も低い。
- 認知症サポーター養成講座について、20・30 歳代では「知らない」の割合が 9 割を占め、「名前は聞いたことがある」は 5～6%程度である。40 歳以上の各年代でも「知らない」の割合が 8 割を超えるが、1 割程度は「名前は聞いたことがある」と回答している。

- 認知症サポーター養成講座を受講意向は、40・50歳代が高く、特に50歳代では30.3%と最も高い。一方、「受講したくない」の割合は20歳代が20.7%で最も高い。
- 近所に認知症の人がいた場合、「地域として何かできることがあれば協力したい」が36.0%で最も多い一方、「何をしたらいいのかわからない」が28.4%でこれに次いで多くなっている。20歳代を除く各年代では、「地域として何かできることがあれば協力したい」が最も多く、特に50歳代が41.2%で最も高い。20歳代は「何をしたらいいのかわからない」が最も多い。
- 認知症の人への支援としてできることで挙げてもらったことは、「定期的に声をかける」(48.4%)、「話し相手になる」(45.0%)、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助けを行う」(33.3%)で、いずれの活動内容も、特に20歳代の割合が高く、20・30歳代の若い世代での取組意向が高くなっている。
- 家族介護者への支援で多いものは、「話し相手になる」(60.9%)が最も多く、次いで「定期的に声をかける」(45.8%)で、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助けを行う」(38.9%)、「買い物や家事などを手伝う」(33.4%)が続いている。こちらも20歳代の割合がいずれの項目も高くなっている。
- 認知症介護のための支援策として、「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」(77.3%)が最も多い。これに次いで「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」が47.8%となっている。これらのほか、「家族の外出時に認知症の人を見守る支援」(31.5%)、「認知症の人が喜んで通うことができる場所」(26.6%)、「介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所」(20.3%)となっている。

## 2. 介護家族

### (1) 認知症の発症から医療機関までのつながりの状況

- 介護者の年齢は、60歳代が30.7%、70歳代が15.2%、80歳以上が8.6%で、60歳以上が全体の54.5%となっており、いわゆる“老老介護”が少なくありません。
- 認知症と思い始めたきっかけは、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」(70.7%)が最も多く、次いで「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」(54.8%)、「物事への興味や関心が失われた」(50.0%)、「お金の管理ができなくなった」(47.6%)などとなっている。
- 認知症の症状がみられ始めた年齢は、75歳以上が74.5%となっており、そのうち80歳以上が全体の56.2%と半数を占める。
- 認知症の症状がみられ始めた年齢における認知症の症状は、60歳未満では「お金の管理ができなくなった」や「家事や、仕事上のミスが多くなった」が、60～64歳未満では「物事への興味や関心が失われた」がそれぞれ多くなっている(サンプル数が少ないので解釈には注意が必要)。65歳以上の各年代では、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」が最も多く、発症年齢により症状の違いがみられる。

- 認知症の症状がみられ始めた年齢と専門家に相談するまでの期間は、いずれの年代も5割以上が1年未満内に専門家への相談を行っている。一方、70歳以上の各年代では、認知症の症状がみられ始めてから専門家への相談に至るまでに1年以上かかっている人も4割前後存在する。
- 認知症と思い始めてから専門家に相談に至った期間が6か月未満では、その相談先として「かかりつけ医」や「認知症専門医」が多く、6か月を超えると「介護関連施設（ケアマネジャーなど）」のほうが多い。また、相談した結果に対しては、満足している人（63.4%）が多い。
- 認知症について医療機関を受診した割合は78.3%と大部分を占め、病名は「アルツハイマー型認知症」（59.5%）が最も多い。認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間が長くなるほど、未受診の割合が上昇する傾向がみられ、専門家に相談するまでの期間が3年以上では未受診割合が3割前後を占める。
- 病院を受診した人に認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間をたずねたところ、「1か月以上6か月未満」（26.4%）が最も多く、次いで「6か月以上1年未満」が18.5%で、1年未満が全体の59.9%を占める。一方、3年以上経ってから受診した高齢者が10.6%（うち5年以上4.4%）となっている。病院を受診した理由（きっかけ）は、認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間が1か月未満の場合は、家族や知人、専門家に勧められたとの回答が多く、1か月を超えると「病状が進行したから」のほうが多くなっている。

## （2）相談相手と周囲とのかかわりについて

- 介護の悩みを相談できる相手は、「ケアマネジャー」（76.6%）が最も多く、次いで「家族」（72.8%）となっている。
- 認知症について周囲は「理解している」が71.8%に対し、「理解していない」が18.8%となっている。また、認知症を周囲の人に「話している」は80.7%を占め、認知症を周囲の人が理解してくれていると感じている人で「話している」割合（91.7%）が高い。
- 介護を受けている人にかかりつけ医がいる割合は93.8%を占め、また、認知症相談医を知っている割合は49.7%に対し、介護者の半数近くは知らないと回答している。
- 草津市なごみ会に「すでに参加している（参加したことがある）」は回答者全体の2.1%にすぎないが、「参加したいとは思わない」が58.6%となっている。これに対し「今後参加したい」は30.3%である。

## （3）認知症に関する制度や支援などについて

- 要介護1以上の認定者が利用している介護保険等で最も多いサービスは、「通所介護（デイサービス）」で、特に要介護1・2の割合が高く、要介護2では90.9%が利用している。訪問介護や訪問看護などの訪問系サービスは要介護5の割合が高く、「福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）」は、要介護3～5の割合が6割以上を占めている。一方、小規模多機能型居宅介護は要介護3及び4の割合が高く、認知症対応型通所介護は要介護4の割合が高くなっている。
- 「介護保険料が上がっても、十分なサービスが利用できるほうが良い」の割合は、要介



- 護1以上の介護度で高く、特に要介護4では71.0%を占めている。
- 介護者が困っていたり負担を感じていることは、要介護度に関係なく、「介護を受けている人を残して外出できない」が最も多く、特に要介護2(69.7%)と要介護4(71.0%)を介護している人の割合が高い。要介護4については「自分の自由な時間がない」(58.1%)、「徘徊やもの盗られ妄想など、介護の負担が大きい」(25.8%)、「十分に睡眠をとることができない」(45.2%)、「適切な介護の仕方が分からない」(22.6%)の割合が全体平均に比べ高く、介護負担が大きくなっている。
  - 介護をしていて良かったことは、要介護1以上の介護度では「自身の体調を気にするようになった」が最も多い。「家族で話す機会が増えた」や「介護を通して知人が増えた」は要介護2の割合が、「専門的な知識・技術が身についた」は要介護4及び要介護5の割合がそれぞれ高くなっている。
  - 認知症の人に対する地域支援で望まれているものは、要介護1から要介護3までの介護度では、「話し相手」が最も多く、要介護4及び要介護5では、「地震など、災害時の安否確認」が多い。また、要介護5では「病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け」も多くなっている。「定期的な声かけ」や「認知症カフェ等本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所」の割合は、要介護2で高くなっている。
  - 介護者に対する地域支援で望まれていることで多いものは、「地震など、災害時の安否確認」(24.8%)で、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け」(24.1%)、「話し相手」と「認知症カフェ等本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所」(16.9%)、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い」(13.8%)が続いている。
  - 認知症対策として重要な施策で望まれていることは、「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」(66.2%)が最も多く、特に要介護3以上の高齢者の介護者が多い。これに次いで「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」(47.6%)、「認知症の人が喜んで通うことのできる場所」(38.3%)、「家族の外出時に認知症の人を見守る支援」(29.3%)となっている。
  - 相談機関・制度で知っているものは、「消費生活センター」が72.8%で最も多く、次いで「成年後見制度」が52.8%となっている。「地域福祉権利擁護事業」は20.0%で最も低い。
  - 認知症サポーター養成講座を「知らない」が70.3%で最も多く、認知症サポーター養成講座を「受講したい」割合が16.7%に対し、「受講したくない」は23.0%となっている。

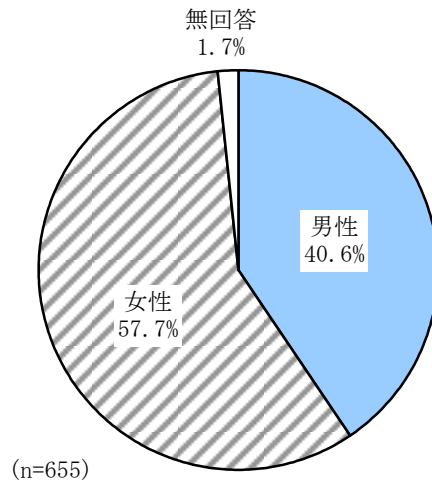
## Ⅱ－２．調査結果（一般市民）

### １．回答者の属性

#### （１）性別

回答者の性別は、「男性」40.6%に対し、「女性」57.7%で女性比率が高い。（図表 1-1-1）

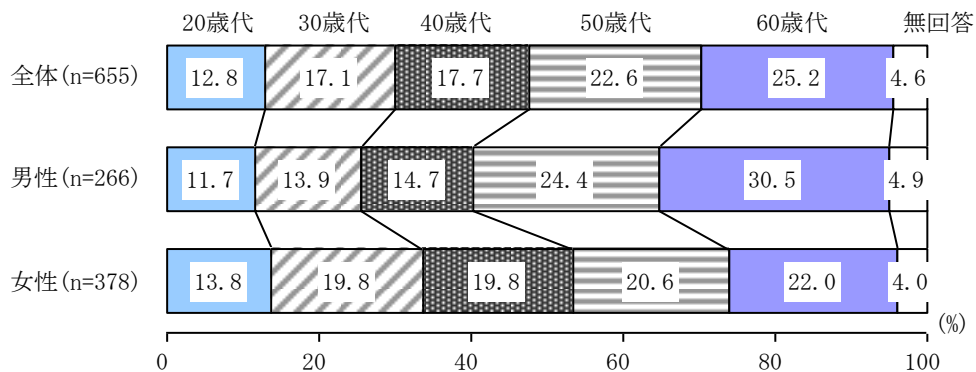
【図表 1-1-1 性別】



#### （２）年齢

回答者の年齢分布をみると、全体では「60歳代」が25.2%で最も多く、次いで「50歳代」が22.6%となっている。回答者の半数近くは50歳以上となっている。50歳以上の割合は、男性の50歳代が24.4%、60歳代が30.5%で女性に比べ高くなっている。一方、40歳代より下の年代の割合は、女性のほうが高くなっている。（図表 1-1-2）

【図表 1-1-2 性別 年齢】

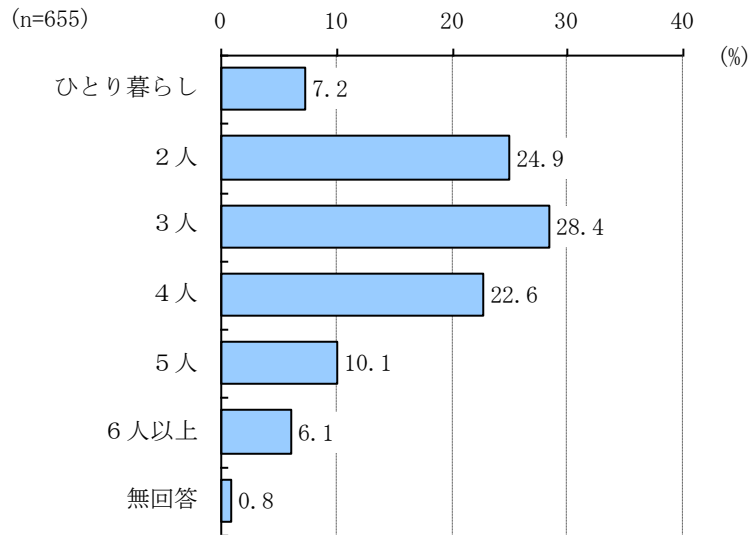


### (3) 家族構成

#### ①同居している家族人数

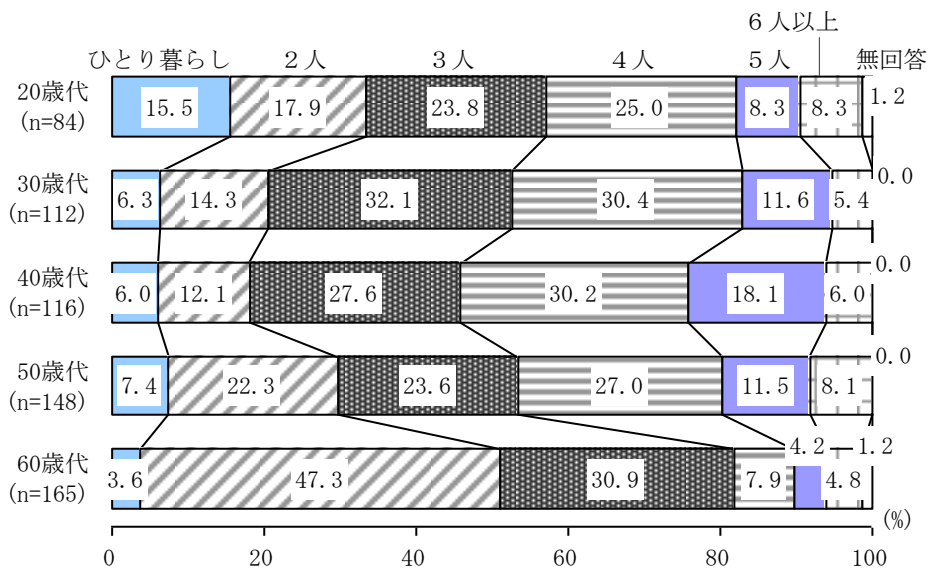
回答者と同居する家族人数は、「3人」が28.4%で最も多く、次いで「2人」が24.9%、「4人」が22.6%で、3～4人家族が51.0%を占める。一方、「ひとり暮らし」は7.2%である。(図表 1-1-3①)

【図表 1-1-3① 同居している家族人数】



回答者の年齢別にみると、ひとり暮らしの割合は20歳代が15.5%で最も高い。30・40歳代は3～4人の割合が3割前後で、年齢が上がるとともに「2人」の割合が高くなっており、60歳代では「2人」が47.3%で半数近くを占める。(図表 1-1-3②)

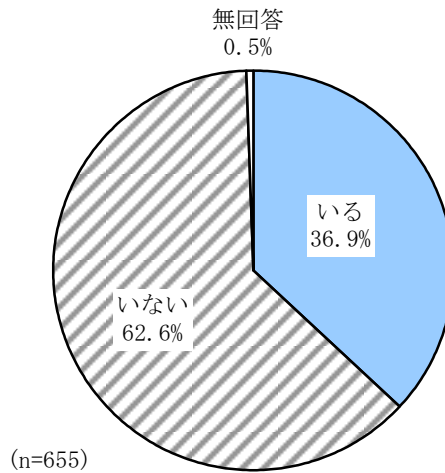
【図表 1-1-3② 年齢別 同居している家族人数】



## ②65 歳以上の高齢者の有無

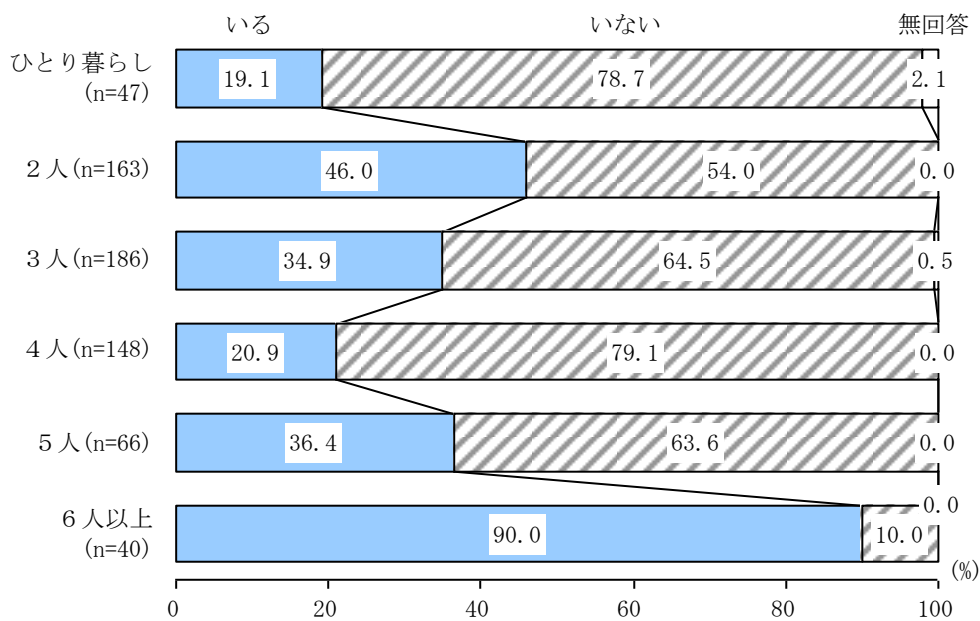
回答者の同居家族のうち、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 36.9%に対し、いないは 62.6%となっている。(図表 1-1-4①)

【図表 1-1-4① 65 歳以上の高齢者の有無】



同居家族人数別に 65 歳以上の高齢者がいる世帯の有無をみると、いる割合は同居家族が 6 人以上の世帯が 90.0%で最も高く、次いで 2 人世帯が 46.0%となっている。これに対し 4 人世帯は 20.9%で最も低くなっている。(図表 1-1-4②)

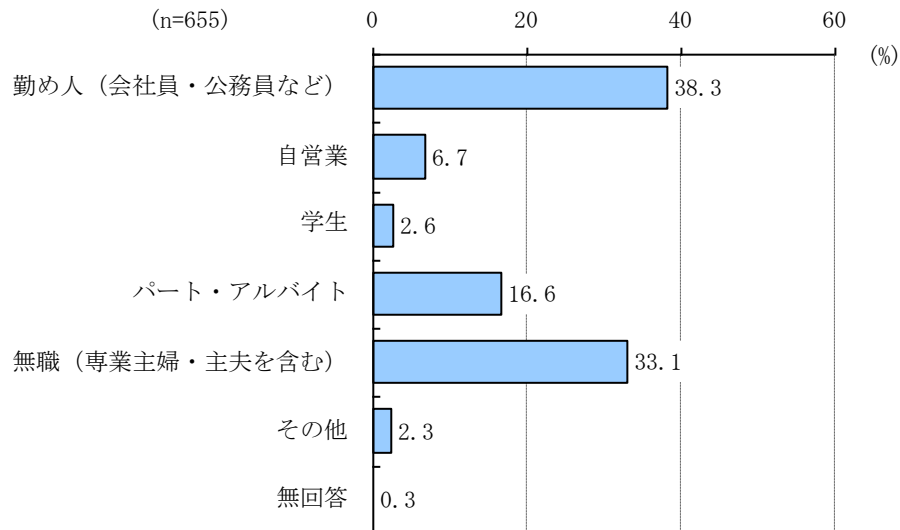
【図表 1-1-4② 同居家族人数別 65 歳以上の高齢者の有無】



#### (4) 職業

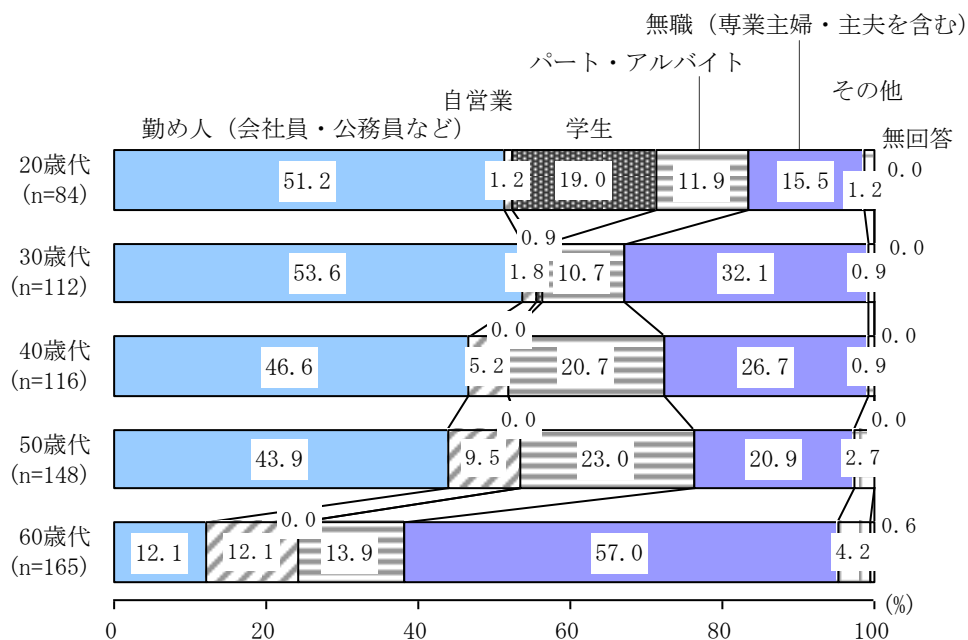
回答者の職業は、「勤め人（会社員・公務員など）」が38.3%で最も多く、「自営業」（6.7%）、「パート・アルバイト」（16.6%）を含む就労者が61.6%を占める。これに対し「無職（専業主婦・主夫を含む）」は33.1%となっている。（図表 1-1-5①）

【図表 1-1-5① 職業】



年齢別では、「勤め人（会社員・公務員など）」の割合は20歳代が51.2%で最も高く、年齢が上がるとともにその割合は低下しているが、50歳代までは、自営業やパート・アルバイトを含めると就労者は6割以上を占めている。これに対し60歳代は「無職（専業主婦・主夫を含む）」の割合が57.0%を占め、就労者は38.1%となっている。（図表 1-1-5②）

【図表 1-1-5② 年齢別 職業】



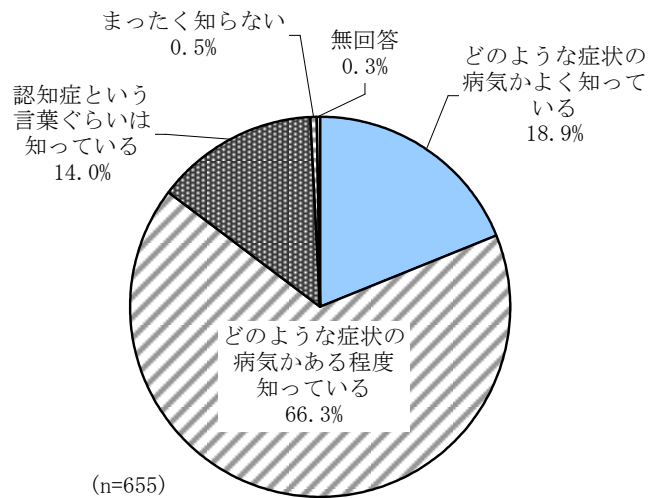
## 2. 認知症に対する知識と認識について

### (1) 認知症の認識程度

問2 あなたは、認知症という病気について、どの程度ご存知ですか。

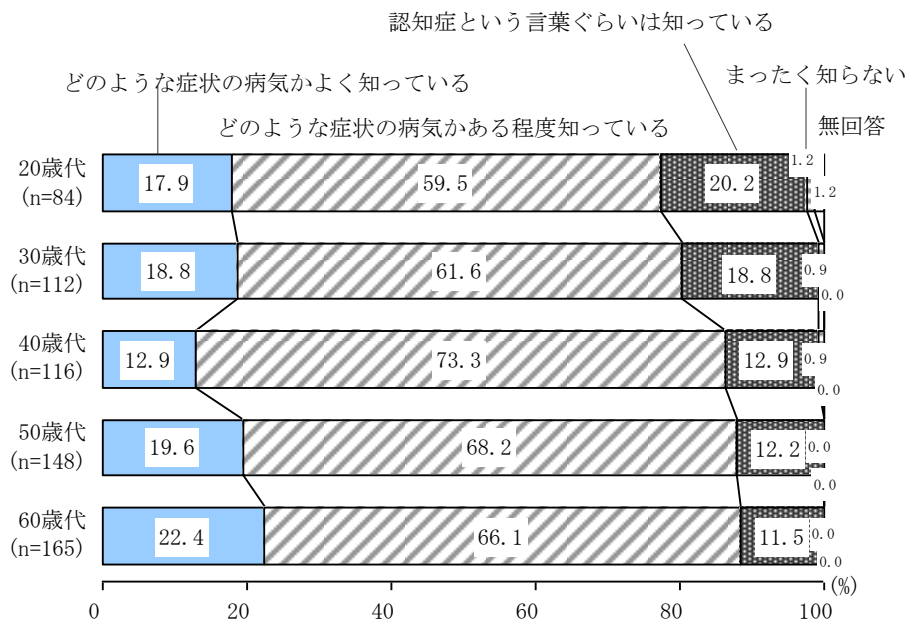
認知症について、「どのような症状の病気かある程度知っている」が66.3%で最も多く、「どのような症状の病気かよく知っている」の18.9%を合わせると、症状をある程度認識している市民は85.2%にのぼる。これに対し「認知症という言葉ぐらひは知っている」は14.0%で、認知症という言葉そのものは回答者のほぼ全員が知っている状況である。(図表 1-2-1①)

【図表 1-2-1① 認知症の認識程度】



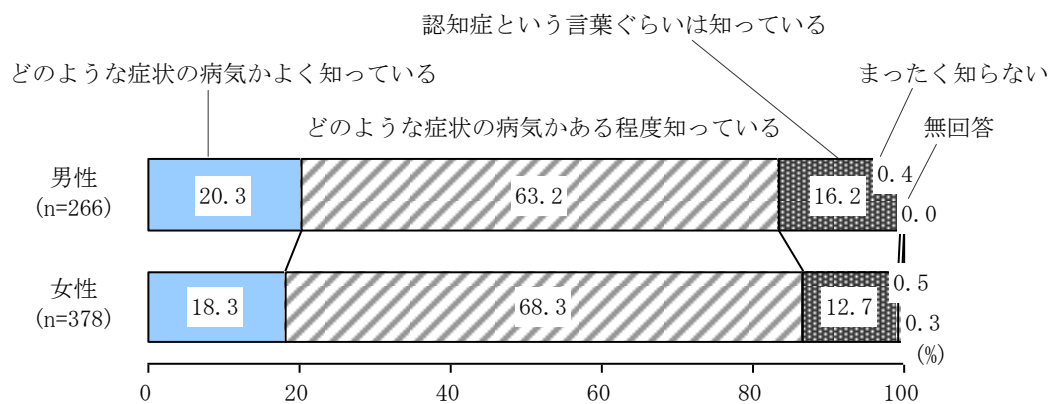
年代別では、「どのような症状の病気かよく知っている」「どのような症状の病気かある程度知っている」を合わせた症状をある程度認識している市民は年代に関係なく8割前後を占め、高年代ほど高くなっている。また認知症という言葉そのものも20・30歳代の若い世代も含め9割の市民に認知されている。(図表 1-2-1②)

【図表 1-2-1② 年代別 認知症の認識程度】



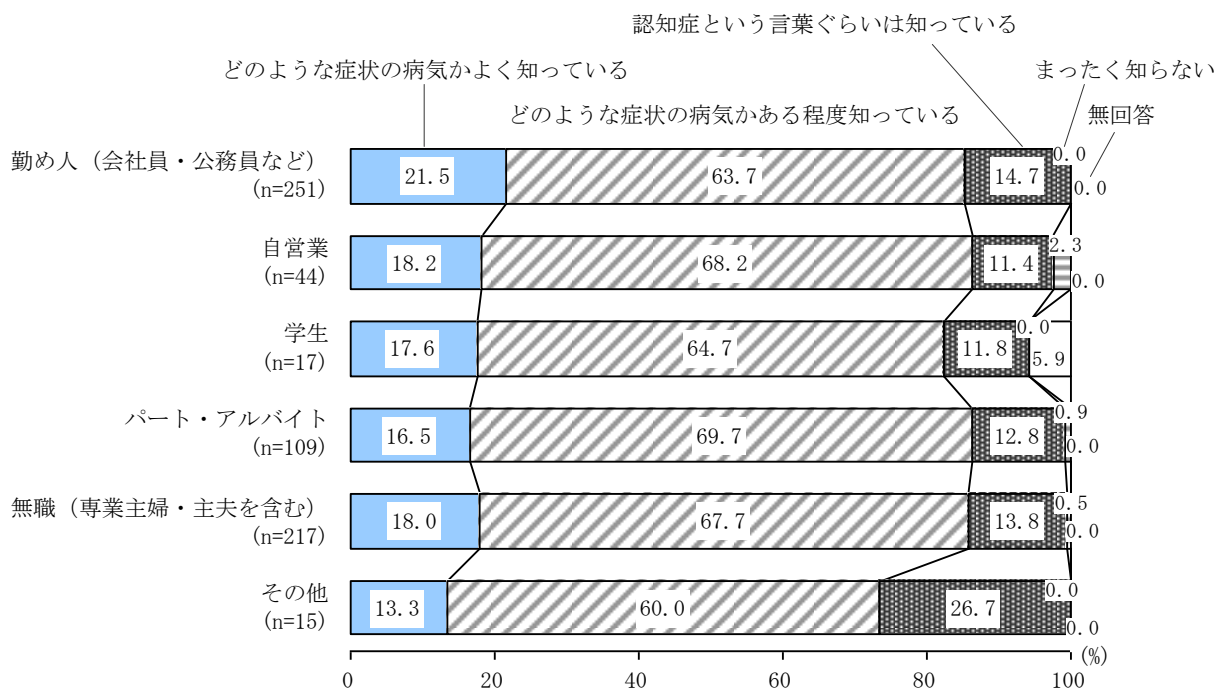
性別に関係なく、症状をある程度認識している市民が8割台を占め、男性に比べ女性のほうが僅かに高くなっている。(図表 1-2-1③)

【図表 1-2-1③ 性別 認知症の認識程度】



職業に関係なく、症状をある程度認識している市民が8割台を占めている。(図表 1-2-1④)

【図表 1-2-1④ 職業別 認知症の認識程度】

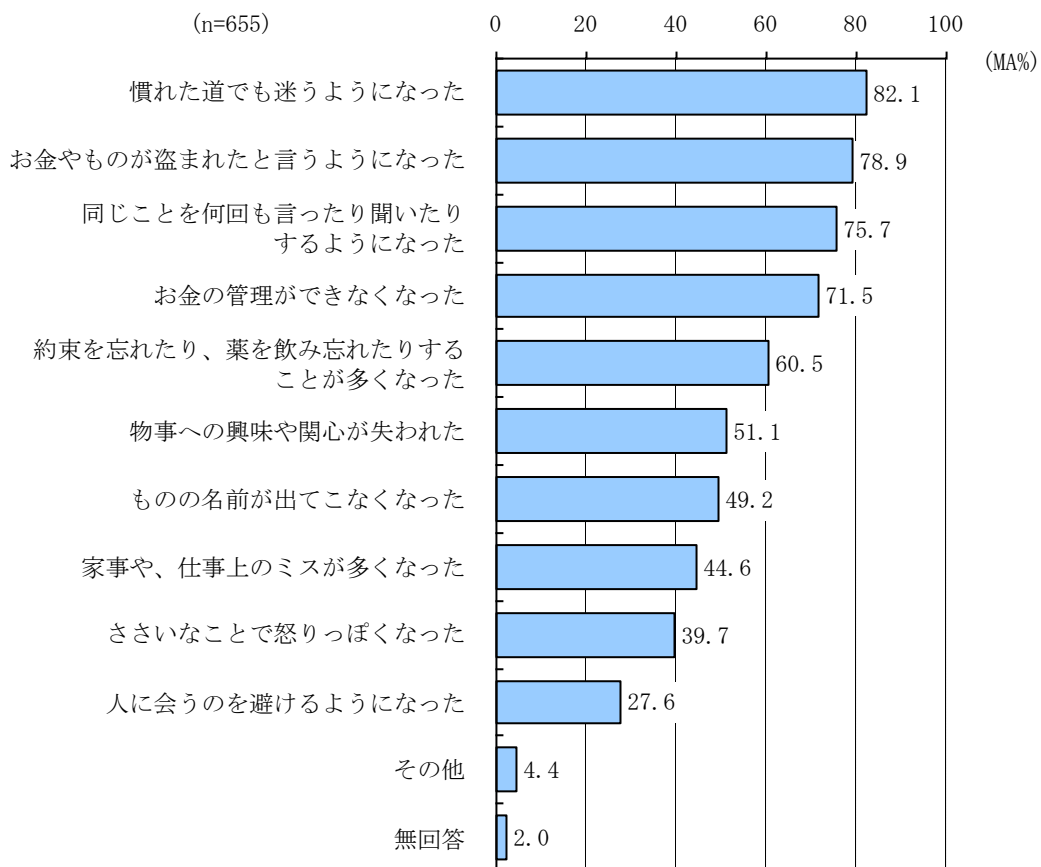


## (2) 認知症と思う症状

問3 あなたが認知症の症状だと思うのは、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

認知症と思う症状で最も多いものは、「慣れた道でも迷うようになった」が82.1%で、次いで「お金やものが盗まれたと言うようになった」が78.9%となっている。以下、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」が75.7%、「お金の管理ができなくなった」が71.5%、「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」が60.5%となっている。  
(図表 1-2-2①)

【図表 1-2-2① 認知症と思う症状】



年代別では、20歳代は「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」や「ものの名前が出てこなくなった」など物忘れに関する症状の割合が高く、30・40歳代は「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった」や「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」のほか、「家事や、仕事上のミスが多くなった」「人に会うのを避けるようになった」など、日常生活や対人関係に支障が及ぶものの割合も高くなっている。50歳代では、「物事への興味や関心が失われた」や「お金やものが盗まれたと言うようになった」など社会的関心の低下や被害妄想の症状を認知症と思う割合が高い。60歳代は全体的に各項目も全体平均より低く、特に突出して高いものはないが、「お金やものが盗まれたと言うようになった」や「慣れた道でも迷うようになった」が多くなっている。(図表 1-2-2②)



【図表 1-2-2② 年代別 認知症と思う症状】

													(MA%)							
	n	が多くなつた	飲み忘れたり、薬を	約束を忘れたり、薬を	になり聞いたりするよう	同じことを何回も言っ	失われた	物事への興味や関心が	なつた	お金の管理ができなく	もの名前が出てこな	慣れた道でも迷うよう	が多くなつた	家事や、仕事上のミス	ぼくささいなことで怒りつ	お金やものが盗まれた	うに会うのを避けるよ	人に会うのを避けるよ	その他	無回答
20歳代	84	73.8	78.6	48.8	61.9	59.5	83.3	46.4	38.1	73.8	27.4	2.4	2.4							
30歳代	112	70.5	87.5	47.3	72.3	53.6	86.6	53.6	48.2	82.1	33.9	5.4	-							
40歳代	116	65.5	81.9	58.6	79.3	50.9	86.2	52.6	49.1	81.9	33.6	4.3	-							
50歳代	148	56.8	75.0	56.8	75.7	46.6	85.8	39.9	39.2	84.5	27.0	6.1	0.7							
60歳代	165	50.9	66.1	46.7	67.3	44.2	73.3	38.8	32.7	73.9	21.8	3.6	4.2							

認知症をどのような病気かよく知っているという回答した人では、全般にどの項目の割合も全体平均を上回っており、特に「家事や、仕事上のミスが多くなった」「ささいなことで怒りっぽくなった」「人に会うのを避けるようになった」の各割合は全体平均に比べ10ポイント以上高くなっている。これに対し、認知症という言葉ぐらいいは知っている人では、いずれの項目も平均を下回っており、認知症に対する知識の程度と症状に対する認識には差がみられる。(図表 1-2-2③)

【図表 1-2-2③ 認知症の認識程度別 認知症と思う症状】

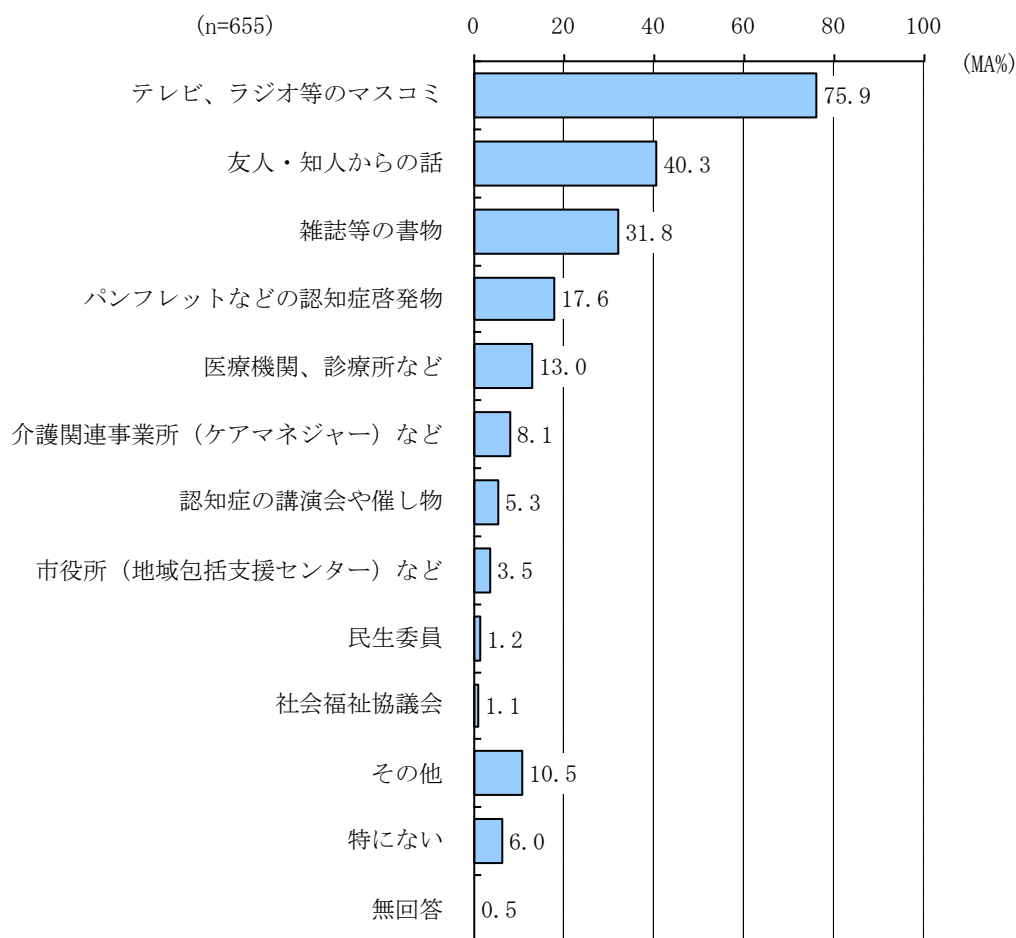
													(MA%)							
	n	が多くなつた	飲み忘れたり、薬を	約束を忘れたり、薬を	になり聞いたりするよう	同じことを何回も言っ	失われた	物事への興味や関心が	なつた	お金の管理ができなく	もの名前が出てこな	慣れた道でも迷うよう	が多くなつた	家事や、仕事上のミス	ぼくささいなことで怒りつ	お金やものが盗まれた	うに会うのを避けるよ	人に会うのを避けるよ	その他	無回答
どのような症状の病気かよく知っている	124	62.9	78.2	59.7	79.0	58.9	84.7	55.6	58.9	85.5	38.7	11.3	3.2							
どのような症状の病気がある程度知っている	434	60.6	76.7	52.8	73.3	48.4	84.1	44.2	37.6	80.9	26.5	3.0	0.9							
認知症という言葉ぐらいいは知っている	92	56.5	68.5	32.6	53.3	39.1	70.7	31.5	23.9	62.0	19.6	1.1	4.3							
まったく知らない	3	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	-	33.3	-							

### (3) 認知症についての情報入手手段

#### 問4 認知症の情報を何から得られていますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する情報入手手段は、「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が75.9%で最も多い。これに次いで「友人・知人からの話」が40.3%、「雑誌等の書物」が31.8%となっている。(図表 1-2-3①)

【図表 1-2-3① 認知症についての情報入手元】



年代別では、20・30歳代では「雑誌等の書物」や「友人・知人からの話」の割合は低く、「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が多く、40歳代も「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が多くなっている。50歳代は、「テレビ、ラジオ等のマスコミ」のほか、20・30歳代で低かった「雑誌等の書物」や「友人・知人からの話」「介護関連事業所（ケアマネジャー）など」の割合が高くなっている。60歳代でも「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が多い一方、「雑誌等の書物」や「パンフレットなどの認知症啓発物」などの印刷物の割合が高くなっている。(図表 1-2-3②)

【図表 1-2-3② 年代別 認知症についての情報入手元】

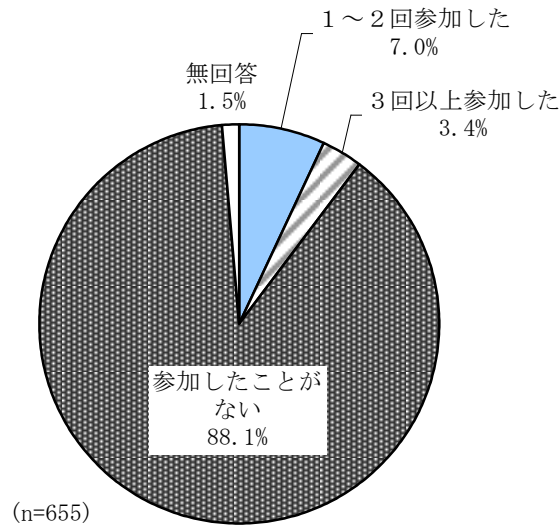
	n	(MA%)												
		物 認知症の講演会や催し	テレビ、ラジオ等のマ スコミ	雑誌等の書物	友人・知人からの話	市役所（地域包括支援 センター）など	医療機関、診療所など	介護関連事業所（ケア マネジャー）など	民生委員	社会福祉協議会	パンフレットなどの認 知症啓発物	その他	特 に ない	無 回 答
20歳代	84	1.2	75.0	14.3	32.1	1.2	11.9	3.6	1.2	2.4	10.7	14.3	10.7	-
30歳代	112	3.6	64.3	14.3	28.6	-	11.6	5.4	-	-	8.0	14.3	11.6	-
40歳代	116	5.2	72.4	31.0	41.4	-	10.3	3.4	-	-	17.2	10.3	6.0	-
50歳代	148	6.1	78.4	43.9	48.0	6.1	17.6	14.2	2.7	2.0	18.2	9.5	4.7	-
60歳代	165	9.1	83.6	41.8	44.2	7.9	13.3	10.9	1.8	1.2	26.1	8.5	1.8	0.6

#### (4) 認知症に関する講演会などの参加有無

問5 これまでに認知症に関する講演会や催し物に参加したことがありますか。

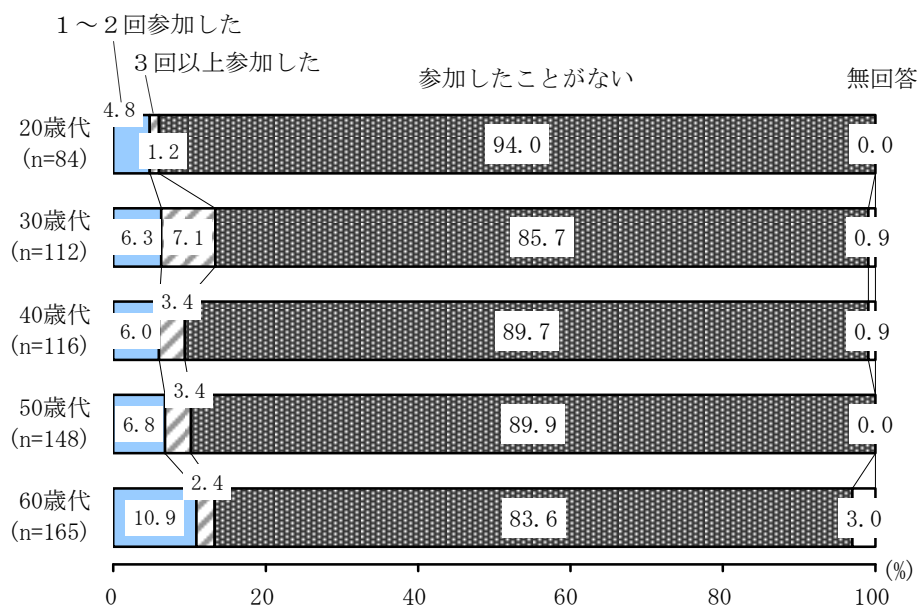
認知症に関する講演会などへの参加状況を見ると、「参加したことがない」が88.1%で最も多くなっている。参加経験のある市民は10.4%で、そのうち「1～2回参加した」が7.0%、「3回以上参加した」が3.4%となっている。(図表 1-2-4①)

【図表 1-2-4① 認知症に関する講演会などの参加有無】



年代別で参加状況を見ると、参加経験のある割合（「1～2回参加した」と「3回以上参加した」を合わせた割合）は、30歳代が13.4%、60歳代が13.3%となっている。これに対し、20歳代は6.0%で最も低くなっている。(図表 1-2-4②)

【図表 1-2-4② 年代別 認知症に関する講演会などの参加有無】

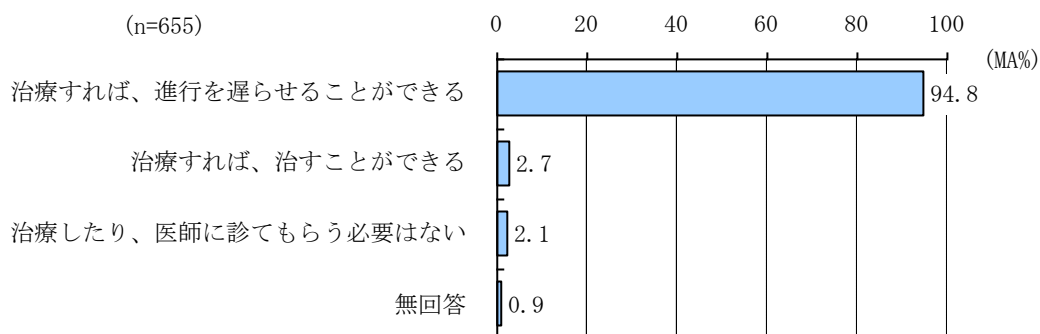


## (5) 認知症治療のイメージ

問6 認知症の治療に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んでください。

認知症治療のイメージは、「治療すれば、進行を遅らせることができる」が94.8%で最も多くなっている。これに比べ「治療すれば、治すことができる」は2.7%、「治療したり、医師に診てもらわなければならない」は2.1%となっている。(図表1-2-5①)

【図表1-2-5① 認知症治療のイメージ】



年代別でも、「治療すれば、進行を遅らせることができる」が年代に関係なく最も多くなっており、年代が上がるとともにその割合が低下している。一方、「治療すれば、治すことができる」は50・60歳代の割合がやや高い。(図表1-2-5②)

【図表1-2-5② 年代別 認知症治療のイメージ】

(MA%)

	n	が治療すれば、治すこと	ら治療すれば、進行を遅	て治療したり、要は医師に診	無回答
20歳代	84	1.2	96.4	2.4	-
30歳代	112	-	97.3	1.8	0.9
40歳代	116	1.7	96.6	1.7	-
50歳代	148	4.1	94.6	2.0	0.7
60歳代	165	4.2	93.3	1.8	1.2

認知症に対する認識程度別でも、「治療すれば、進行を遅らせることができる」が最も多くなっている。(図表 1-2-5③)

【図表 1-2-5③ 認知症の認識程度別 認知症治療のイメージ】

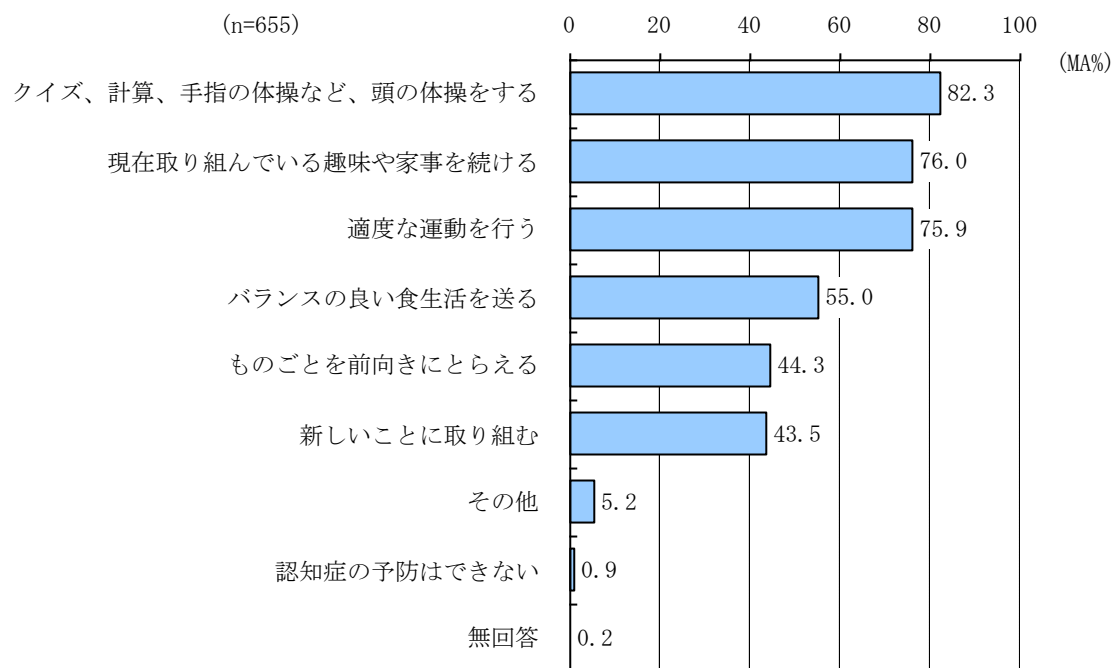
	n	が治療すれば、治すことができる	ら治療すれば、進行を遅らせることができる	ても治療したり、医師に診	無回答
どのような症状の病気かよく知っている	124	3.2	97.6	0.8	0.8
どのような症状の病気かある程度知っている	434	3.0	94.7	2.3	0.2
認知症という言葉ぐらいは知っている	92	1.1	93.5	3.3	2.2
まったく知らない	3	-	66.7	-	33.3

## (6) 認知症予防になること

問7 あなたが、認知症の予防になると思うものは、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

認知症の予防について、「予防はできない」との回答は 0.9%と少なく、大部分の市民は予防できると考えている。予防のための方法として、「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」が 82.3%で最も多く、次いで「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」が 76.0%、「適度な運動を行う」が 75.9%となっている。「バランスの良い食生活を送る」(55.0%)の割合はこれらに比べ 20~30 ポイント程度低くなっている (図表 1-2-6①)

【図表 1-2-6① 認知症予防になること】



認知症の予防について、年代別で見ると、20 歳代では「新しいことに取り組む」や「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」が高くなっているが、「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」や「ものごとを前向きにとらえる」は低くなっている。30 歳代は「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」の割合が高く、40 歳代は「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」や「適度な運動を行う」が多いほか、「バランスの良い食生活を送る」が高くなっている。50 歳代も「適度な運動を行う」「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」が多くなっているが、「新しいことに取り組む」の割合は低い。60 歳代は、「現在取り組んでいる趣味や家事を続ける」の割合が高くなっている。(図表 1-2-6②)

【図表 1-2-6② 年代別 認知症予防になること】

	n	味 現 在 取 り 組 み を 続 け て い る 趣 味	新 し い こ と に 取 り 組 む	適 度 な 運 動 を 行 う	バ ラ ン ス の 良 い 食 生 活 を 送 る	ク イ ズ 、 計 算 、 手 指 の 体 操 を す る	も の ご と を 前 向 き に と ら え る	そ の 他	い 認 知 症 の 予 防 は で き な い	無 回 答
20歳代	84	66.7	53.6	76.2	58.3	88.1	26.2	4.8	1.2	-
30歳代	112	83.0	41.1	75.0	57.1	80.4	43.8	2.7	0.9	-
40歳代	116	74.1	47.4	75.9	60.3	86.2	46.6	9.5	-	-
50歳代	148	72.3	35.8	77.0	52.7	76.4	43.9	4.1	1.4	-
60歳代	165	84.8	44.2	77.0	51.5	82.4	52.1	4.8	1.2	-

認知症の認識程度別でみると、認識程度に関係なく、「クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする」がいずれも最も多くなっている。認知症がどのような病気かよく知っている人では、「適度な運動を行う」や「ものごとを前向きにとらえる」の割合が全体平均に比べ高くなっている。これに対し、言葉ぐらいは知っている人では、これらの割合は低くなっている。(図表 1-2-6③)

【図表 1-2-6③ 認知症の認識程度別 認知症予防になること】

	n	味 現 在 取 り 組 み を 続 け て い る 趣 味	新 し い こ と に 取 り 組 む	適 度 な 運 動 を 行 う	バ ラ ン ス の 良 い 食 生 活 を 送 る	ク イ ズ 、 計 算 、 手 指 の 体 操 を す る	も の ご と を 前 向 き に と ら え る	そ の 他	い 認 知 症 の 予 防 は で き な い	無 回 答
どのような症状の病気かよく知っている	124	76.6	40.3	81.5	57.3	82.3	52.4	8.9	-	-
どのような症状の病気かある程度知っている	434	77.2	44.2	76.3	54.4	84.1	44.0	5.1	1.2	-
認知症という言葉ぐらいは知っている	92	70.7	44.6	67.4	54.3	76.1	35.9	1.1	-	-
まったく知らない	3	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-

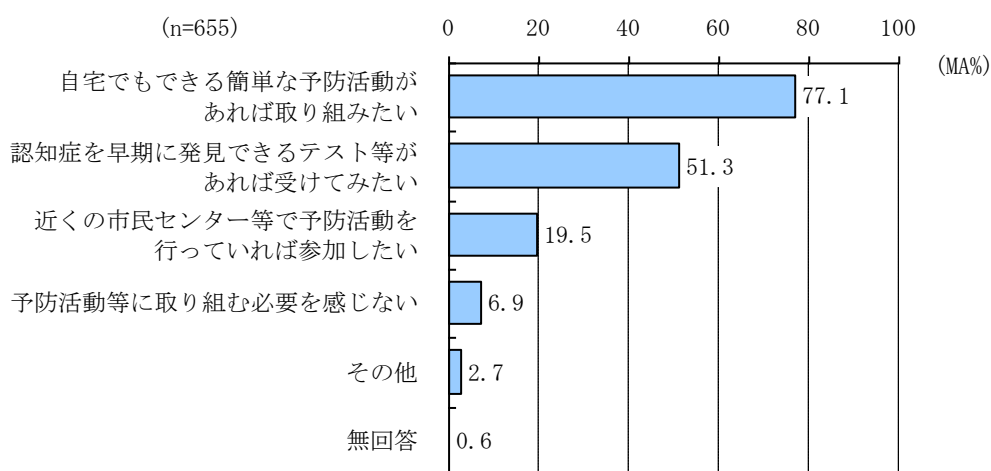


## (7) 認知症予防の取組意向

### 問8 認知症の予防についてどのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症予防について、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が77.1%で最も多い。これに次いで「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」が51.3%、「近くの市民センター等で予防活動を行っていただければ参加したい」が19.5%となっており、認知症予防に前向きに取り組むと考えている市民が多い。(図表 1-2-7①)

【図表 1-2-7① 認知症予防の取組意向】



認知症予防の取組の意向について年代別でみると、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」は、年代に関係なく70%以上の市民が回答し、50歳代で特に高くなっている。「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」も、いずれの各年代も2人に1人に取組意向があり、「近くの市民センター等で予防活動を行っていただければ参加したい」は60歳代の割合が28.5%で最も高くなっている。(図表 1-2-7②)

【図表 1-2-7② 年代別 認知症予防の取組意向】

(MA%)

年代	n	自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい	認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい	近くの市民センター等で予防活動を行っていただければ参加したい	必要を感じない	その他	無回答
20歳代	84	70.2	52.4	11.9	13.1	1.2	-
30歳代	112	69.6	49.1	19.6	8.9	5.4	-
40歳代	116	75.9	53.4	17.2	9.5	3.4	-
50歳代	148	82.4	51.4	16.9	6.1	2.0	0.7
60歳代	165	81.8	53.3	28.5	1.8	1.8	1.2

認知症に対する認識程度別でみると、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」への意向がいずれも高く、特にどのような症状の病気かよく知っているという回答した人の割合が 80.6%で最も高い。また、よく知っているという回答した人では「近くの市民センター等で予防活動を行ってほしい」の割合も高く、積極的に予防に取り組みたいとの意欲がみられる。これに対し、ある程度知っている、もしくは言葉ぐらいい知っているという回答した人では、「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」の割合は高いものの、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」や「近くの市民センター等で予防活動を行ってほしい」の割合は低い。(図表 1-2-7③)

【図表 1-2-7③ 認知症の認識程度別 認知症予防の取組意向】

	n	組 み た い	予 防 活 動 が あ き れ ば 簡 単 な	自 宅 で も あ る 程 度 知 っ て い る	受 け て み たい	き ん ぎ ん な テ ス ト 等 が あ ら ば	認 知 症 を 早 期 に 発 見 し た ら い	近 く の 市 民 セ ン タ ー 等 に 行 き た ら い	必 ず し も 必 要 な 感 動 等 に 取 り 組 む	そ の 他	無 回 答
どのような症状の病気かよく知っている	124	80.6	46.8	31.5	4.8	5.6	-				
どのような症状の病気かある程度知っている	434	78.6	52.8	17.3	6.2	2.1	0.5				
認知症という言葉ぐらいい知っている	92	66.3	52.2	14.1	13	1.1	1.1				
まったく知らない	3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-				

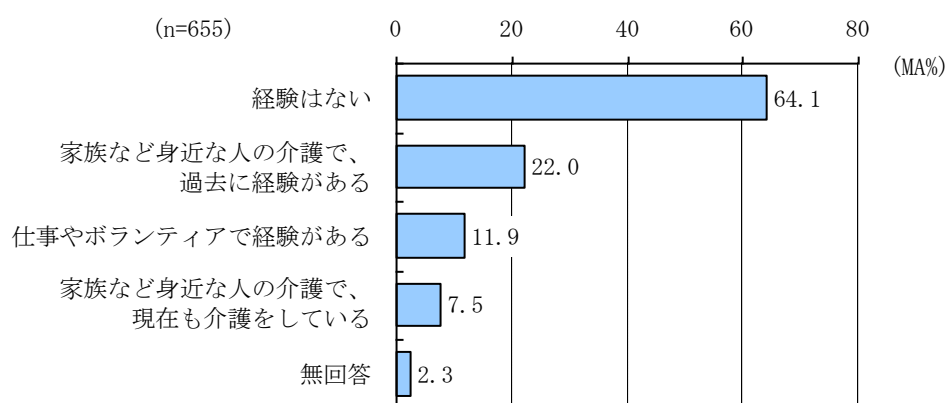
### 3. 本人や本人の家族が認知症になった場合について

#### (1) 認知症の人の介護経験

問9 現在、あるいは過去に認知症の方を介護した経験がありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

認知症の人の介護経験については「経験はない」が 64.1%で最も多い。何らかの経験のある市民は 33.6%で、そのうち「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が 22.0%と多くなっている。「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」は 7.5%となっている。(図表 1-3-1①)

【図表 1-3-1① 認知症の人の介護経験】



年代別で認知症の人の介護経験をみると、20・30歳代は「仕事やボランティアで経験がある」の割合が高く、30歳代では「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」の割合が 24.1%で 60歳代に次いで高くなっている。40歳代は「経験はない」の割合が 72.4%で高く、50歳代は「家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている」の割合が高い。60歳代は、「家族など身近な人の介護で、過去に経験がある」が 29.7%で高くなっている。(図表 1-3-1①)

【図表 1-3-1② 年代別 認知症の人の介護経験】

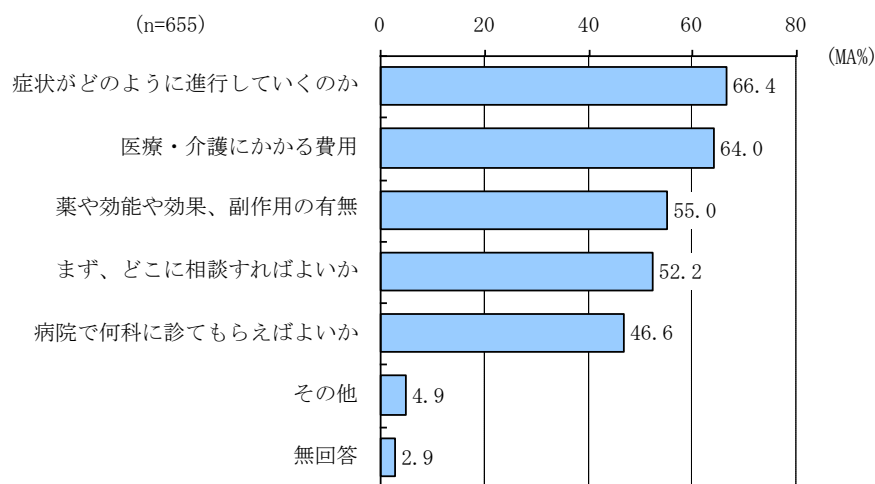
年代	n	家族など身近な人の介護で、過去に経験がある	家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている	仕事やボランティアで経験がある	経験はない	無回答
20歳代	84	11.9	2.4	17.9	67.9	2.4
30歳代	112	24.1	6.3	20.5	60.7	1.8
40歳代	116	16.4	6.0	8.6	72.4	1.7
50歳代	148	23.0	12.2	10.1	62.2	0.7
60歳代	165	29.7	6.7	7.3	60.0	4.2

## (2) 自分や家族が認知症になった場合に気になること

問 10 もし、あなたや、あなたの家族が認知症になった場合、気になる項目は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

自分や家族が認知症になった場合、「症状がどのように進行していくのか」を気にする市民が66.4%で最も多く、次いで「医療・介護にかかる費用」が64.0%となっている。以下、「薬や効能、副作用の有無」が55.0%、「まず、どこに相談すればよいか」(52.2%)や「病院で何科に診てもらえばよいか」(46.6%)となっており、相談先や適切な診療科がわからないという市民が半数前後を占める。(図表 1-3-2①)

【図表 1-3-2① 自分や家族が認知症になった場合に気になること】



年代別では、20歳代は、「薬や効能、副作用の有無」の割合が高いのに対し、「まず、どこに相談すればよいか」「医療・介護にかかる費用」は低い。30歳代は、「症状がどのように進行していくのか」や「医療・介護にかかる費用」の割合が、40歳代は「まず、どこに相談すればよいか」「医療・介護にかかる費用」がそれぞれ高くなっている。50歳代でも「医療・介護にかかる費用」が最も多く、60歳代では費用や症状の進行のほか、「病院で何科に診てもらえばよいか」の割合が高くなっている。(図表 1-3-2②)

【図表 1-3-2② 年代別 自分や家族が認知症になった場合に気になること】

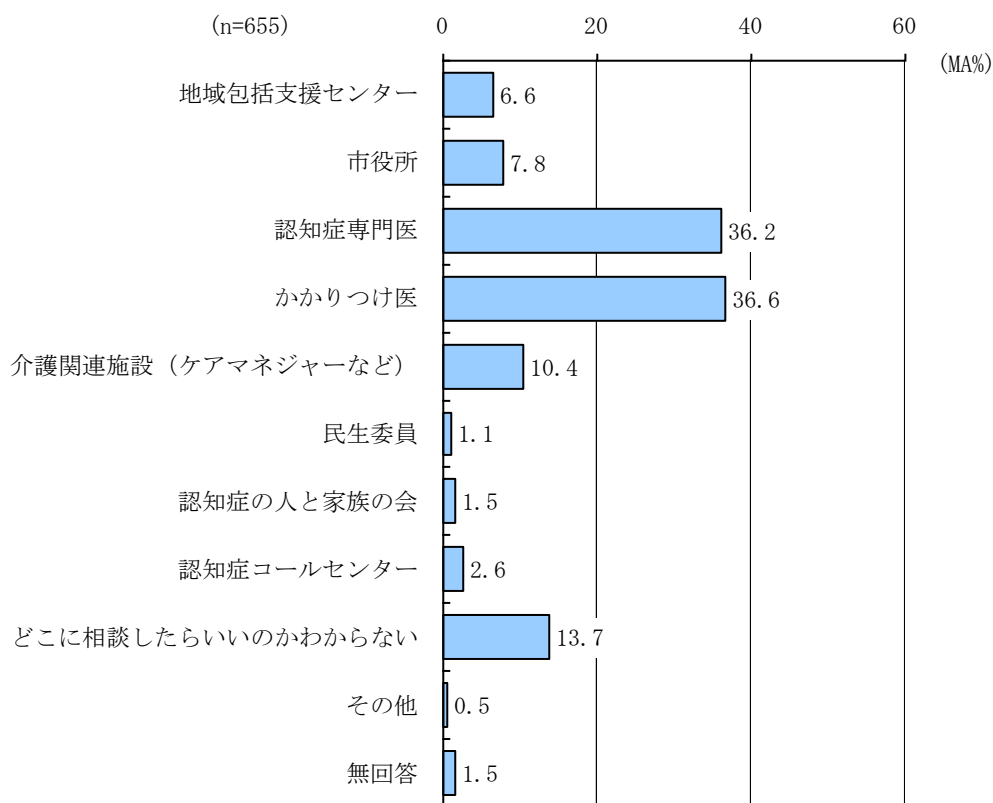
	n	(MA%)						
		まず、どこに相談すればよいか	病院で何科に診てもらえばよいか	症状がどのように進行していくのか	薬や効能や効果、副作用の有無	医療・介護にかかる費用	その他	無回答
20歳代	84	40.5	44.0	61.9	63.1	52.4	2.4	4.8
30歳代	112	50.9	49.1	75.0	54.5	69.6	8.9	1.8
40歳代	116	62.1	44.0	66.4	55.2	69.8	7.8	0.9
50歳代	148	52.0	40.5	62.8	52.0	64.9	5.4	4.1
60歳代	165	50.9	52.7	69.1	57.0	60.0	1.8	3.6

### (3) 認知症の疑いがあった場合の相談機関

問 11 あなたや、あなたの家族に認知症の疑いがあるとき、家族や知人以外では、まず、どこに（だれに）相談すると思いますか。（もっともあてはまるもの1つに○）

認知症の疑いがあった場合の相談先として、「認知症専門医」が36.2%、「かかりつけ医」が36.6%となっており、医師への相談ニーズが高くなっている。一方、「どこに相談したらいいのかわからない」という市民は13.7%となっている。（図表 1-3-3）

【図表 1-3-3 認知症の疑いがある場合の相談機関】



年代別で見ると、20歳代は「かかりつけ医」の割合が46.4%で高く、30歳代は「認知症専門医」「かかりつけ医」が多い。40歳代でも、「認知症専門医」「かかりつけ医」が多いが、「どこに相談したらいいのかわからない」の割合が21.6%で他の年代に比べ高くなっている。50・60歳代でも「認知症専門医」「かかりつけ医」が多く、「市役所」の割合が高い。（図表 1-3-3 ②）

【図表 1-3-3② 年代別 認知症の疑いがある場合の相談機関】

(MA%)

	n	地域包括支援センター	市役所	認知症専門医	かかりつけ医	介護関連施設（ケアマネジャーなど）	民生委員	認知症の人と家族の会	認知症コールセンター	どこに相談したらいいかわからない	その他	無回答
20歳代	84	3.6	2.4	35.7	46.4	6.0	1.2	-	2.4	13.1	-	2.4
30歳代	112	5.4	3.6	37.5	33.9	6.3	-	2.7	0.9	17.0	-	0.9
40歳代	116	4.3	5.2	33.6	31.0	8.6	-	-	0.9	21.6	2.6	-
50歳代	148	8.8	6.8	39.2	37.2	13.5	0.7	0.7	4.7	10.1	-	1.4
60歳代	165	9.1	13.9	30.9	38.8	14.5	3.0	3.0	3.6	10.9	-	3.0

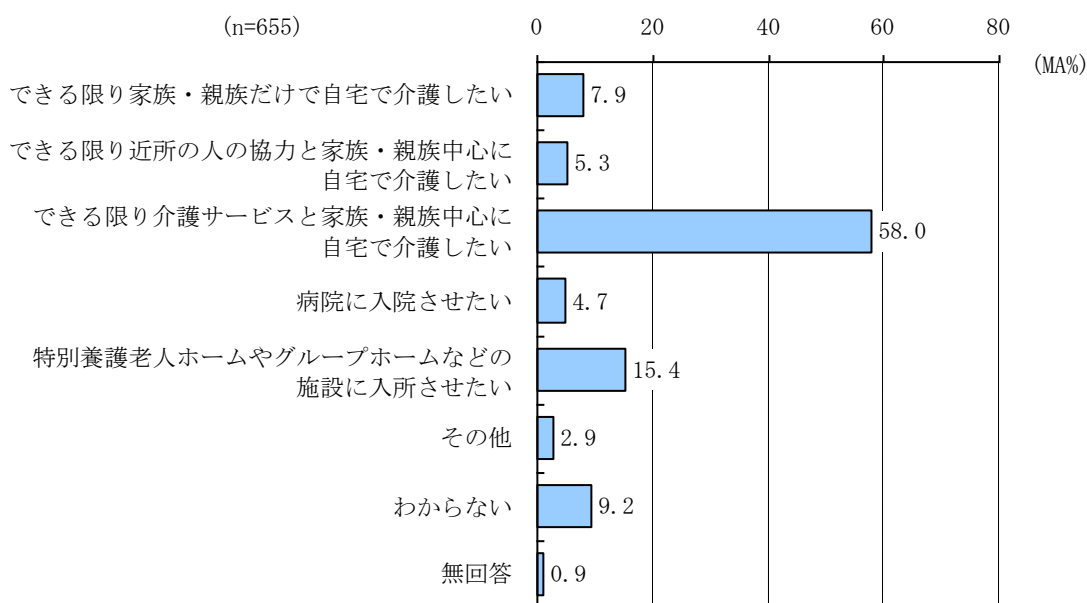
#### (4) 家族が認知症になった場合の介護方法

問12 もし、あなたの家族が認知症になったら、どのように介護したいと考えますか。  
(あなたの考えにもっとも近いもの1つに○)

家族が認知症になった場合、自宅での介護希望が全体の71.2%を占め、そのうち「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」が58.0%で最も多くなっている。

これに対し、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」は15.4%、「病院に入院させたい」は4.7%と少なくなっている。(図表1-3-4①)

【図表1-3-4① 家族が認知症になった場合の介護方法】



年代別では、40・50歳代を除く年代では、自宅での介護希望が7割を超え、特に20歳代で「できる限り家族・親族だけで自宅で介護したい」「できる限り近所の人との協力と家族・親族中心に自宅で介護したい」の割合が高い。30歳代は、「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」の割合が高く、40・50歳代は「わからない」が高い。60歳代は「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」が多い。(図表1-3-4②)

【図表 1-3-4② 年代別 家族が認知症になった場合の介護方法】

		(MA%)													
	n	い だ け で る 自 宅 で 介 護 し た 族	に 自 宅 で 介 護 し た 族 の 中 心	協 力 と 家 族 ・ 近 所 の 人 の 中 心	で き る 限 り 介 護 し た 族 の 中 心	自 宅 で 介 護 し た 族 の 中 心	ス と 家 族 ・ 親 族 の 中 心	で き る 限 り 介 護 し た 族 の 中 心	病 院 に 入 院 さ せ た い	施 設 に 入 所 さ せ た い	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の や	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム の や	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
20歳代	84	11.9	11.9	47.6	3.6	11.9	2.4	8.3	2.4						
30歳代	112	7.1	2.7	67.0	3.6	12.5	5.4	6.3	0.9						
40歳代	116	5.2	5.2	52.6	0.9	17.2	2.6	15.5	0.9						
50歳代	148	6.1	3.4	58.1	4.7	18.2	2.7	13.5	-						
60歳代	165	9.7	4.2	58.8	9.7	15.8	2.4	3.6	1.2						

介護サービスの量と費用負担に対する考え別では、どちらを優先するかに関わらず自宅での介護希望が7割を超えている。「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護したい」割合は、保険料が高くてもサービスの充実を希望する人が61.9%で、保険料が低いほうが良いとする人の割合に比べ高くなっている。また、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」も、保険料が高くてもサービスの充実を希望する人(20.2%)のほうが高くなっている。(図表 1-3-4③)

【図表 1-3-4③ 介護サービスの量と費用負担に対する考え別 家族が認知症になった場合の介護方法】

		(MA%)													
	n	い だ け で る 自 宅 で 介 護 し た 族	に 自 宅 で 介 護 し た 族 の 中 心	協 力 と 家 族 ・ 近 所 の 人 の 中 心	で き る 限 り 介 護 し た 族 の 中 心	自 宅 で 介 護 し た 族 の 中 心	ス と 家 族 ・ 親 族 の 中 心	で き る 限 り 介 護 し た 族 の 中 心	病 院 に 入 院 さ せ た い	施 設 に 入 所 さ せ た い	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の や	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム の や	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い	223	6.3	4.5	61.9	3.1	20.2	1.8	6.3	-						
サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い	188	9.0	7.4	55.3	8.0	16.5	2.1	8.5	-						
わからない	230	9.1	4.8	57.8	3.9	10.4	4.8	11.7	0.4						

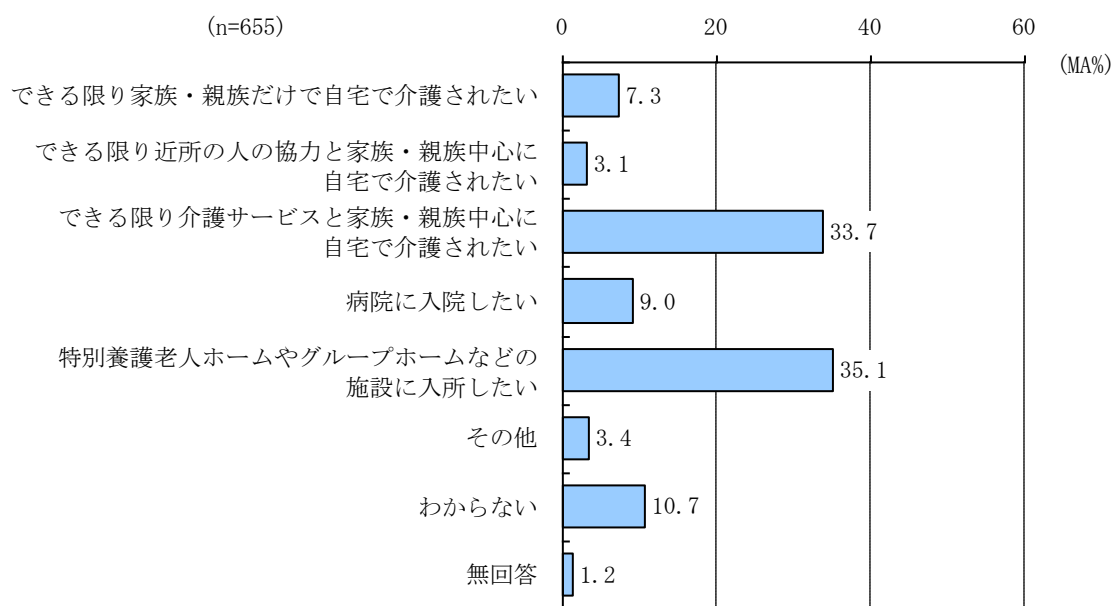


### (5) 自分が認知症になった場合に希望する介護方法

問13 もし、あなたが認知症になったら、どのように介護されたいと思いますか。  
(あなたの考えにもっとも近いもの1つに○)

自分が認知症になった場合は、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が35.1%、「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」が33.7%、となっており、家族の場合と異なり、施設での介護希望が強くなっている。(図表1-3-5①)

【図表1-3-5① 自分が認知症になった場合に希望する介護方法】



年代別では、自分が認知症になった場合、20歳代は「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が多い一方で、「できる限り家族・親族だけで自宅で介護されたい」の割合が高い。30歳代は「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が多い。40歳代は、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」の割合が特に高くなっている。50歳代も「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が多く、60歳代は「できる限り介護サービスと家族・親族中心に自宅で介護されたい」の割合が特に高い。(図表1-3-5②)

【図表 1-3-5② 年代別 自分が認知症になった場合に希望する介護方法】

		(MA%)												
	n	ただ い け で る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	で き る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	に 協 力 を 得 る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	で き る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	自 宅 で 介 護 さ れ た い	ス ト ー リ ン グ を 使 い た い	病 院 に 入 院 し た い	施 設 に 入 所 し た い	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の や	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム の や	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
20歳代	84	15.5	1.2	22.6	9.5	38.1	-	11.9	2.4					
30歳代	112	8.0	0.9	35.7	6.3	33.9	4.5	11.6	0.9					
40歳代	116	4.3	4.3	25.9	7.8	41.4	5.2	12.9	-					
50歳代	148	3.4	2.7	31.8	9.5	39.2	5.4	10.1	2.0					
60歳代	165	8.5	3.6	43.6	9.7	26.7	1.2	9.7	1.2					

介護サービスの量と費用負担に対する考え別では、どちらを優先するかに関わらず「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が最も多くなっている。「できる限り家族・親族だけで自宅で介護されたい」の割合は、保険料が低いほうが良いとする人のほうが、保険料が高くてもサービスの充実を希望する人に比べ高くなっている。(図表 1-3-5③)

【図表 1-3-5③ 介護サービスの量と費用負担に対する考え別 自分が認知症になった場合に希望する介護方法】

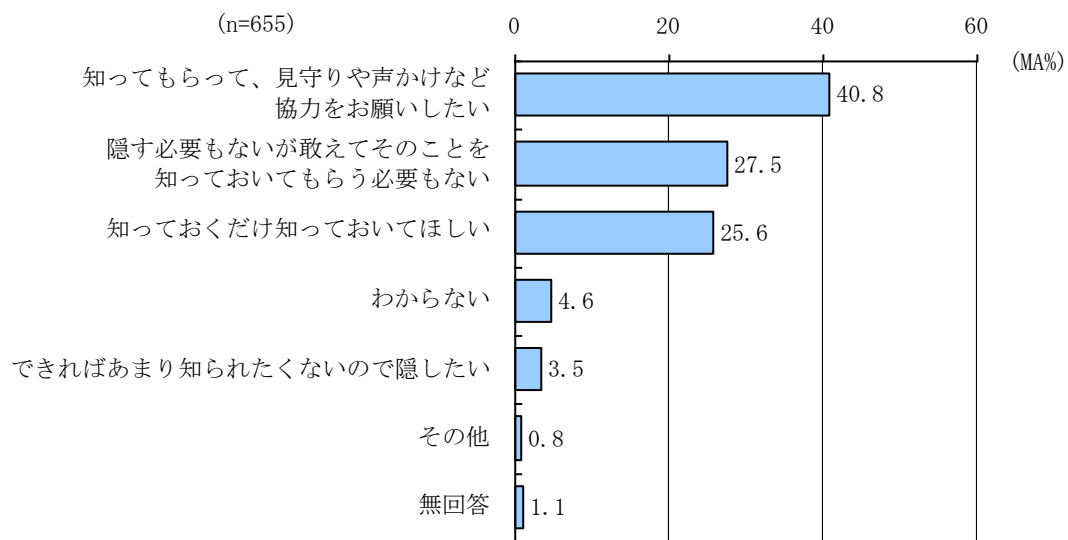
		(MA%)												
	n	ただ い け で る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	で き る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	に 協 力 を 得 る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	で き る 限 り 自 宅 で 介 護 さ れ た い	自 宅 で 介 護 さ れ た い	ス ト ー リ ン グ を 使 い た い	病 院 に 入 院 し た い	施 設 に 入 所 し た い	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の や	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム の や	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い	223	4.9	3.1	36.8	9.9	38.1	1.8	6.7	-					
サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い	188	10.1	4.3	32.4	11.2	36.7	2.1	8.0	0.5					
わからない	230	7.8	2.2	32.6	6.5	31.3	5.7	17.0	0.9					

## (6) 家族が認知症になった場合の近所への通知

問 14 もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人知ってもらおうと思いますか。(もっともあてはまるものに○)

家族が認知症になった場合、近所の人に対し「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が 40.8%で最も多くなっている。これに次いで「隠す必要もないが敢えてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 27.5%、「知っておくだけ知っておいてほしい」が 25.6%となっている。(図表 1-3-6①)

【図表 1-3-6① 家族が認知症になった場合の近所への通知】



年代別では、20歳代は、「隠す必要もないが敢えてそのことを知っておいてもらう必要もない」が 40.5%で最も多い。30歳代は「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が多く、「知っておくだけ知っておいてほしい」の割合が特に高くなっている。40・50歳代は、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が最も多く、60歳代でも、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」が多いほか、「隠す必要もないが敢えてそのことを知っておいてもらう必要もない」の割合が20歳代に次いで高い。(図表 1-3-6②)

【図表 1-3-6② 年代別 家族が認知症になった場合の近所への通知】

(MA%)

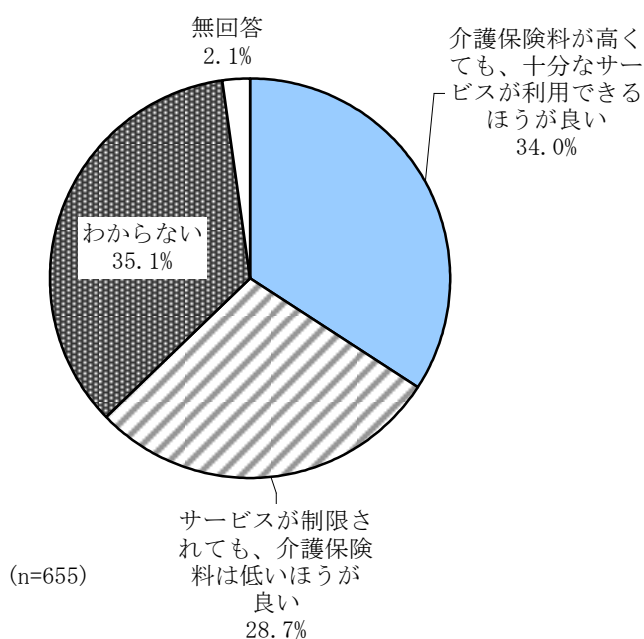
	n	おり知つてほしく、協力を見守りたい	お知つてほしく、ただ知つて	いてそのことを知つておえ	たできないので隠したい	わからない	その他	無回答
20歳代	84	33.3	20.2	40.5	2.4	1.2	-	2.4
30歳代	112	37.5	31.3	27.7	3.6	2.7	-	1.8
40歳代	116	44.0	22.4	25.0	2.6	6.0	-	-
50歳代	148	46.6	28.4	15.5	4.1	8.1	2.0	0.7
60歳代	165	38.2	23.6	32.7	3.6	3.6	1.2	1.2

## (7) 介護サービスの量と費用負担に対する考え

問15 介護サービスの量と費用負担について、あなたの考えに近いものに○をしてください。

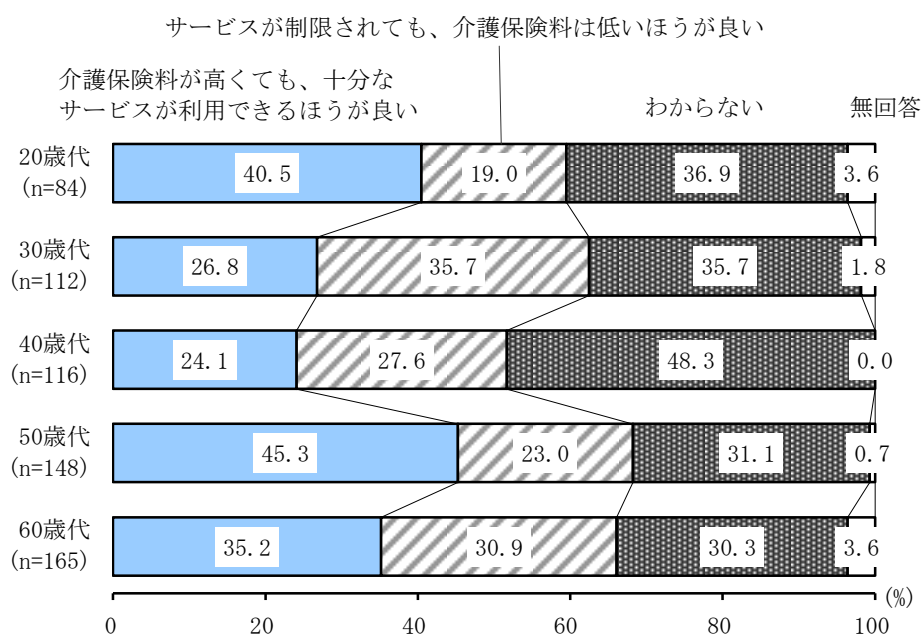
介護サービスの量と費用負担については、「介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い」が34.0%に対し、「サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い」は28.7%、「わからない」は35.1%で、介護サービスの充実を求める意見は回答者の3人に1人である。(図表1-3-7①)

【図表1-3-7① 介護サービスの量と費用負担に対する考え】



年代別で介護サービスの量と費用負担についての考えをみると、20歳代は「介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い」の割合が40.5%で高いのに対し、30歳代は「サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い」の割合が35.7%で高い。40歳代は、「わからない」の割合が48.3%で高い。50歳代は、20歳代同様、「介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い」の割合が45.3%で高い。60歳代は「介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い」が35.2%で最も多いものの、「サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い」「わからない」も3割を占め、考えが分かれている。(図表1-3-7②)

【図表 1-3-7② 年代別 介護サービスの量と費用負担に対する考え】



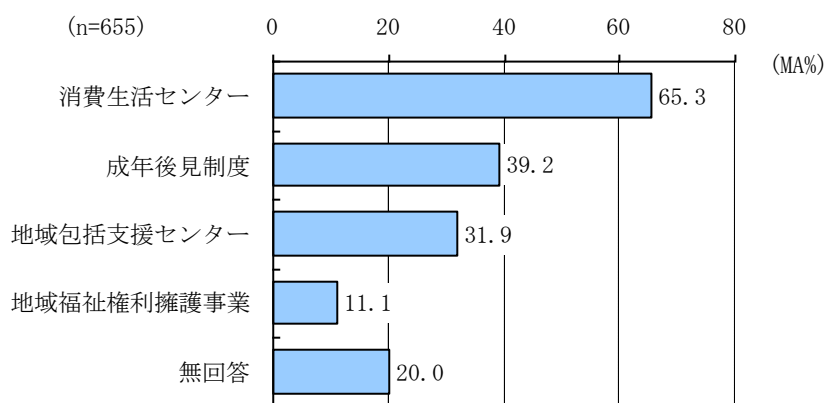
## 4. 認知症に関する制度や支援などについて

### (1) 知っている相談機関・制度

問 16 次の相談機関や制度のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

市民の間では、「消費生活センター」が65.3%で最も知られている。これに次いで「成年後見制度」が39.2%、「地域包括支援センター」が31.9%で、「地域福祉権利擁護事業」は11.1%と最も低くなっている。(図表 1-4-1①)

【図表 1-4-1① 知っている相談機関・制度】



年代別では、20歳代は、「消費生活センター」が最も多いが、その割合は最も低く、「成年後見制度」の割合も他の年代に比べ低い。30歳代も「消費生活センター」が最も多いが、「地域包括支援センター」や「成年後見制度」の割合は低い。40歳代は「消費生活センター」が最も多く、「成年後見制度」の割合は高い。50・60歳代も「消費生活センター」が最も多く、「地域包括支援センター」の割合も高くなっている。(図表 1-4-1②)

【図表 1-4-1② 年代別 知っている相談機関・制度】

	n	(MA%)				
		地域包括支援センター	消費生活センター	地域福祉権利擁護事業	成年後見制度	無回答
20歳代	84	29.8	57.1	11.9	32.1	26.2
30歳代	112	26.8	67.0	11.6	30.4	21.4
40歳代	116	20.7	63.8	10.3	46.6	19.8
50歳代	148	39.9	66.9	8.1	42.6	16.9
60歳代	165	37.6	68.5	13.3	42.4	19.4

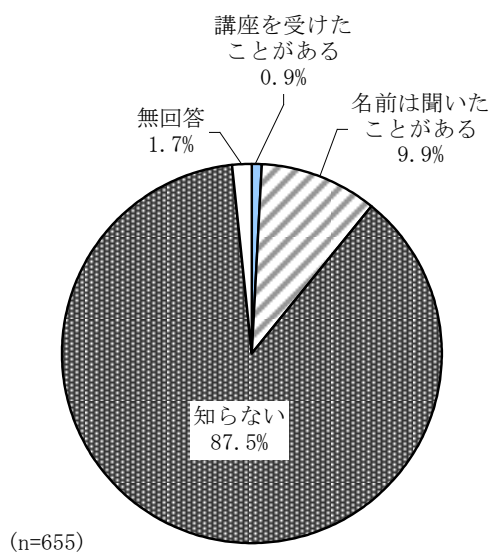
## (2) 認知症サポーター養成講座について

### ①認知状況

問 17 草津市では、「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

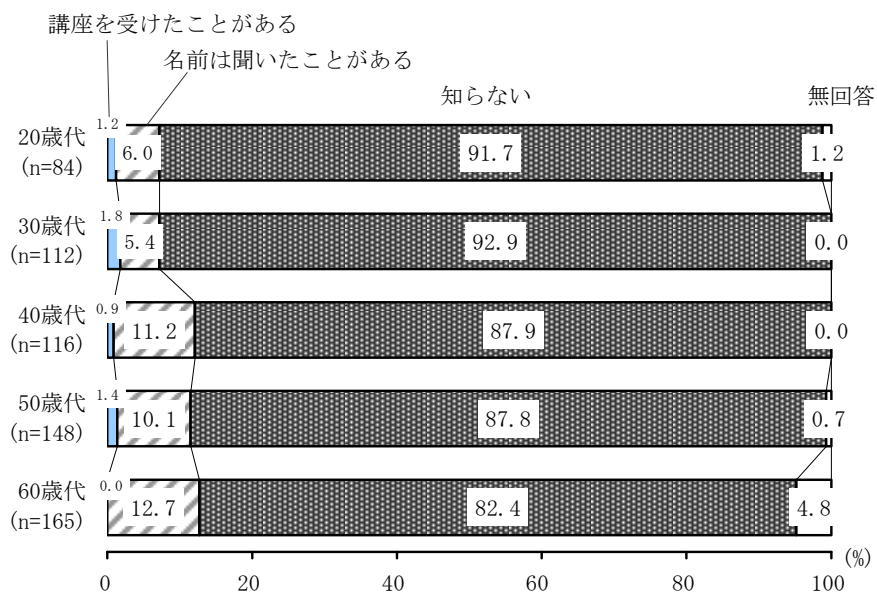
認知症サポーター養成講座を「知らない」が 87.5%で最も多い。これに対し「名前は聞いたことがある」は 9.9%で、「講座を受けたことがある」は、回答者の 0.9%にしか過ぎない。  
(図表 1-4-2①)

【図表 1-4-2① 認知症サポーター養成講座の認知状況】



年代別では、20・30 歳代では認知症サポーター養成講座を「知らない」の割合が9割を占め、「名前は聞いたことがある」の割合は5～6%程度である。40歳以上の各年代でも「知らない」の割合が8割を超えるが、1割程度は「名前は聞いたことがある」と回答している。(図表 1-4-2②)

【図表 1-4-2② 年代別 認知症サポーター養成講座の認知状況】



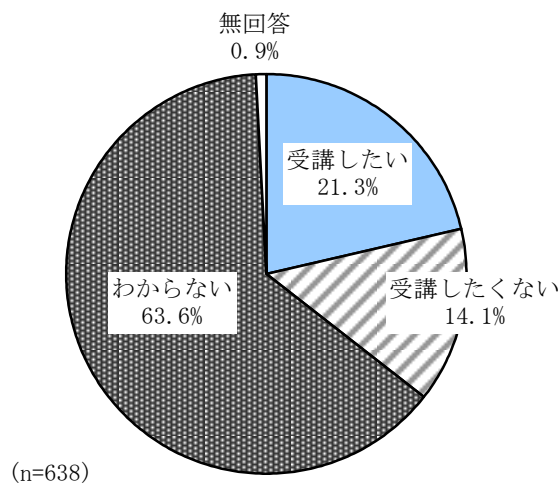


## ②認知症サポーター養成講座の受講意向

問18 問17で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えた方にお聞きします。あなたは「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか。

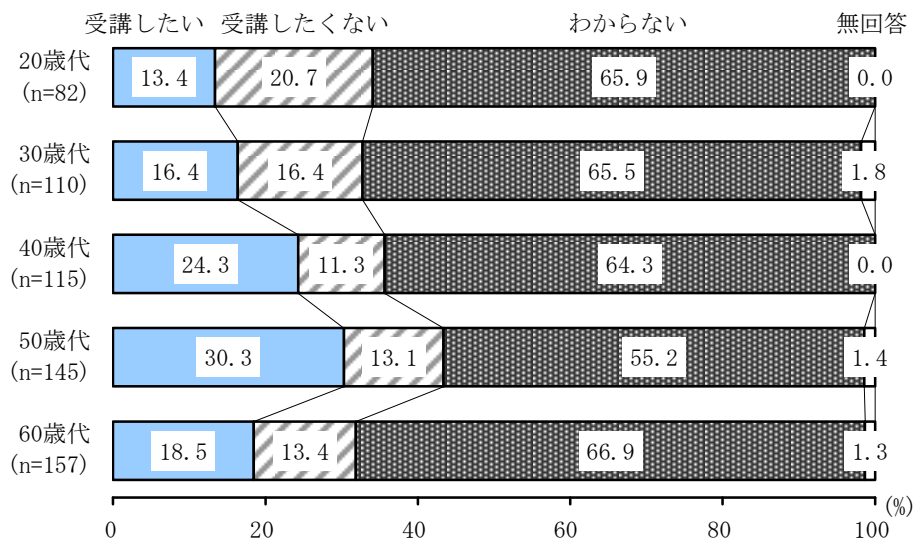
認知症サポーター養成講座を受講したことのない人に受講意向をたずねたところ、63.6%の市民は「わからない」と回答している。一方、「受講したい」は21.3%に対し、「受講したくない」は14.1%となっている。(図表1-4-3①)

【図表1-4-3① 認知症サポーター養成講座の受講意向】



年代別では、「受講したい」の割合は、40・50歳代が高く、特に50歳代では30.3%と最も高くなっている。「受講したくない」の割合は20歳代が20.7%で最も高い。(図表1-4-3②)

【図表1-4-3② 年代別 認知症サポーター養成講座の受講意向】



### (3) 認知症の人に対してできること

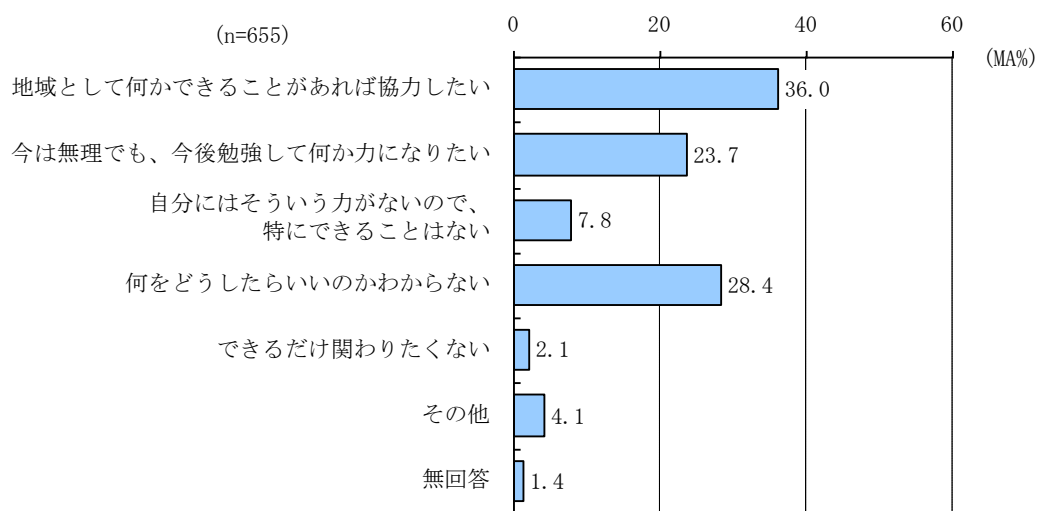
#### ①近所に認知症の人がいた場合の考え・行動

問 19 認知症の方が近所にいた場合、あなたはどう感じ、どう行動したいですか。  
(もっともあてはまるもの1つに○)

近所に認知症の人がいた場合、「地域として何かできることがあれば協力したい」が36.0%で最も多い一方、「何をしたらいいのかわからない」が28.4%でこれに次いで多くなっている。

また、23.7%の市民は、「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」との考えをもっている。(図表 1-4-4①)

【図表 1-4-4① 近所に認知症の人がいた場合の考え・行動】



年代別では、20歳代を除く各年代では、「地域として何かできることがあれば協力したい」が最も多く、特に50歳代が41.2%で最も高い。20歳代は「何をしたらいいのかわからない」が最も多いものの、「地域として何かできることがあれば協力したい」「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」も僅差で多くなっている。(図表 1-4-4②)

【図表 1-4-4② 年代別 近所に認知症の人がいた場合の考え・行動】

	n	いこ地 と域 がと あし れて ば何 協か 力で しき たる	い強今 しは無 理か でも 、今 後勉 強	こな自 とい分 はのには 、そ うに いで う き 力 が	か何を わかど からう ないた らいい の	なでき るだ け関 わり たく ない	そ の 他	無 回 答
20歳代	84	26.2	26.2	9.5	28.6	3.6	6.0	1.2
30歳代	112	36.6	17.0	8.0	30.4	1.8	7.1	1.8
40歳代	116	34.5	25.0	7.8	25.0	2.6	6.0	0.9
50歳代	148	41.2	26.4	4.1	25.7	1.4	1.4	1.4
60歳代	165	35.8	24.2	10.9	30.9	2.4	2.4	1.8

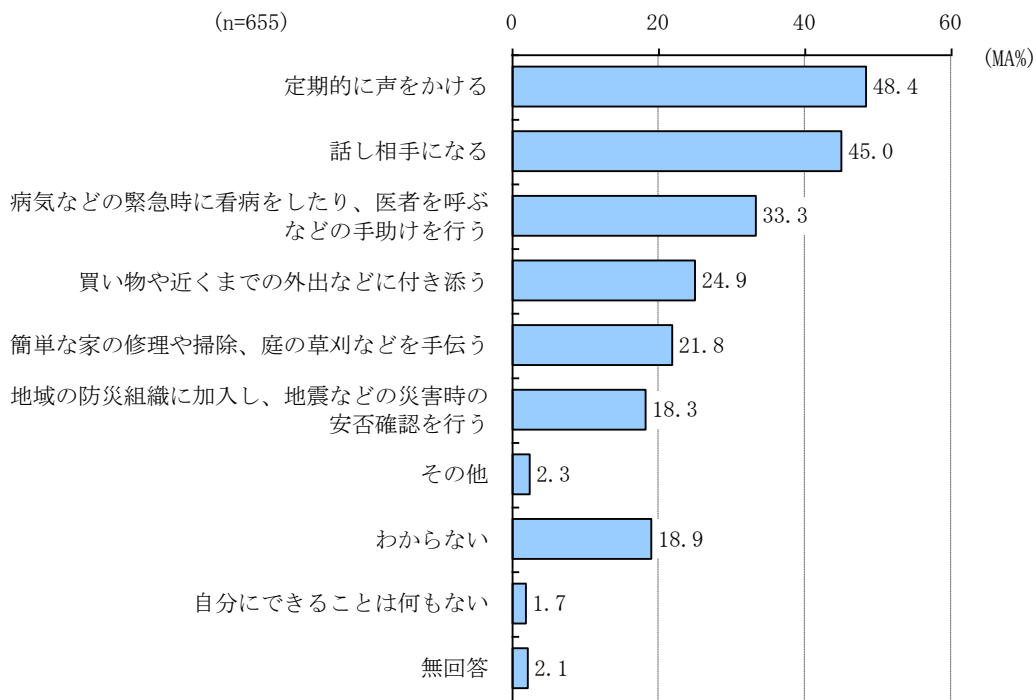
## ②認知症の人とその家族への支援方法

問 20 認知症の方とその家族を支えるとしたら、あなたはどんなことができると思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

### (ア) 認知症の人への支援方法

認知症の人への支援方法として最も多いものは、「定期的に声をかける」(48.4%)で、これに次いで「話し相手になる」が45.0%、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う」が33.3%となっている。(図表 1-4-5①)

【図表 1-4-5① 認知症の人への支援方法】



年代別では、20・30歳代の若い世代での取組意向が高く、いずれの活動内容も、特に20歳代の割合が高い。(図表 1-4-5②)

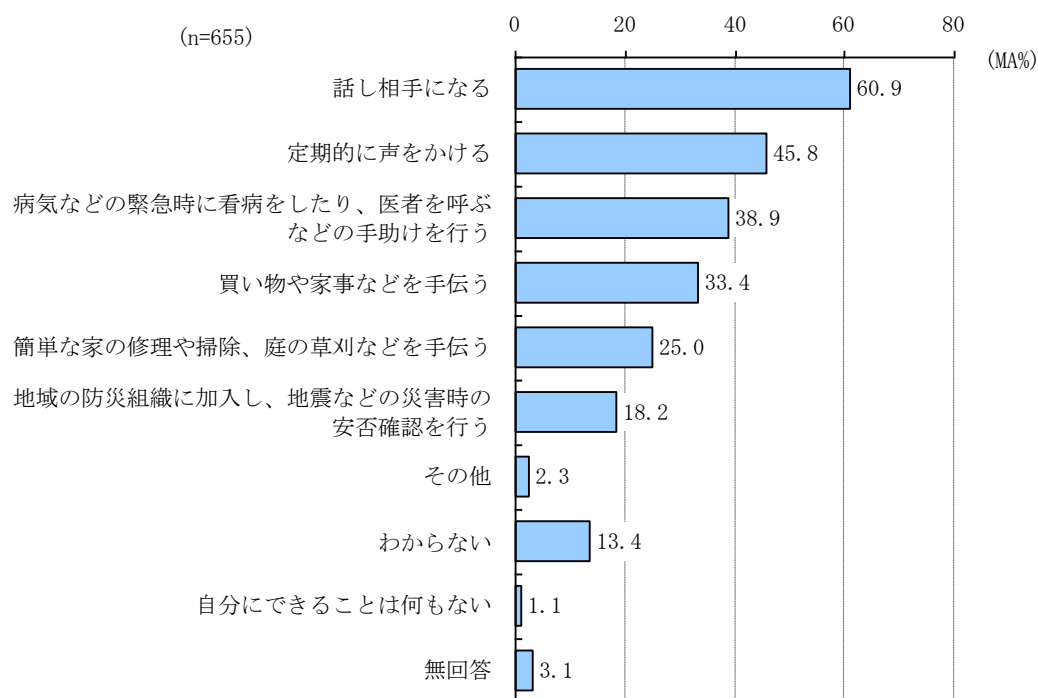
【図表 1-4-5② 年代別 認知症の人への支援方法】

	n	(MA%)									
		話し相手になる	出買ない物にや付近き添うでの外	伝う、庭の草刈修りなどを掃除	ぶ病病、病をのたの、急急時を呼看	定期的	のし地、の安否震防、確認をう	その他	わからない	も	自
20歳代	84	54.8	39.3	32.1	41.7	59.5	25.0	1.2	6.0	2.4	1.2
30歳代	112	53.6	24.1	21.4	38.4	53.6	14.3	0.9	16.1	-	-
40歳代	116	44.0	27.6	25.9	30.2	48.3	14.7	5.2	20.7	2.6	1.7
50歳代	148	39.9	20.9	16.2	27.0	45.9	16.9	1.4	25.7	1.4	2.7
60歳代	165	39.4	20.6	19.4	32.7	43.0	21.2	2.4	21.2	2.4	3.0

### (イ) 家族介護者への支援方法

家族介護者への支援方法として、「話し相手になる」が60.9%で最も多い。これに次いで「定期的に声をかける」が45.8%で、以下、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助けを行う」が38.9%、「買い物や家事などを手伝う」が33.4%となっている。(図表 1-4-6①)

【図表 1-4-6① 家族介護者への支援方法】



年代別では、いずれの活動内容とも20歳代の割合が高い。「話し相手になる」「定期的に声をかける」の各割合は30歳代が最も高い。「話し相手になる」は、30歳代に次いで40歳代の割合が高い。(図表 1-4-6②)

【図表 1-4-6② 年代別 家族介護者への支援方法】

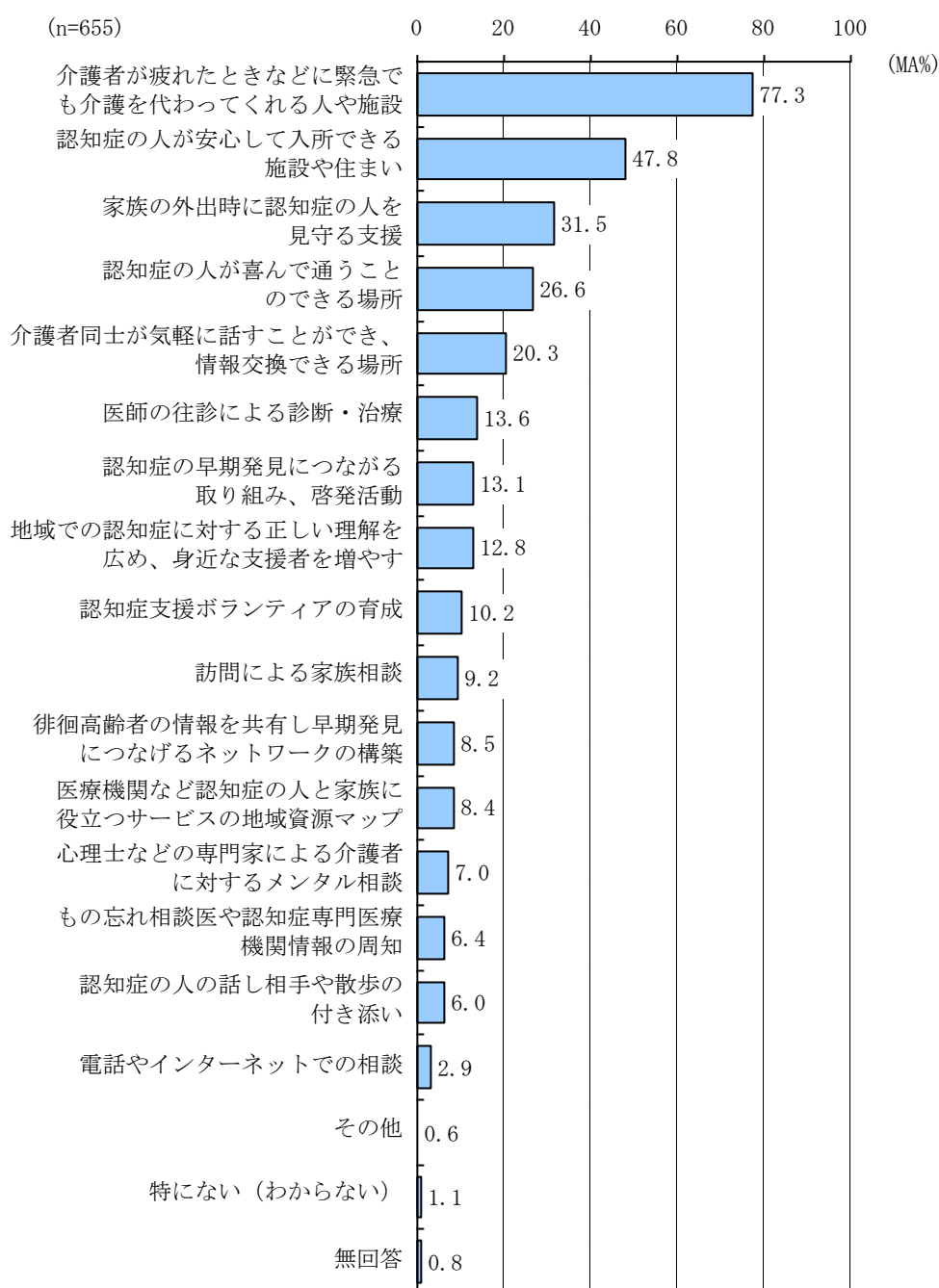
	n	話し相手になる	買い物や家事などを手伝う	簡単な家の草刈や掃除などを手伝う	病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助けを行う	定期的に声をかける	地域の防災組織に加入し、地震などの災害時に安否確認を行う	その他	わからない	自分にできることは何もない	無回答
20歳代	84	69.0	45.2	36.9	52.4	47.6	23.8	-	7.1	1.2	1.2
30歳代	112	74.1	36.6	26.8	41.1	52.7	15.2	0.9	11.6	-	0.9
40歳代	116	66.4	37.1	28.4	40.5	50.0	12.9	2.6	12.1	1.7	1.7
50歳代	148	54.1	27.7	18.9	35.8	45.3	18.2	2.0	17.6	2.0	3.4
60歳代	165	52.7	30.9	22.4	32.1	39.4	20.6	4.8	15.2	0.6	4.8

#### (4) 認知症介護のために必要な支援

問 21 認知症の方の介護を続けていくために必要だと思う支援は何ですか。  
(特に必要だと思うものを3つまで)

認知症介護のために必要な支援は、「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が 77.3%で最も多い。これに次いで「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」が 47.8%で、以下、「家族の外出時に認知症の人を見守る支援」が 31.5%、「認知症の人が喜んで通うことができる場所」が 26.6%、「介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所」が 20.3%となっている。(図表 1-4-7①)

【図表 1-4-7① 認知症介護のために必要な支援】



年代別でみると、「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が  
 いずれの年代でも最も多く、30歳代、50歳代で高くなっている。「認知症の人が安心して入所  
 できる施設や住まい」の割合は40・50歳代が高く、「認知症の人が喜んで通うことができる場  
 所」「介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所」「訪問による家族相談」は  
 30歳代が高い。(図表 1-4-7②)

【図表 1-4-7② 年代別 認知症介護のために必要な支援】

	n	介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設	認知症の人が安心して入所できる施設や住まい	認知症の人が喜んで通うことのできる場所	家族の外出時に認知症の人を見守る支援	医師の往診による診断・治療	医療機関情報医や認知症専門	認知症の人の話し相手や散歩の付き添い	介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所	(MA%)
										地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やす
20歳代	84	77.4	40.5	16.7	33.3	17.9	9.5	6.0	20.2	15.5
30歳代	112	81.3	33.9	33.9	34.8	13.4	8.9	10.7	26.8	16.1
40歳代	116	79.3	53.4	23.3	32.8	11.2	3.4	7.8	25.0	12.9
50歳代	148	80.4	45.9	23.0	29.1	14.9	6.1	1.4	15.5	15.5
60歳代	165	71.5	56.4	29.7	30.3	12.7	6.1	5.5	17.0	8.5

	医療機関など認知症の人と家族に役立つサービスとの地域資源	心理士などの専門家による介護者に対するメンタル相談	徘徊高齢者の情報を共有し早期発見につなげるネットワーク構築	訪問による家族相談	電話やインターネットでの相談	認知症の早期発見につながる取り組み、啓発活動	その他	特にない（わからない）	無回答
20歳代	6.0	11.9	11.9	6.0	6.0	15.5	1.2	-	1.2
30歳代	2.7	6.3	8.0	14.3	2.7	15.2	-	-	0.9
40歳代	7.8	6.0	6.9	9.5	2.6	6.9	0.9	1.7	-
50歳代	8.1	5.4	7.4	10.8	3.4	12.8	-	2.0	-
60歳代	14.5	6.7	9.1	4.8	1.2	15.2	0.6	1.2	1.8

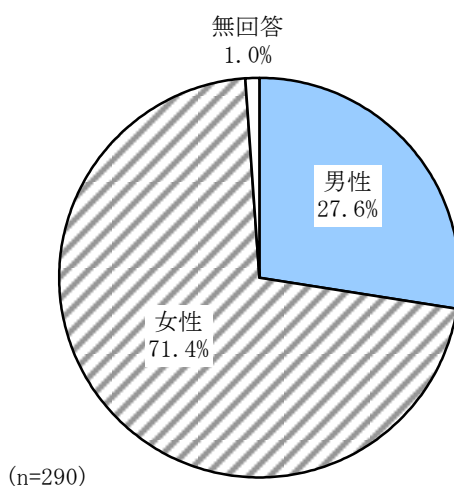
## Ⅱ－3．調査結果（介護家族）

### 1．介護者と介護を受けている人の属性

#### （1）介護者の性別

介護者の性別は、「男性」が 27.6%に対し、「女性」は 71.4%で圧倒的に女性が多い。（図表 2-1-1）

【図表 2-1-1 介護者の性別】

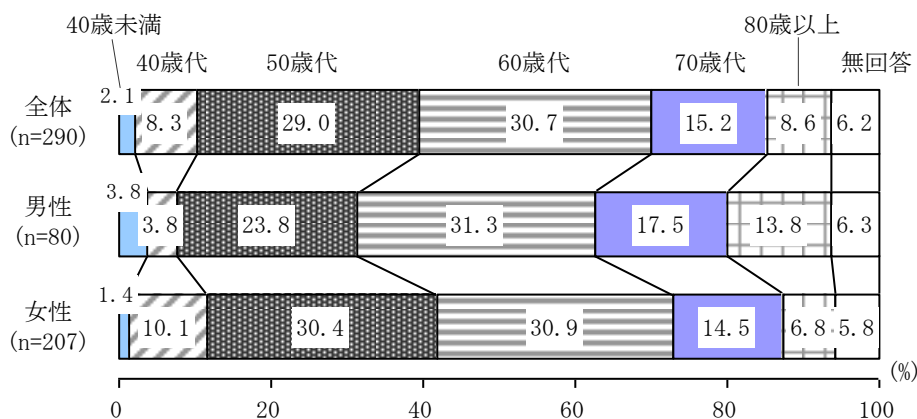


#### （2）介護者の年齢

介護者の年齢は、「60 歳代」が 30.7%で最も多く、次いで「50 歳代」が 29.0%で 50～60 歳代が全体の 59.7%を占める。「70 歳代」(15.2%)、「80 歳」(8.6%) も合わせて 23.8%で、ほぼ 4 人に 1 人となっている。（図表 2-1-2）

性別では、男女とも「60 歳代」の割合が各 30%台で高く、70 歳以上の各年代は女性に比べ男性の割合のほうが高い。一方、女性は「50 歳代」の割合が男性に比べ高くなっている。（図表 2-1-2）

【図表 2-1-2 介護者の性別 介護者の年齢】

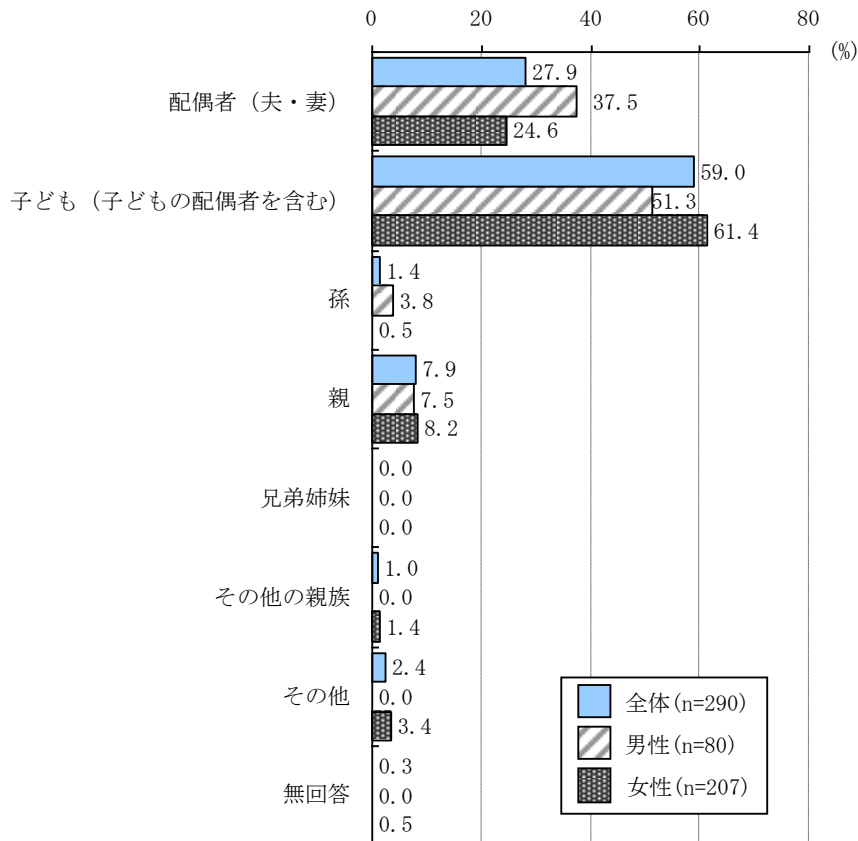


### (3) 介護を受けている人との関係

介護者は、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が59.0%で最も多く、次いで「配偶者（夫・妻）」が27.9%となっている。（図表2-1-3）

男性で「配偶者（妻）」を介護している割合が37.5%、娘（子どもの配偶者含む）が介護している割合は61.4%となっている。（図表2-1-3）

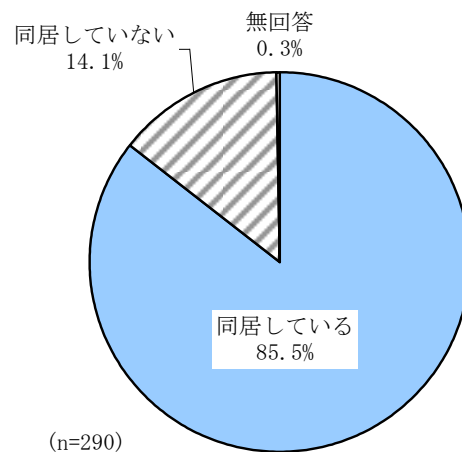
【図表2-1-3 介護を受けている人との関係】



### (4) 介護を受けている人との同居有無

介護を受けている人と「同居している」が85.5%に対し、「同居していない」は14.1%となっている。（図表2-1-4）

【図表2-1-4 介護を受けている人との同居有無】

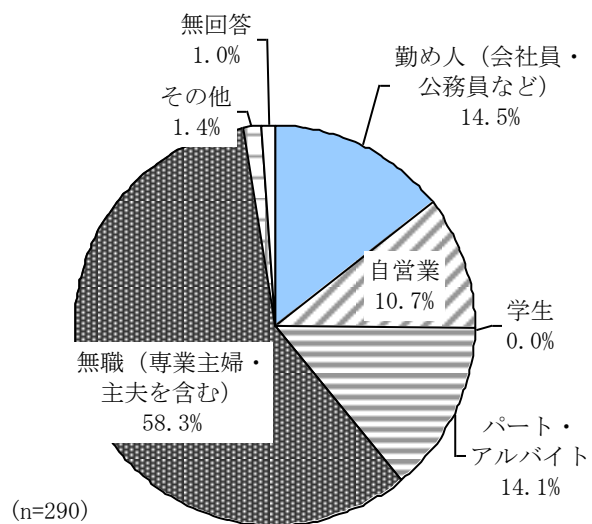




## (5) 介護者の職業

介護者の職業は、「無職（専業主婦・主夫を含む）」が58.3%で最も多い。「勤め人（会社員・公務員など）」が13.4%、「自営業」が10.7%、「パート・アルバイト」が13.9%で就労者は39.3%となっている。（図表 2-1-5）

【図表 2-1-5 介護者の職業】

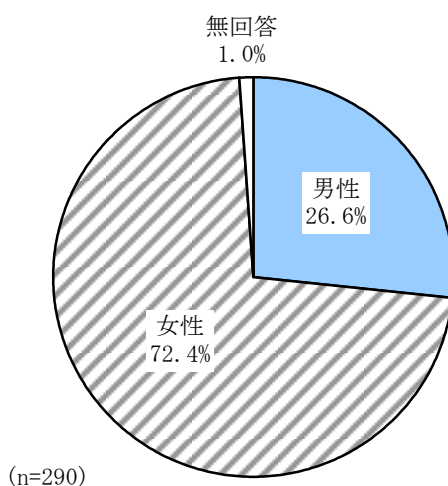


## 2. 介護を受けている人の基本属性

### (1) 介護を受けている人の性別

介護を受けている人の性別は、「男性」が26.6%に対し、「女性」が72.4%で、女性が多くなっている。(図表 2-1-8)

【図表 2-1-8 介護を受けている人の性別】

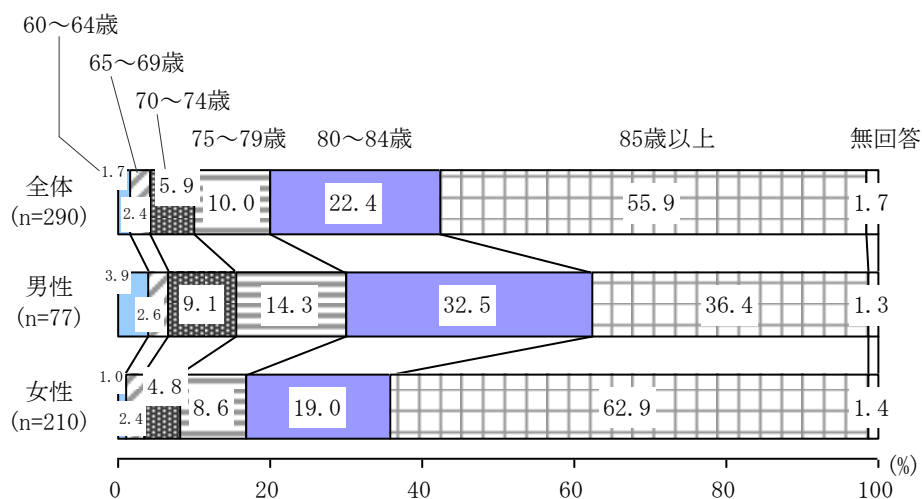


### (2) 介護を受けている人の年齢

介護を受けている人の年齢は、「85歳以上」が55.9%で最も多く、次いで「80～84歳」が22.4%、「75～79歳」が10.0%で、75歳以上の高齢者が88.3%を占める。(図表 2-1-7①)

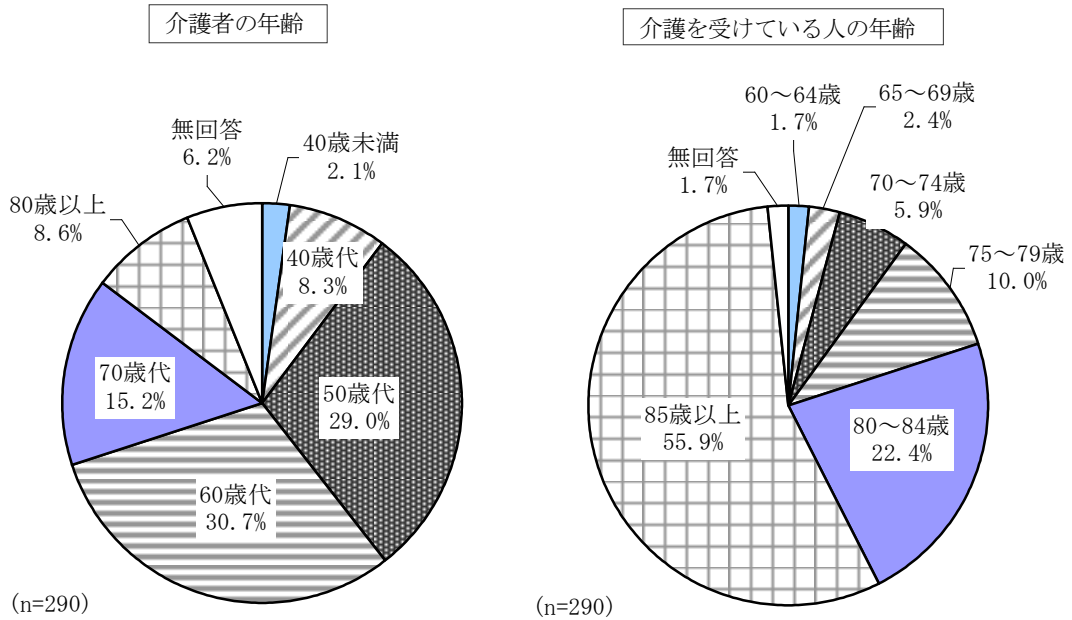
介護を受けている人の性別で見ると、男性の場合、「80～84歳」が32.5%、「85歳以上」が36.4%で、80歳以上が68.9%となっているのに対し、女性の場合は「85歳以上」が62.9%を占めている。(図表 2-1-7①)

【図表 2-1-7① 介護を受けている人の性別 介護を受けている人の年齢】



介護者の年齢と介護を受けている人の年齢を見比べると、介護者は60歳以上が54.5%を占める一方、介護を受けている人は75歳以上が88.3%を占めている。(図表 2-1-7②)

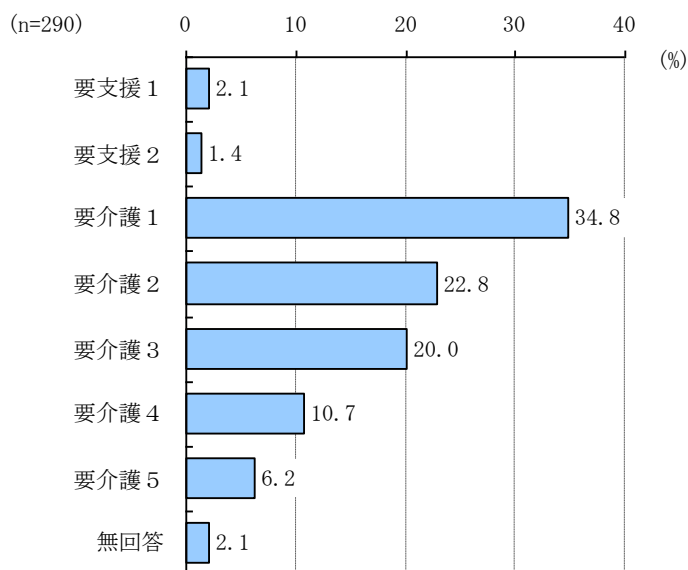
【図表 2-1-7② 介護者の年齢 介護を受けている人の年齢】



### (3) 介護を受けている人の要介護度

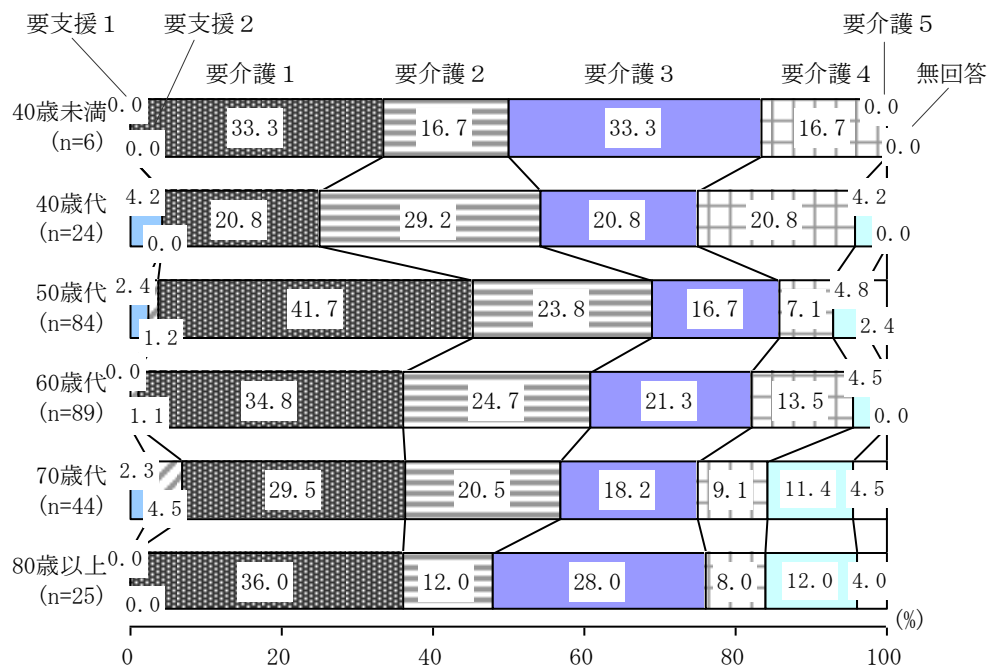
介護を受けている人の要介護度は、「要介護1」が34.8%で最も多く、次いで「要介護2」が22.8%で、要介護1・2が57.6%であるのに対し、要介護3以上は36.8%となっている。(図表 2-1-8①)

【図表 2-1-8① 介護を受けている人の要介護度】



介護者の年齢別でみると、いずれの年代も「要介護1」の人を介護している割合が最も多いが、60歳以上の介護者で要介護3以上の重度の要介護者を介護している人も少なくない。(図表 2-1-8②)

【図表 2-1-8② 介護者の年齢別 介護を受けている人の要介護度】

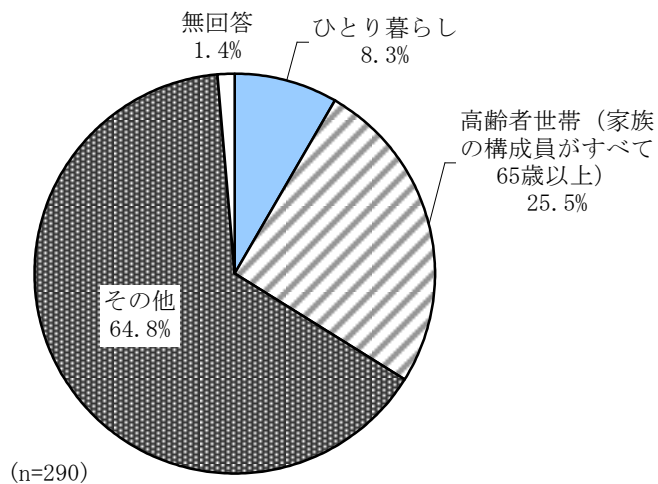


#### (4) 介護を受けている人の家族構成

介護を受けている人の家族構成は、「その他」(子どもとの同居等)が64.8%で最も多い。

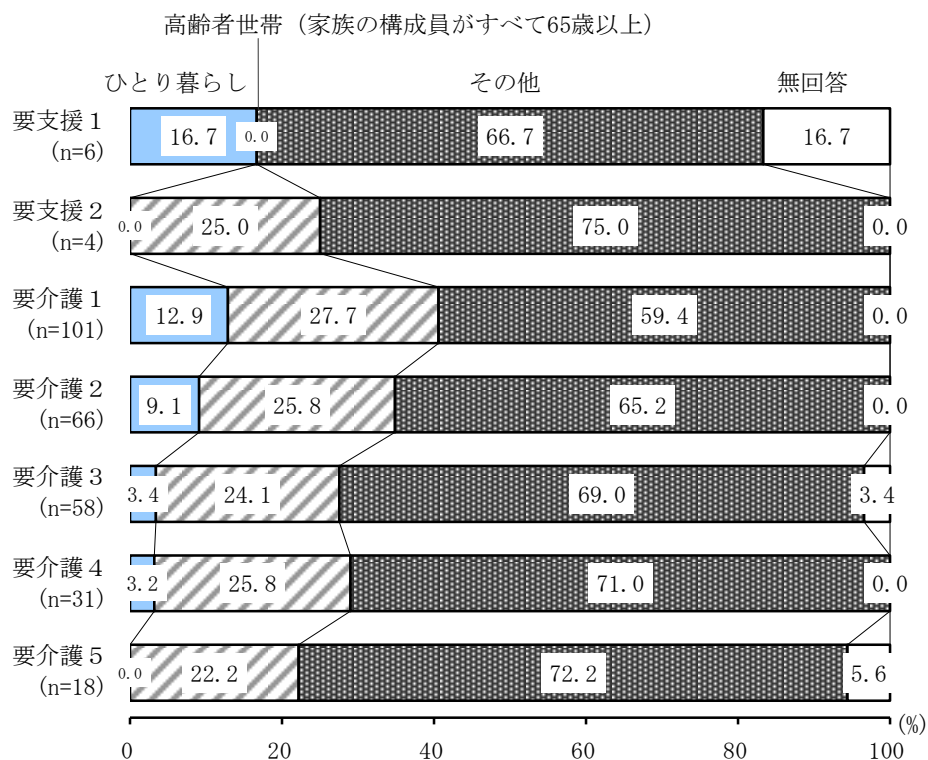
「高齢者世帯(家族の構成員がすべて65歳以上)」は25.5%、「ひとり暮らし」は8.3%で、高齢者のみの世帯が33.8%となっている。(図表2-1-9①)

【図表2-1-9① 介護を受けている人の家族構成】



介護を受けている人の家族構成で、いずれも「その他」(子どもとの同居等)の割合が高い。「ひとり暮らし」の割合は、要介護1が12.9%、要介護2が9.1%となっている。(図表2-1-9②)

【図表2-1-9② 要介護度別 介護を受けている人の家族構成】



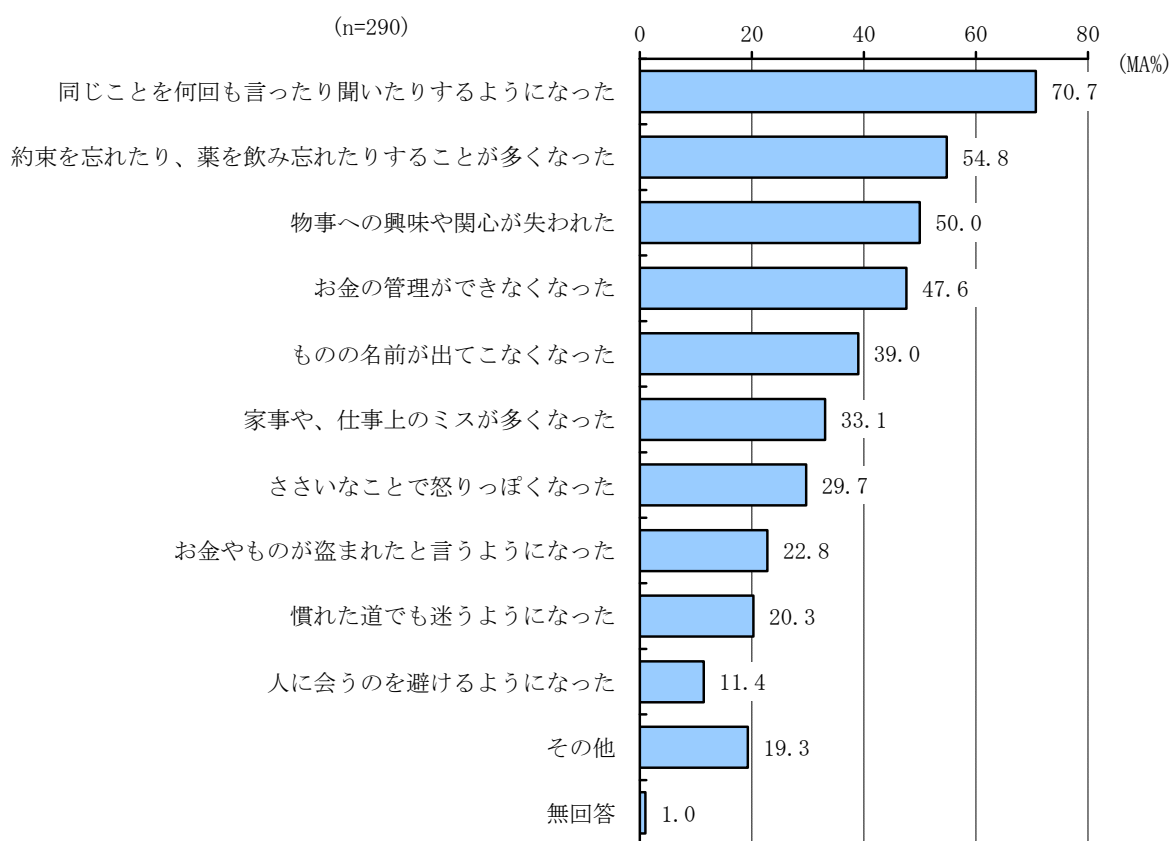
### 3. 認知症の発症から医療機関までのつながりの状況

#### (1) 認知症と思い始めたきっかけ

問3 あなたは、介護を受けておられる方の、どのような様子を見て、認知症ではないかと思  
い始めましたか。(あてはまるものすべてに○)

認知症と思い始めたきっかけは、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」  
が 70.7%で最も多い。これに次いで「約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くな  
った」が 54.8%で、以下、「物事への興味や関心が失われた」(50.0%)、「お金の管理ができ  
なくなった」(47.6%) などとなっている。(図表 2-2-1)

【図表 2-2-1 認知症と思い始めたきっかけ】

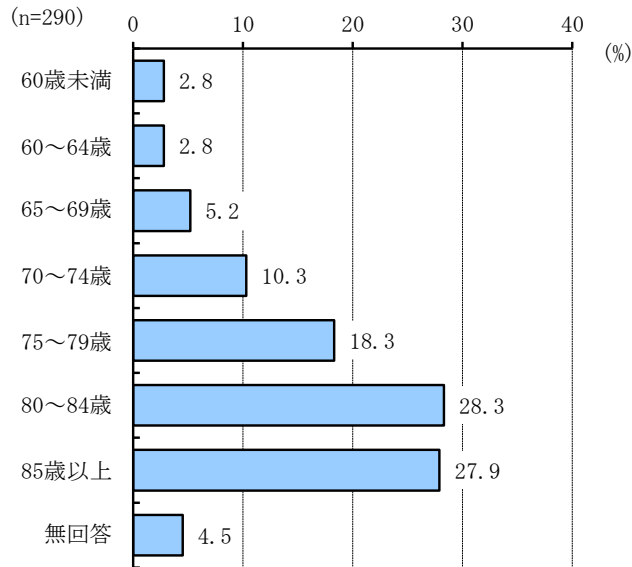


## (2) 認知症の症状がみられ始めた年齢

### 問4 それは、介護を受けておられる方が何歳ごろの時でしたか。

認知症の症状がみられ始めた年齢は、80歳以上が全体の56.2%と半数を占め、そのうち「85歳以上」が27.9%、「80～84歳」が28.3%となっている。「75～79歳」の18.3%を合わせると、75歳以上の高齢者が74.5%となっている。(図表2-2-2①)

【図表2-2-2① 認知症の症状がみられ始めた年齢】



認知症の症状がみられ始めた年齢と認知症と思ひ始めたきっかけとの関係を見ると、サンプル数が少ないので解釈には注意が必要だが、60歳未満では「お金の管理ができなくなった」や「家事や、仕事上のミスが多くなった」が、60～64歳未満では「物事への興味や関心が失われた」がそれぞれ多くなっている。65歳以上の各年代では、「同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった」が最も多くなっており、発症年齢により症状の違いがみられる。(図表2-2-2②)

【図表2-2-1② 認知症の症状がみられ始めた年齢別 認知症と思ひ始めたきっかけ】

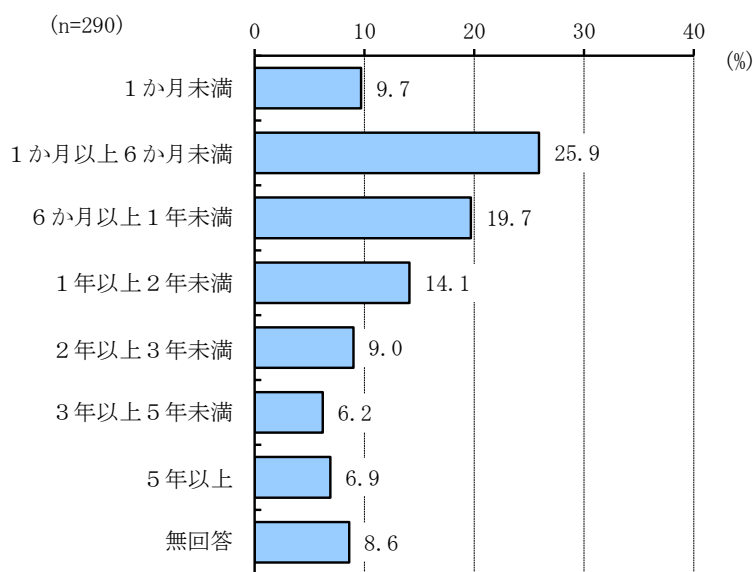
	n	(MA%)																	
		が多くなつた	飲み忘れ	約束を忘れた	にたり聞いたりするようになった	同じことを何回も言ったりするようになった	失われた	物事への興味や関心が	なつた	お金の管理ができなくなった	もの名前が出てこなくなった	慣れた道でも迷うようになった	が多くなつた	家事や、仕事上のミス	ぼささいなことで怒りつ	ささいなことが盗まれた	お金の管理が盗まれた	うに会うのを避けるよ	人に会うのを避けるよ
60歳未満	8	25.0	37.5	12.5	50.0	37.5	37.5	62.5	25.0	37.5	12.5	25.0	-	-	12.5	25.0	12.5	-	
60～64歳	8	25.0	37.5	50.0	12.5	25.0	37.5	37.5	-	-	12.5	25.0	12.5	-	25.0	12.5	-	12.5	
65～69歳	15	33.3	60.0	33.3	33.3	13.3	-	40.0	46.7	-	6.7	33.3	-	-	33.3	-	-	-	
70～74歳	30	56.7	73.3	56.7	63.3	50.0	20.0	30.0	30.0	16.7	20.0	26.7	-	-	26.7	-	-	-	
75～79歳	53	66.0	73.6	41.5	45.3	43.4	28.3	43.4	41.5	17.0	11.3	11.3	-	-	11.3	-	-	-	
80～84歳	82	59.8	73.2	54.9	42.7	40.2	22.0	32.9	24.4	26.8	15.9	22.0	-	-	22.0	-	-	-	
85歳以上	81	51.9	77.8	56.8	56.8	38.3	12.3	25.9	25.9	32.1	3.7	18.5	-	-	18.5	-	-	-	

### (3) 認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間

問5 あなたが、家族・知人以外の専門家に認知症のことで相談したのは、あなたが認知症ではないかと思い始めてからどのくらいの期間ですか。

認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間は、「1か月以上6か月未満」が25.9%で最も多い。これに次いで「6か月以上1年未満」が19.7%となっており、1年以内が全体の55.3%を占める。一方、1年以上経ってから相談した人も36.2%となっている。(図表2-2-3①)

【図表2-2-3① 認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間】



認知症の症状がみられ始めた年齢と専門家に相談するまでの期間との関係を見ると、いずれの年代も5割以上が1年未満内に専門家への相談を行っている。一方、70歳以上の各年代では、認知症の症状がみられ始めてから専門家への相談に至るまでに1年以上かかっている人も4割前後存在する。(図表2-2-3②)

【図表2-2-3② 認知症の症状がみられ始めた年齢別 認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間】

	n	(%)							
		1か月未満	6か月未満	1年以上6か月未満	2年以上1年未満	3年以上2年未満	5年以上3年未満	5年以上	無回答
60歳未満	8	25.0	37.5	12.5	-	12.5	-	12.5	-
60～64歳	8	25.0	25.0	25.0	12.5	-	-	-	12.5
65～69歳	15	26.7	33.3	6.7	20.0	6.7	-	6.7	-
70～74歳	30	3.3	26.7	23.3	20.0	6.7	6.7	3.3	10.0
75～79歳	53	7.5	22.6	22.6	11.3	11.3	5.7	13.2	5.7
80～84歳	82	11.0	29.3	19.5	12.2	12.2	7.3	7.3	1.2
85歳以上	81	7.4	23.5	22.2	17.3	6.2	8.6	4.9	9.9

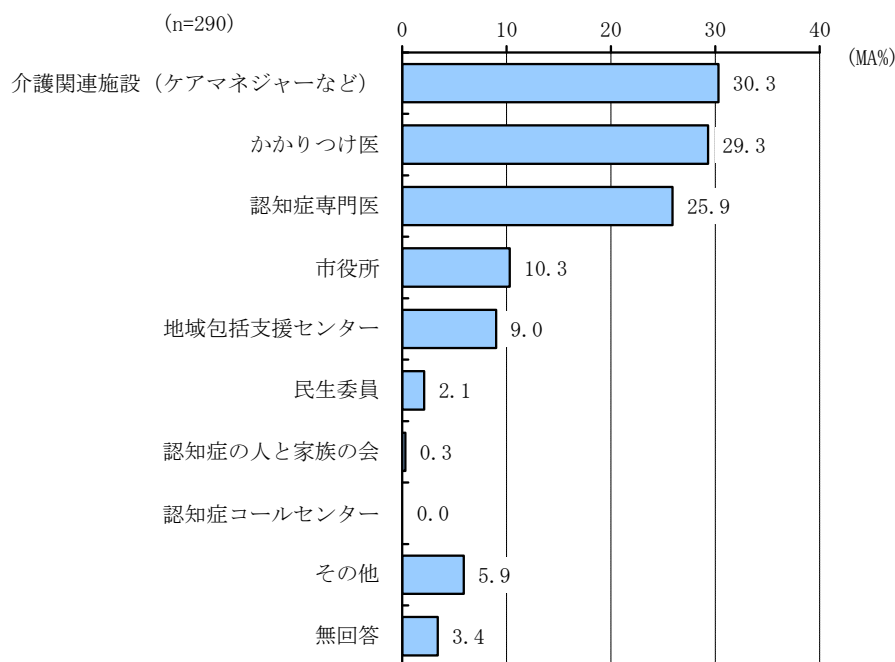


#### (4) 認知症を最初に相談した機関

##### 問6 家族・知人以外で最初に、認知症の相談をしたところはどこですか。

家族・知人以外に認知症を最初に相談した人・機関は、対象者が介護保険サービス利用者であることから、「介護関連施設（ケアマネジャーなど）」が 33.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医」が 29.3%、「認知症専門医」が 25.9%となっている。（図表 2-2-4①）

【図表 2-2-4① 認知症を最初に相談した機関】



認知症と思い始めてから専門家に相談に至った期間が6か月未満では、その相談先として「かかりつけ医」や「認知症専門医」が多くなっているが、6か月を超えると「介護関連施設（ケアマネジャーなど）」のほうが多くなっている。（図表 2-2-4②）

【図表 2-2-4② 認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間別 認知症を最初に相談した機関】

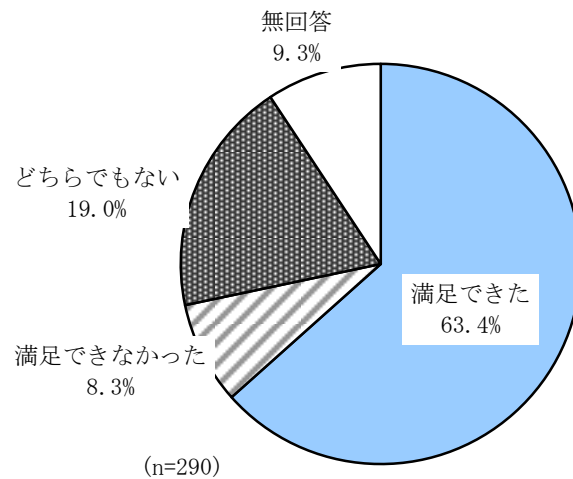
	n	(MA%)									
		地域包括支援センター	市役所	認知症専門医	かかりつけ医	介護関連施設（ケアマネジャーなど）	民生委員	認知症の人と家族の会	認知症コールセンター	その他	無回答
1か月未満	28	21.4	7.1	25.0	46.4	17.9	3.6	-	-	7.1	-
1か月以上6か月未満	75	10.7	8.0	34.7	30.7	20.0	1.3	-	-	6.7	-
6か月以上1年未満	57	3.5	17.5	22.8	26.3	33.3	1.8	-	-	7.0	1.8
1年以上2年未満	41	12.2	7.3	22.0	24.4	39.0	2.4	-	-	4.9	2.4
2年以上3年未満	26	7.7	11.5	26.9	26.9	42.3	-	3.8	-	3.8	-
3年以上5年未満	18	11.1	16.7	38.9	11.1	33.3	5.6	-	-	-	-
5年以上	20	5.0	10.0	20.0	30.0	55.0	-	-	-	5.0	-

## (5) 相談結果の満足度

問7 相談の結果は、満足できましたか。

家族・知人以外に相談した結果に対し、「満足できた」が63.4%に対し、「満足できなかった」は8.3%、「どちらでもない」が19.0%で満足している人が多い。(図表2-2-5)

【図表2-2-5 相談結果の満足度】

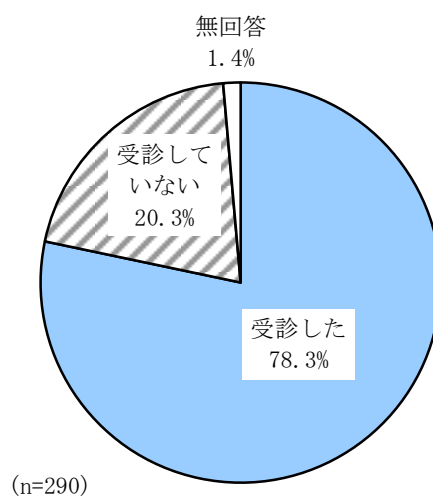


## (6) 認知症について病院の受診有無

問8 介護を受けておられる方は認知症について病院に受診をし、診断を受けられましたか。

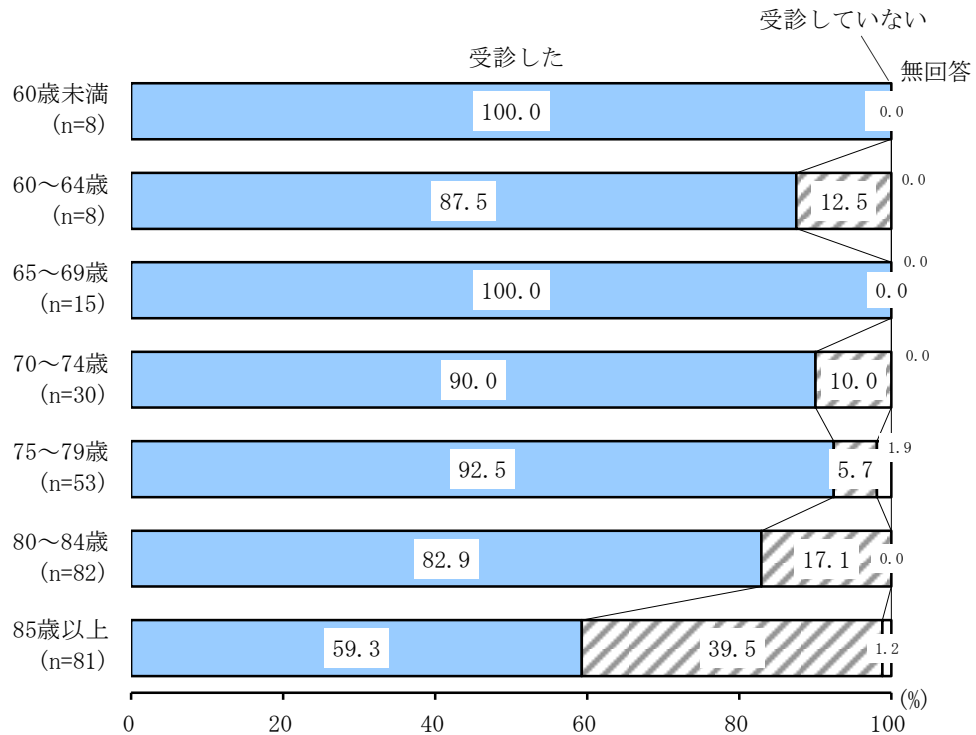
認知症について病院を「受診した」が78.3%と大部分を占めるが、「受診していない」は20.3%で、未受診者も回答者の5人に1人となっている。(図表2-2-6①)

【図表2-2-6① 病院の受診有無】



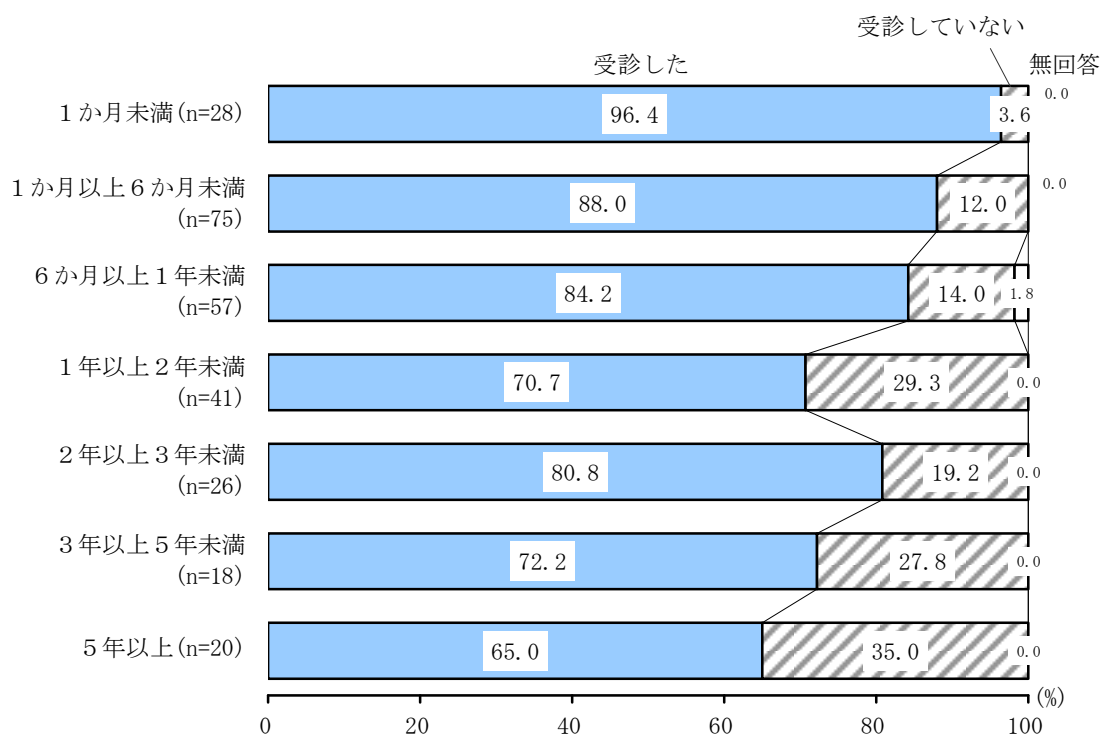
認知症の症状がみられ始めた年齢が80歳以上で「受診した」割合が低く、85歳以上の39.5%は「受診していない」と回答している。(図表 2-2-6②)

【図表 2-2-6② 認知症の症状がみられ始めた年齢別 病院の受診有無】



認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間が長くなるほど「受診していない」割合が上昇する傾向がみられ、3年以上では3割前後を占めている。(図表 2-2-6③)

【図表 2-2-6③ 認知症と思い始めてから専門家に相談するまでの期間別 病院の受診有無】



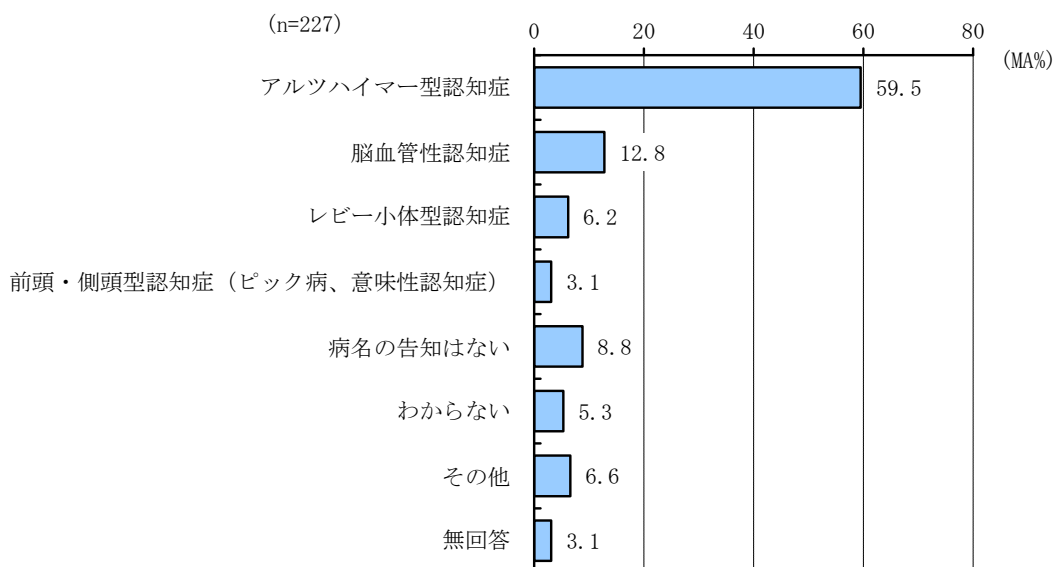
(7) 認知症について病院を受診した人の状況

①認知症の病名

問9 問8で「1. 受診した」を回答した方のみお答えください。  
認知症の病名は次のどれですか。

病院を受診した人に認知症の病名をたずねたところ、「アルツハイマー型認知症」が59.5%で最も多い。これに次いで「脳血管性認知症」が12.8%、「レビー小体型認知症」が6.2%となっている。(図表 2-2-7①)

【図表 2-2-7① 認知症の病名】



認知症の症状がみられ始めた年齢別でみると、いずれも「アルツハイマー型認知症」が多くなっている。サンプル数が少ないので解釈に注意を要するが、60歳未満では「脳血管性認知症」の割合が高い。(図表 2-2-7②)

【図表 2-2-7② 認知症の症状がみられ始めた年齢別 認知症の病名】

	n	アルツハイマー型認知症	脳血管性認知症	レビー小体型認知症	前頭・側頭型認知症 (ピック病、意味性認知症)	病名の告知はない	わからない	その他	無回答
60歳未満	8	37.5	25.0	12.5	-	-	25.0	-	-
60～64歳	7	42.9	14.3	14.3	14.3	-	28.6	-	14.3
65～69歳	15	60.0	20.0	6.7	6.7	6.7	-	6.7	-
70～74歳	27	63.0	11.1	7.4	3.7	11.1	-	11.1	-
75～79歳	49	69.4	12.2	2.0	4.1	4.1	6.1	6.1	-
80～84歳	68	60.3	10.3	10.3	1.5	8.8	2.9	7.4	2.9
85歳以上	48	56.3	12.5	2.1	2.1	14.6	4.2	6.3	6.3

## ②認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間

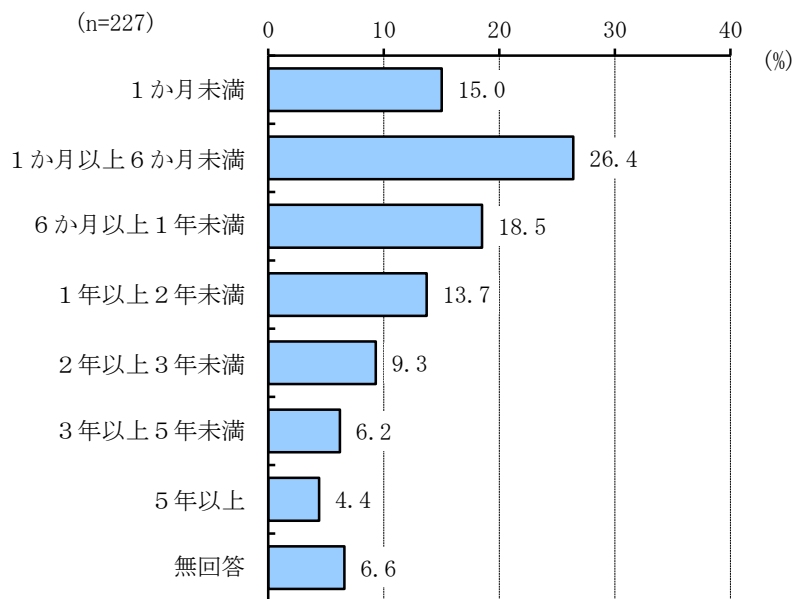
問10 問8で「1. 受診した」を回答した方のみお答えください。

介護を受けておられる方が、病院に受診されたのは、認知症ではないかとあなたが思い始めてからどのくらいの期間ですか。

病院を受診した人に認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間をたずねた。

「1か月以上6か月未満」が26.4%で最も多く、次いで「6か月以上1年未満」が18.5%で、1年未満が全体の59.9%を占めている。一方、1年以上が33.6%で、そのうち3年以上経ってから受診した高齢者が10.6%（うち5年以上4.4%）となっている。（図表2-2-8）

【図表2-2-8 認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間】

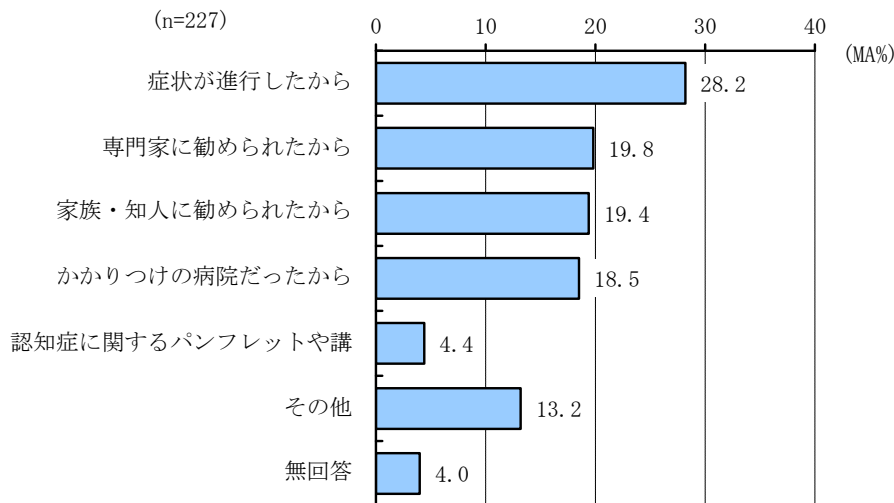


### ③認知症と思い始めてから病院の受診にいたった理由（きっかけ）

問11 問8で「1. 受診した」を回答した方のみお答えください。  
受診にいたった理由（きっかけ）は何ですか。

病院を受診した人に受診にいたった理由をたずねたところ、「病状が進行したから」が28.2%で最も多い。これに次いで「専門家に勧められたから」が19.8%、「家族・知人に勧められたから」19.4%、「かかりつけの病院だったから」が18.5%となっている。（図表 2-2-9 ①）

【図表 2-2-9① 認知症と思い始めてから病院の受診にいたった理由（きっかけ）】



認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間と病院受診にいたった理由との関係を見ると、受診に至るまでの期間が1か月未満の場合は、家族や知人、専門家に勧められたとの回答が多く、1か月を超えると「病状が進行したから」のほうが多くなっている。（図表 2-2-9 ②）

【図表 2-2-9② 認知症と思い始めてから病院を受診するまでの期間別 認知症と思い始めてから病院の受診にいたった理由（きっかけ）】

	n	(MA%)						
		た家族から・知人に勧められた	ら専門家に勧められたか	症状が進行したから	たかかりつけの病院だった	診レツ知症に關するパンフレットや講	その他	無回答
1か月未満	34	20.6	23.5	17.6	20.6	5.9	23.5	-
1か月以上6か月未満	60	23.3	15.0	28.3	18.3	3.3	15.0	1.7
6か月以上1年未満	42	16.7	28.6	23.8	19.0	2.4	14.3	-
1年以上2年未満	31	19.4	16.1	25.8	22.6	6.5	3.2	9.7
2年以上3年未満	21	23.8	28.6	47.6	-	-	9.5	9.5
3年以上5年未満	14	7.1	-	57.1	21.4	7.1	14.3	-
5年以上	10	10.0	20.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-

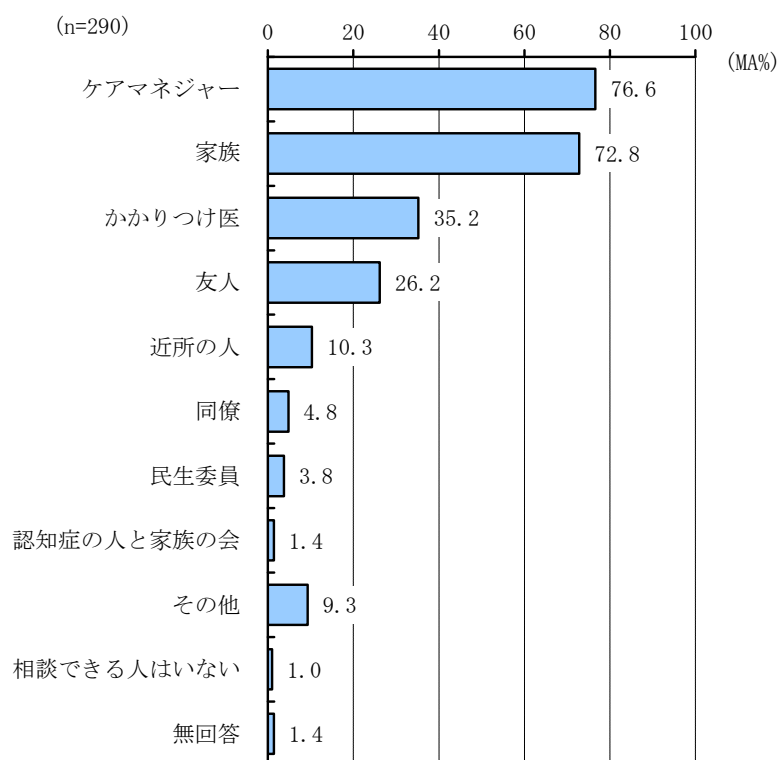
## 4. 相談相手と周囲とのかかわりについて

### (1) 介護の悩みを相談できる相手

問12 あなたは、介護の悩みを相談できる人がいますか。(あてはまるものすべてに○)

介護の悩みを相談できる相手は、「ケアマネジャー」が76.6%で最も多く、次いで「家族」が72.8%となっている。以下、「かかりつけ医」が35.2%、「友人」が26.2%、「近所の人」が10.3%となっている。(図表2-3-1①)

【図表2-3-1① 介護の悩みを相談できる相手】



認知症を周囲の人が理解してくれていないと感じている、感じていないに関係なく、相談相手は「ケアマネジャー」が多く、これについて「家族」「かかりつけ医」となっている。「相談できる人はいない」の割合は、理解してくれていると感じていない人でやや高い。(図表2-3-1②)

【図表2-3-1② 認知症についての周囲の人の理解状況別 介護の悩みを相談できる相手】

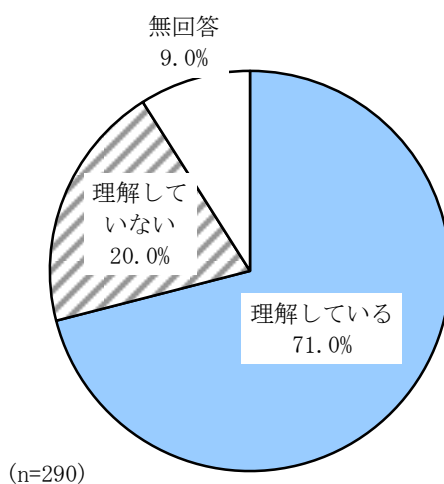
	n	(MA%)										
		家族	友人	かかりつけ医	認知症の人と家族の会	同僚	近所の人	ケアマネジャー	民生委員	その他	相談できる人はいない	無回答
理解している	206	77.7	28.6	37.4	1.5	6.8	13.1	80.1	3.9	8.7	0.5	-
理解していない	58	63.8	20.7	27.6	1.7	-	1.7	70.7	5.2	8.6	3.4	-

## (2) 認知症について周囲の人の理解状況

問13 あなたは、周囲の人が認知症について理解してくれていると思いますか。

認知症についての周囲の人は、「理解している」が71.0%に対し、「理解していない」が20.0%となっている。(図表 2-3-2)

【図表 2-3-2 認知症についての周囲の人の理解状況】



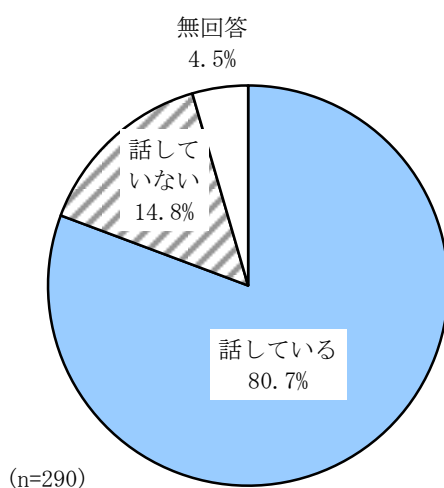


### (3) 認知症について周囲の人への通知状況

問14 あなたは、介護を受けておられる方が認知症であることを周囲の人に話していますか。

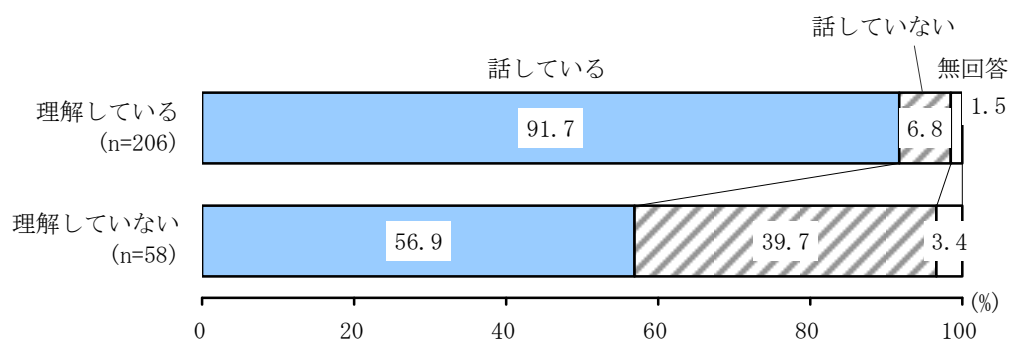
認知症を周囲の人に「話している」が 80.7%に対し、「話していない」が 14.8%となっている。(図表 2-3-3①)

【図表 2-3-3① 認知症についての周囲の人への通知状況】



認知症を周囲の人が理解してくれていると感じている人で「話している」が 91.7%に対し、理解していないと感じている人では 56.9%で、大きな差となっている。(図表 2-3-3②)

【図表 2-3-3② 認知症についての周囲の人の理解状況別 認知症についての周囲の人への通知状況】

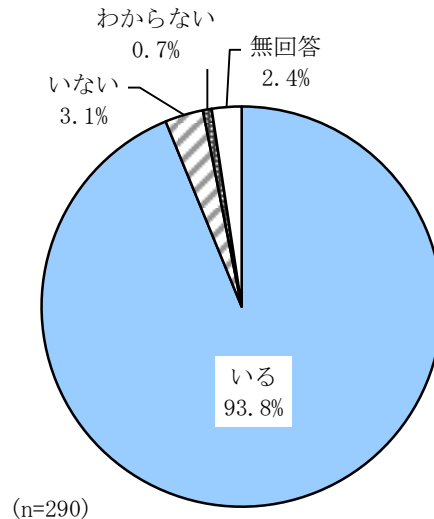


#### (4) 介護を受けている人のかかりつけ医の有無

問 15 介護を受けておられる方にかかりつけ医はいますか。

介護を受けている人にかかりつけ医が「いる」は93.8%であり、「いない」は3.5%である。  
(図表 2-3-4)

【図表 2-3-4 介護を受けている人のかかりつけ医の有無】

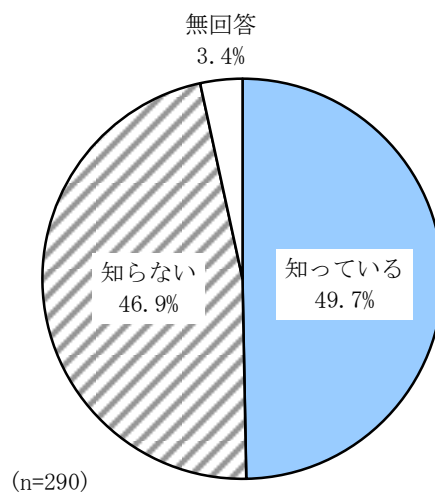


#### (5) 認知症相談医の認知状況

問 16 病院や診療所によって「認知症相談医」がいるところを知っていますか。

認知症相談医を「知っている」は49.7%に対し、「知らない」が46.9%でやや知っている割合が高いものの、認知症高齢者を介護する人の半数近くは知らないと回答している。(図表 2-3-5①)

【図表 2-3-5① 認知症相談医の認知状況】

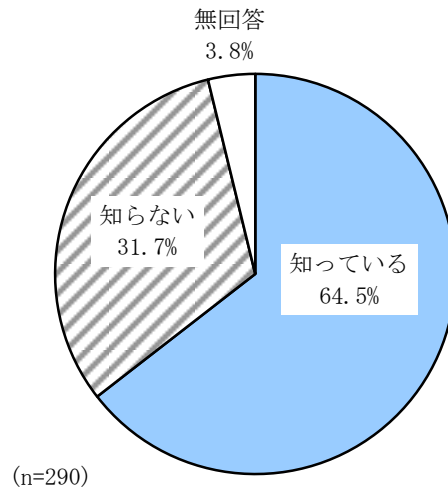


## (6) 地域包括支援センターの認知状況

問17 高齢者の総合的な相談窓口である「地域包括支援センター」を知っていますか。

地域包括支援センターを「知っている」が 64.5%に対し、「知らない」は 31.7%となっている。(図表 2-3-6)

【図表 2-3-6 地域包括支援センターの認知状況】

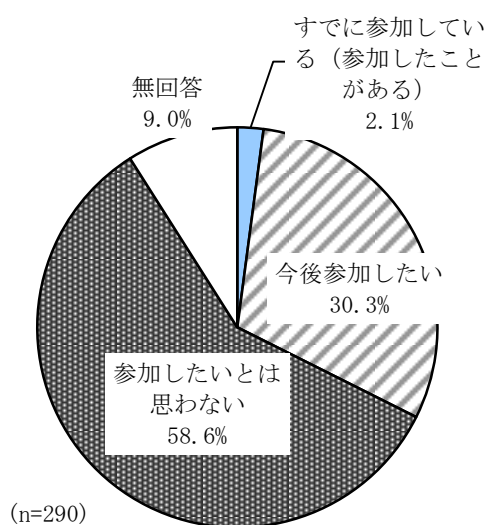


## (7) 草津市なごみ会の参加意向

問 18 認知症の人と家族の会「草津市なごみ会」では、毎月介護者のつどいをしていますが、参加しようと思いませんか。

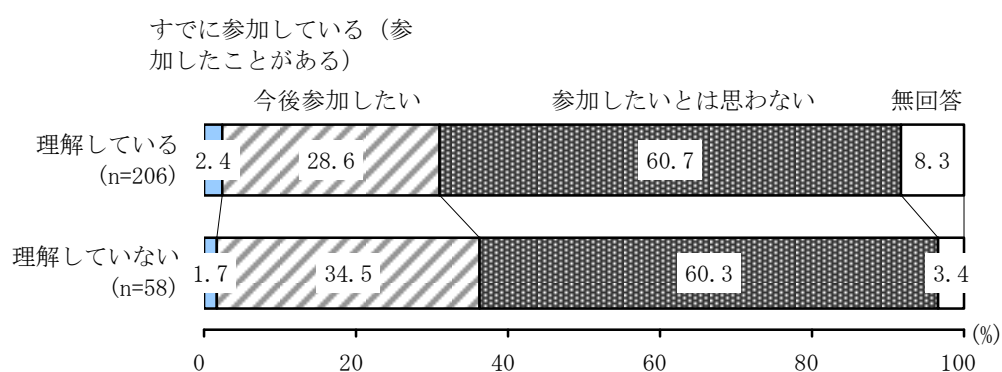
草津市なごみ会に「すでに参加している（参加したことがある）」は回答者全体の 2.1%と少ない。一方、会に「参加したいとは思わない」が 58.6%となっているのに対し「今後参加したい」は 30.3%となっている。（図表 2-3-7①）

【図表 2-3-7① 草津市なごみ会の参加意向】



認知症について周囲の人が理解していると思っている人で、草津市なごみ会に今後参加したいとの割合は 28.6%に対し、理解していないと思っている人では 34.5%となっている。（図表 2-3-7②）

【図表 2-3-7② 認知症についての周囲の人の理解状況別 草津市なごみ会の参加意向】



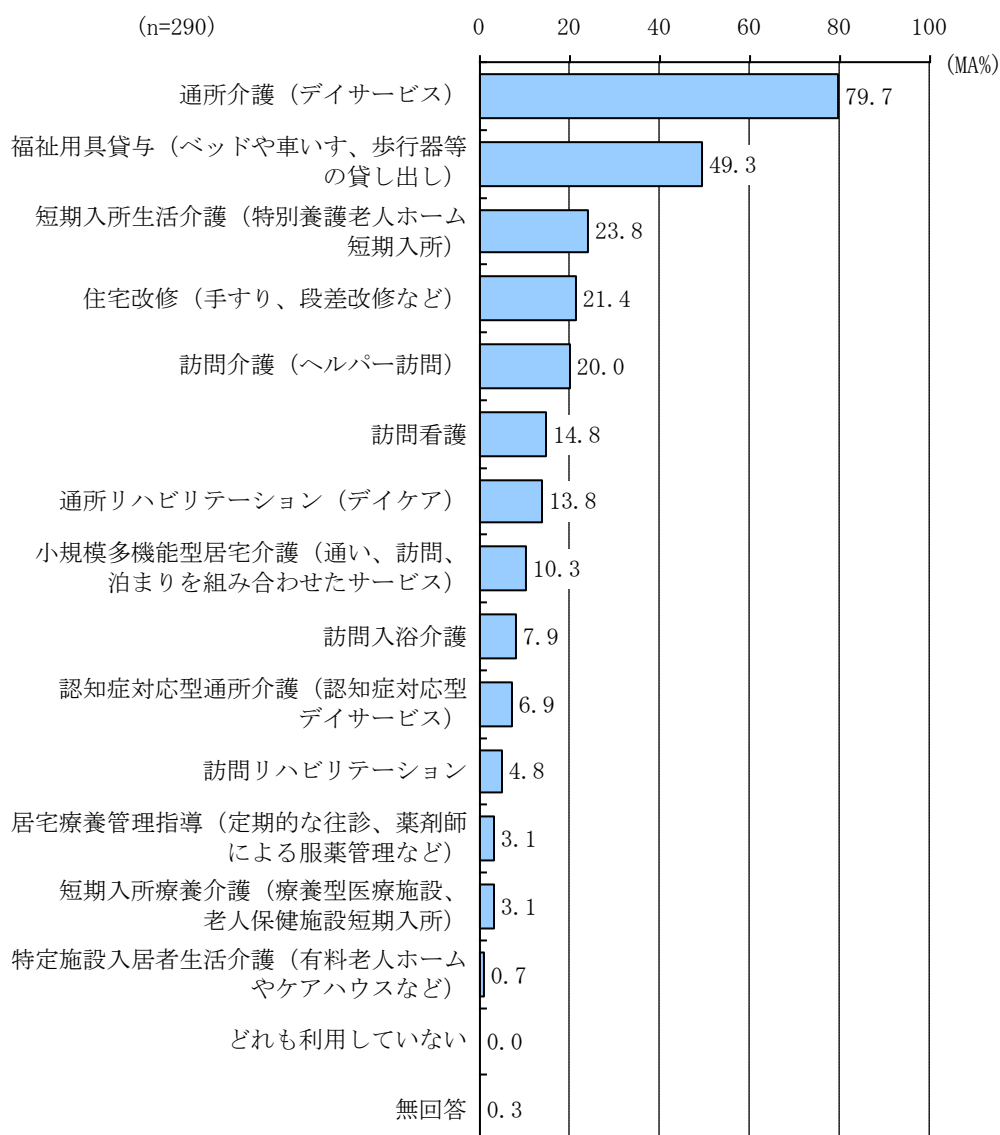
## 5. 認知症に関する制度や支援などについて

### (1) 介護保険等のサービス利用状況

問 19 介護を受けておられる方は、介護保険等のサービスを利用されていますか。利用中のサービスすべてに○をつけてください。

利用している介護保険等のサービスで最も多いものは、「通所介護（デイサービス）」（79.7%）である。これに次いで「福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）」が49.3%で、以下、「短期入所生活介護（特別養護老人ホーム短期入所）」が23.8%、「住宅改修（手すり、段差改修など）」が21.4%、「訪問介護（ヘルパー訪問）」が20.0%となっている。（図表 2-4-1①）

【図表 2-4-1① 介護保険等のサービス利用状況】



要介護1以上の認定者が利用している介護保険等のサービスをみると、いずれの要介護度も「通所介護（デイサービス）」が最も多い。特に要介護1・2の割合が高く、要介護2では90.9%が利用している。訪問介護や訪問看護などの訪問系サービスは要介護5の割合が高く、「福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）」は、要介護3～5の割合が6割以上を占め全体平均を大きく上回っている。（図表2-4-1②）

一方、認知症向けのサービスである小規模多機能型居宅介護や認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護をみると、小規模多機能型居宅介護は要介護3及び4の割合が高く、認知症対応型通所介護は要介護4の割合が高くなっている。（図表2-4-1②）

【図表2-4-1② 要介護度別 介護保険等のサービス利用状況】

	n	(MA%)									
		訪問介護（ヘルパー訪問）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	診療、薬剤師による服薬管理など	居宅療養管理指導（定期的な往診）	特定施設入居者生活介護（有料老人ホームやケアハウスなど）	短期入所生活介護（特別養護老人ホーム短期入所）
要支援1	6	33.3	-	16.7	-	83.3	16.7	-	-	16.7	-
要支援2	4	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-	-
要介護1	101	16.8	3.0	7.9	-	80.2	14.9	2.0	1.0	18.8	-
要介護2	66	15.2	6.1	10.6	7.6	90.9	6.1	1.5	-	22.7	1.5
要介護3	58	12.1	6.9	12.1	6.9	74.1	15.5	-	-	27.6	3.4
要介護4	31	35.5	12.9	16.1	-	77.4	12.9	6.5	3.2	38.7	9.7
要介護5	18	38.9	33.3	66.7	16.7	66.7	27.8	5.6	-	27.8	16.7

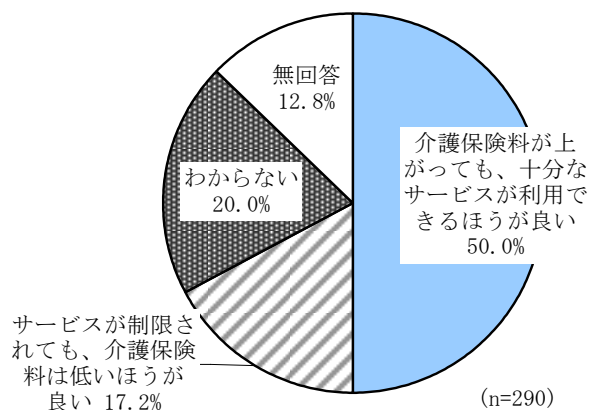
	福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）	住宅改修（手すり、段差改修など）	小規模多機能型居宅介護（へい、訪問、泊まり一体を受けられる）	認知症対応型通所介護（認知症対応型デイサービス）	どれも利用していない	無回答
要支援1	16.7	-	-	-	-	-
要支援2	25.0	-	-	-	-	-
要介護1	36.6	21.8	4.0	7.9	-	-
要介護2	36.4	18.2	9.1	4.5	-	1.5
要介護3	67.2	24.1	20.7	6.9	-	-
要介護4	77.4	29.0	16.1	16.1	-	-
要介護5	88.9	22.2	5.6	-	-	-

## (2) 介護サービスの量と費用負担に対する考え

### 問20 介護サービスの量と費用負担について、どう考えますか。

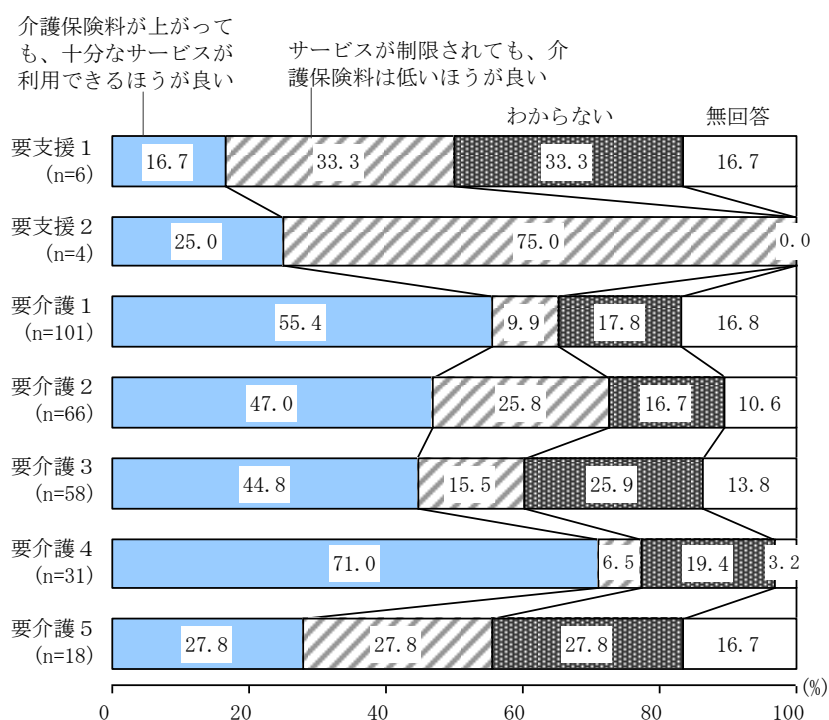
介護サービスの量と費用負担について、「介護保険料が上がっても、十分なサービスが利用できるほうが良い」が50.0%に対し、「サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い」は17.2%、「わからない」は20.0%で、サービスの充実を望む意見が多い。(図表 2-4-2①)

【図表 2-4-2① 介護サービスの量と費用負担に対する考え】



要介護度別でみると、「介護保険料が上がっても、十分なサービスが利用できるほうが良い」の割合は、要介護1以上の介護度で高く、特に要介護4では71.0%を占めている。要介護1～3についてもサービスの充実を望む意見が高いものの、低い保険料を望む意見やわからないの割合も近く、意見が二分している。(図表 2-4-2②)

【図表 2-4-2② 要介護度別 介護サービスの量と費用負担に対する考え】

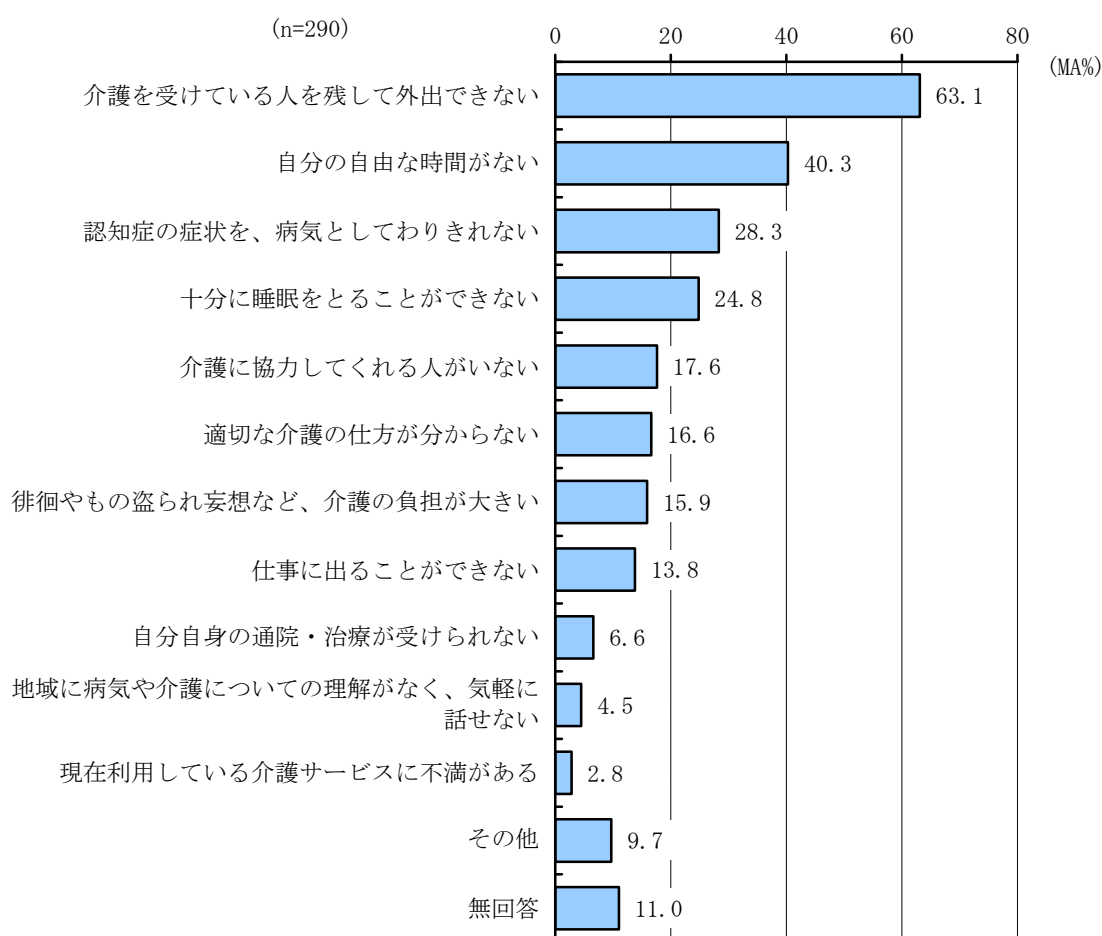


### (3) 認知症の人の介護で困ることや負担に感じること

問 21 認知症の方を介護していて困ること、負担に感じることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

認知症の人の介護で困ることや負担に感じることで最も多いものは、「介護を受けている人を残して外出できない」が63.1%である。これに次いで「自分の自由な時間がない」が40.3%で、以下、「認知症の症状を、病気としてわりきれない」が28.3%、「十分に睡眠をとることができない」が24.8%、「介護に協力してくれる人がいない」が17.6%となっている。(図表2-4-3①)

【図表 2-4-3① 認知症の人の介護で困ることや負担に感じること】





要介護度に関係なく、「介護を受けている人を残して外出できない」が最も多くなっており、特に要介護2（69.7%）と要介護4（71.0%）の割合が高い。要介護4については「自分の自由な時間がない」（58.1%）、「徘徊やもの盗られ妄想など、介護の負担が大きい」（25.8%）、「十分に睡眠をとることができない」（45.2%）、「適切な介護の仕方が分からない」（22.6%）の各割合が全体平均に比べ高く、介護負担が大きくなっている。（図表2-4-3②）

そのほか、要介護1では「認知症の症状を、病気としてわりきれない」（37.6%）、要介護2では「介護に協力してくれる人がいない」（25.8%）が全体平均を上回っている。（図表2-4-3②）

【図表2-4-3② 要介護度別 認知症の人の介護で困ることや負担に感じること】

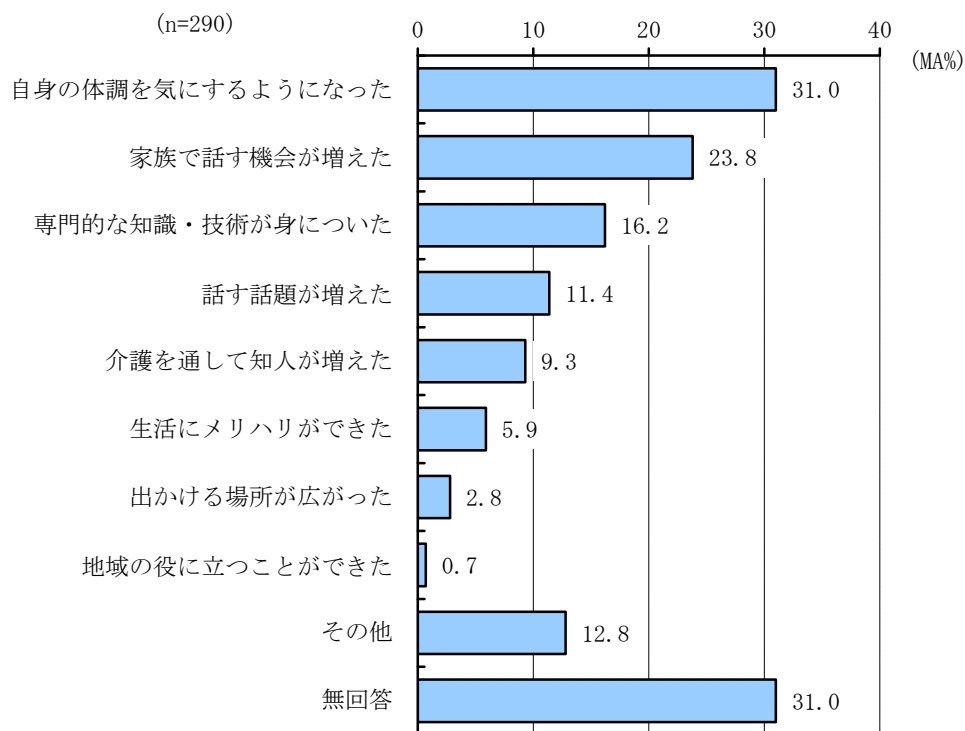
	n	(MA%)													
		残介護を受けている人を	い自分の自由な時間がない	きなど、徘徊やもの盗られ妄想	が十分に睡眠をとることができない	か適切な介護の仕方が分からない	と認知症の症状を、病気としてわりきれない	人がいない	ない仕事に出ることができない	が自分自身の通院・治療	サービスに不満がある	現在利用している介護	軽に話せない	地域に病気や介護につ	その他
要支援1	6	50.0	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7	33.3
要支援2	4	75.0	50.0	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
要介護1	101	57.4	40.6	16.8	14.9	19.8	37.6	11.9	9.9	6.9	2.0	3.0	9.9	9.9	
要介護2	66	69.7	43.9	12.1	21.2	13.6	28.8	25.8	15.2	9.1	4.5	10.6	7.6	10.6	
要介護3	58	60.3	31.0	19.0	32.8	17.2	24.1	15.5	15.5	5.2	1.7	5.2	12.1	13.8	
要介護4	31	71.0	58.1	25.8	45.2	22.6	19.4	19.4	19.4	3.2	3.2	-	9.7	3.2	
要介護5	18	66.7	38.9	-	38.9	-	16.7	22.2	16.7	5.6	-	-	5.6	16.7	

#### (4) 認知症の人の介護をしていて良かったこと

問 22 認知症の方を介護していて、良かったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の人の介護をしていて良かったことは、「自身の体調を気にするようになった」が31.0%で最も多く、これに次いで「家族で話す機会が増えた」が23.8%、「専門的な知識・技術が身についた」が16.2%となっている。(図表 2-4-4①)

【図表 2-4-4① 認知症の人の介護をしていて良かったこと】



要支援を除く要介護1以上の介護度では「自身の体調を気にするようになった」が最も多く、特に突出した介護度はない。「家族で話す機会が増えた」や「介護を通して知人が増えた」は要介護2の割合が、「専門的な知識・技術が身についた」は要介護4及び要介護5の割合がそれぞれ高くなっている。(図表2-4-4②)

【図表2-4-4② 要介護度別 認知症の人の介護をしていて良かったこと】

(MA%)											
	n	た家族で話す機会が増えた	話す話題が増えた	え介護を通して知人が増えた	た生活にメリハリができた	よ自身の体調を気にするようになった	身専門的な知識・技術が身についた	た出かける場所が広がった	で地域の役に立つことができた	その他	無回答
要支援1	6	50.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	-	-	16.7	33.3
要支援2	4	-	-	-	-	25.0	-	-	-	25.0	50.0
要介護1	101	28.7	8.9	6.9	5.0	33.7	19.8	1.0	-	9.9	25.7
要介護2	66	19.7	16.7	15.2	4.5	24.2	15.2	7.6	1.5	16.7	31.8
要介護3	58	13.8	10.3	8.6	5.2	32.8	8.6	1.7	-	13.8	44.8
要介護4	31	22.6	9.7	9.7	9.7	29.0	22.6	-	3.2	3.2	29.0
要介護5	18	27.8	5.6	5.6	5.6	38.9	22.2	-	-	16.7	22.2

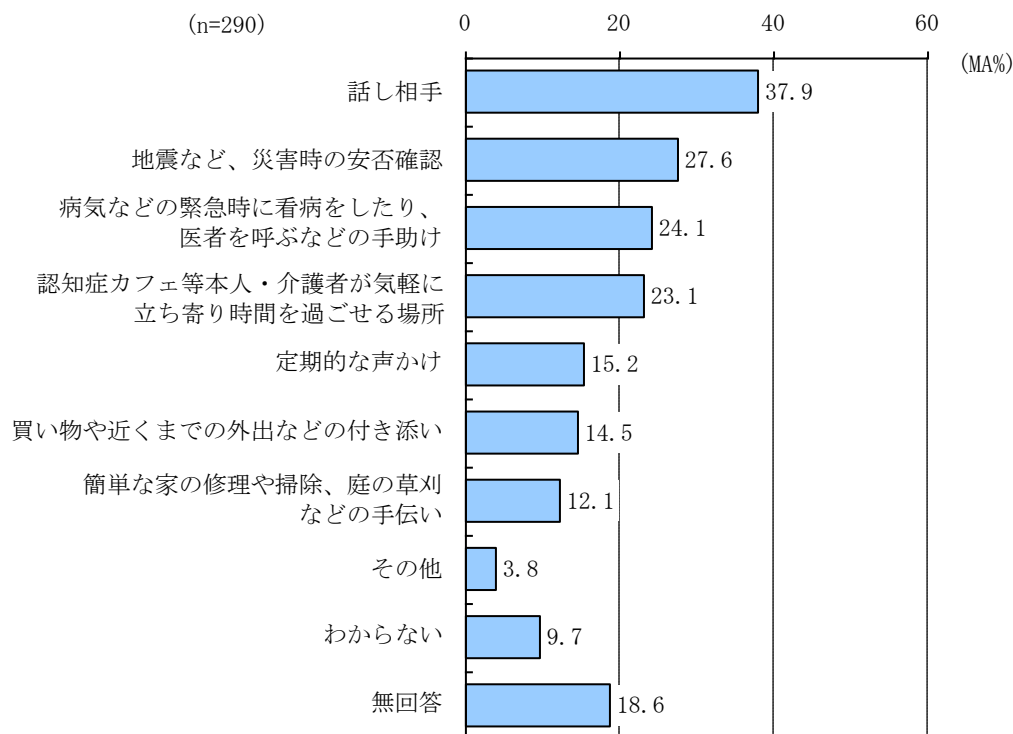
## (5) 身近にあってほしい地域支援

問 23 認知症の方を介護している者として、身近に地域にあったらいいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

### ①認知症の人に対してあってほしい地域支援

認知症の人に対する地域支援で望まれているものは、「話し相手」が37.9%で最も多い。これに次いで「地震など、災害時の安否確認」が27.6%で、以下、「病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け」が24.1%、「認知症カフェ等本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所」が23.1%、「定期的な声かけ」が15.2%となっている。(図表 2-4-5 ①)

【図表 2-4-5① 認知症の人に対してあってほしい地域支援】



要支援を除く要介護1から要介護3までの介護度では、「話し相手」が最も多くなっており、要介護4及び要介護5では、「地震など、災害時の安否確認」が多い。また、要介護5では「病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助け」も多くなっている。

「定期的な声かけ」や「認知症カフェ等本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所」の割合は、要介護2で高くなっている。(図表2-4-5②)

【図表2-4-5② 要介護度別 認知症の人に対してあってほしい地域支援】

												(MA%)	
	n	話し相手	出買 ない 物の や近 くま での 付 き 添 い の 外	伝 い 、 庭 の 草 刈 な ど の 手 伝 い	簡 単 な 家 の 修 理 や 掃 除	病 気 な ど の 緊 急 時 に 看 病 を し た り 、 医 者 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	病 気 な ど の 緊 急 時 に 看 病 を し た り 、 医 者 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	定 期 的 な 声 か け	認 知 症 カ フ ェ 等 本 人 ・ 介 護 者 が 気 軽 に 立 ち 寄 り 時 間 を 過 ご せ る 場 所	否 認 、 地 震 な ど 、 災 害 時 の 安 否 確 認	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
要支援1	6	33.3	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-	16.7	33.3	
要支援2	4	25.0	-	-	25.0	-	50.0	75.0	25.0	-	-	-	
要介護1	101	40.6	15.8	12.9	20.8	11.9	25.7	28.7	4.0	12.9	12.9	12.9	
要介護2	66	40.9	19.7	16.7	24.2	27.3	33.3	28.8	3.0	7.6	19.7	19.7	
要介護3	58	39.7	6.9	5.2	25.9	12.1	13.8	17.2	5.2	8.6	29.3	29.3	
要介護4	31	29.0	16.1	12.9	25.8	12.9	16.1	32.3	3.2	9.7	22.6	22.6	
要介護5	18	16.7	16.7	16.7	38.9	16.7	11.1	38.9	-	5.6	11.1	11.1	

ひとり暮らし世帯では、「買い物や近くまでの外出などの付き添い」「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い」「病気などの緊急時に看病をしたり、医者と呼ぶなどの手助け」「定期的な声かけ」の割合が高い。また、ひとり暮らしを含む高齢者世帯では、「地震など、災害時の安否確認」の割合も高くなっている。(図表2-4-5③)

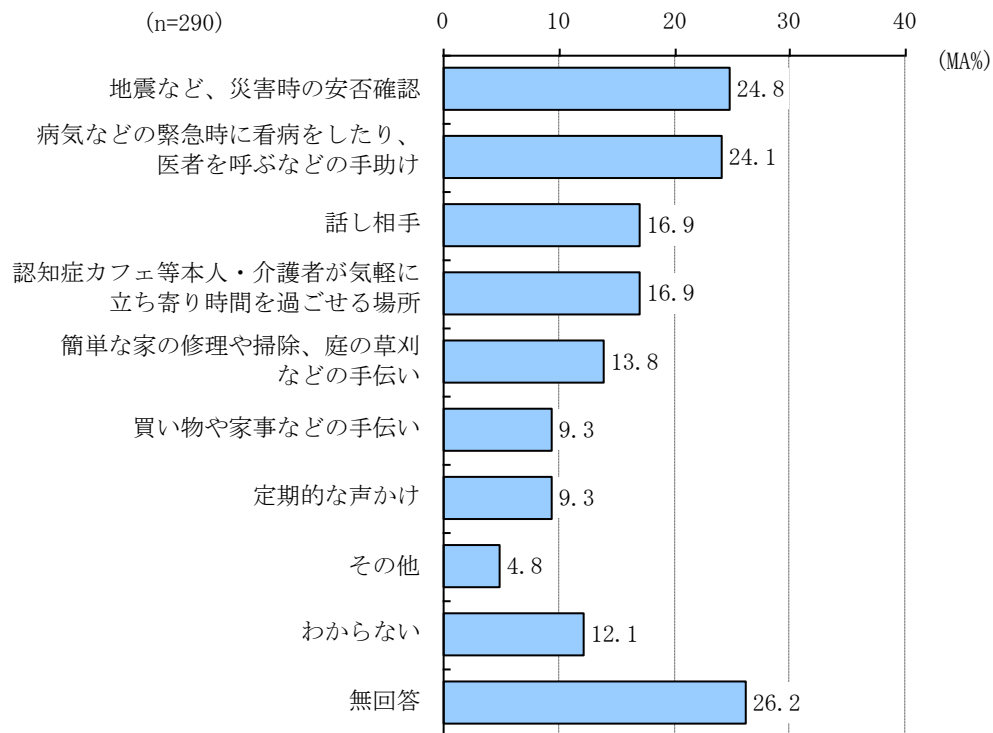
【図表2-4-5③ 家族構成別 認知症の人に対してあってほしい地域支援】

												(MA%)	
	n	話し相手	出買 ない 物の や近 くま での 付 き 添 い の 外	伝 い 、 庭 の 草 刈 な ど の 手 伝 い	簡 単 な 家 の 修 理 や 掃 除	病 気 な ど の 緊 急 時 に 看 病 を し た り 、 医 者 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	病 気 な ど の 緊 急 時 に 看 病 を し た り 、 医 者 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	定 期 的 な 声 か け	認 知 症 カ フ ェ 等 本 人 ・ 介 護 者 が 気 軽 に 立 ち 寄 り 時 間 を 過 ご せ る 場 所	否 認 、 地 震 な ど 、 災 害 時 の 安 否 確 認	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
ひとり暮らし	24	37.5	25.0	33.3	33.3	33.3	20.8	41.7	4.2	4.2	16.7	16.7	
高齢者世帯(家族の構成員がすべて65歳以上)	74	29.7	17.6	16.2	25.7	12.2	18.9	35.1	4.1	9.5	14.9	14.9	
その他	188	41.5	12.2	8.0	22.3	14.4	25.5	23.4	3.7	10.6	19.1	19.1	

## ②介護している人に対してあってほしい地域支援

介護している人に対する地域支援で望まれているものは、「地震など、災害時の安否確認」が 24.8%で最も多い。これに次いで「病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け」が 24.1%で、以下、「話し相手」と「認知症カフェ等本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所」が 16.9%、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い」が 13.8%となっている。(図表 2-4-6)

【図表 2-4-6 介護している人に対してあってほしい地域支援】

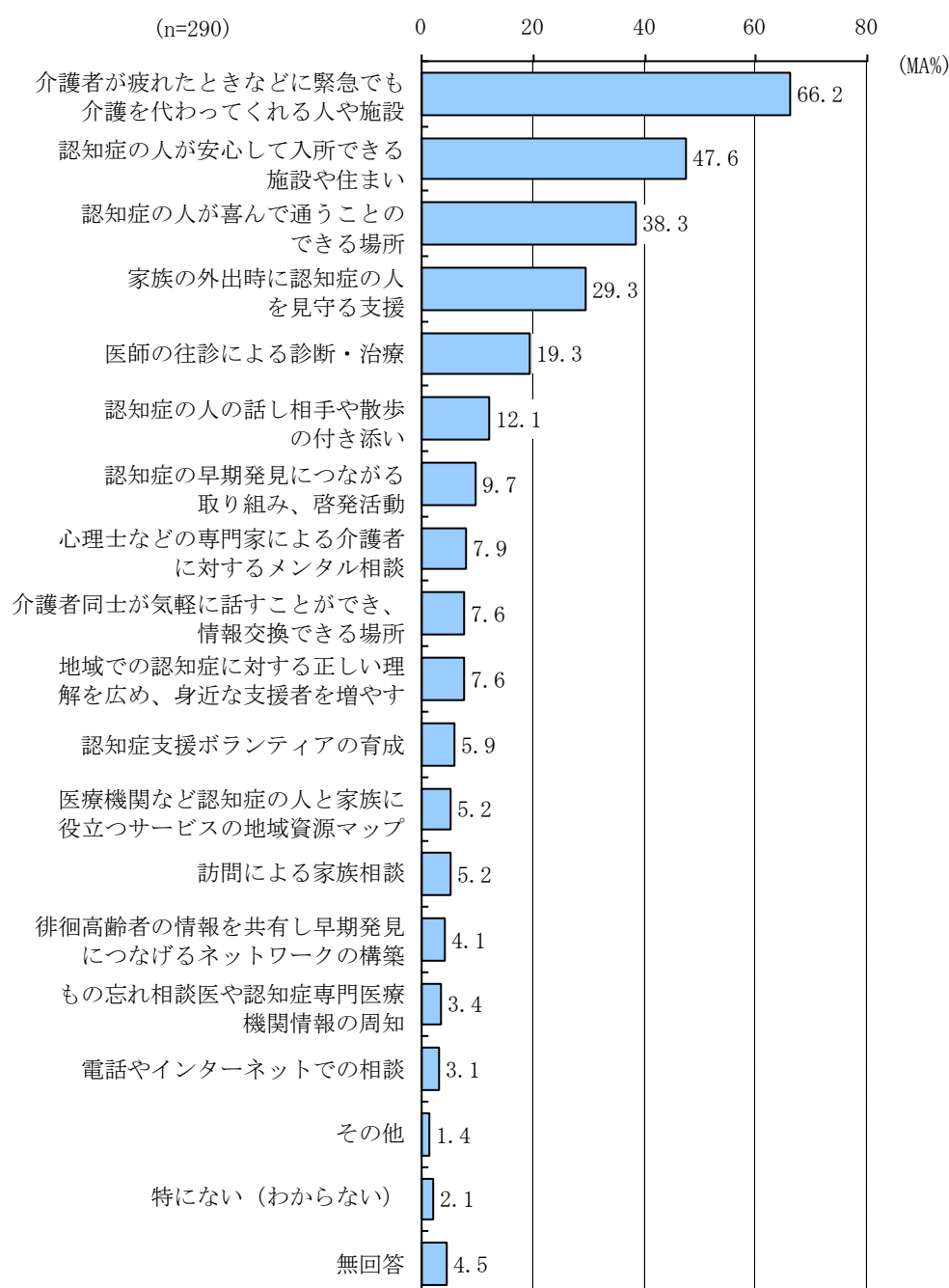


## (6) 認知症対策として重要な施策

問 24 認知症の対策として、重要だと思われる施策は何ですか。  
(特に必要だと思うものを3つまでお答えください)

認知症対策として重要な施策で望まれていることは、「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が 66.2%で最も多い。これに次いで「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」が 47.6%、「認知症の人が喜んで通うことのできる場所」が 38.3%、「家族の外出時に認知症の人を見守る支援」が 29.3%となっている。(図表 2-4-7①)

【図表 2-4-7① 認知症対策として重要な施策】



要介護度別では、要介護3以上の各介護度で「介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が最も多くなっており、要介護2では「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」が多くなっている。(図表2-4-7②)

【図表2-4-7② 要介護度別 認知症対策として重要な施策】

											(MA%)	
	n	介護者が疲れたときなどに緊急でも介護を代わってくれる人や施設	入所できる施設や住まい	認知症の人が安心して通	認知症の人が喜んで通	家族の外出時に認知症の人を見守る支援	医師の往診による診断・治療	専門医療機関の情報	もの忘れ相談や認知症の専門医や認知症の専門医療機関の情報	認知症の人の話し相手や散歩の付き添い	介護者同士が気軽に話	近隣の認知症に
要支援1	6	50.0	50.0	50.0	16.7	-	-	-	-	50.0	-	-
要支援2	4	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	75.0	25.0	-	-	-
要介護1	101	58.4	55.4	38.6	24.8	18.8	5.9	12.9	5.9	7.9	-	-
要介護2	66	59.1	48.5	48.5	31.8	9.1	1.5	16.7	7.6	7.6	-	-
要介護3	58	77.6	46.6	39.7	34.5	20.7	-	3.4	3.4	8.6	-	-
要介護4	31	71.0	41.9	25.8	29.0	35.5	3.2	9.7	6.5	9.7	-	-
要介護5	18	88.9	38.9	22.2	33.3	33.3	5.6	5.6	5.6	5.6	-	-

	認知症支援ボランティア	医療機関など認知症の専門家による相談	心理士などの専門家に	徘徊高齢者の情報を共有するネットワークの構築	訪問による家族相談	電話やインターネット	活動する早期発見、啓発	認知症の早期発見につ	その他	特にない(わからない)	無回答
要支援1	16.7	-	16.7	-	-	-	33.3	-	-	-	-
要支援2	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	25.0
要介護1	6.9	5.9	9.9	4.0	4.0	3.0	7.9	-	3.0	4.0	-
要介護2	4.5	4.5	6.1	1.5	10.6	4.5	13.6	1.5	4.5	4.5	-
要介護3	3.4	1.7	8.6	6.9	1.7	1.7	8.6	-	-	8.6	-
要介護4	3.2	3.2	6.5	6.5	6.5	-	12.9	9.7	-	-	-
要介護5	11.1	16.7	-	5.6	5.6	5.6	-	-	-	-	-

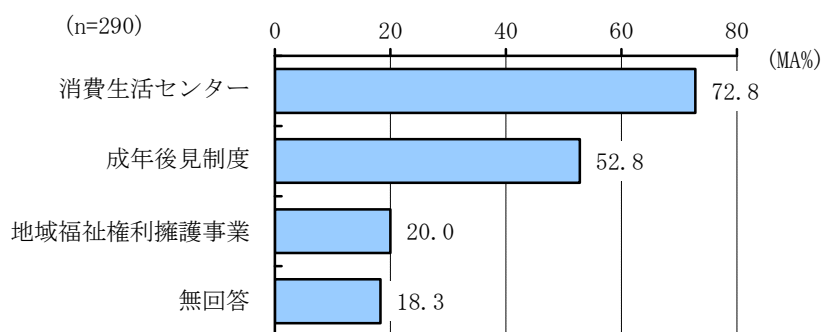


## (7) 知っている相談機関・制度

問 25 次の相談機関や制度のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

相談機関・制度で知っているものは、「消費生活センター」が72.8%で最も多く、次いで「成年後見制度」が52.8%となっている。「地域福祉権利擁護事業」は20.0%で最も低い。(図表2-4-8)

【図表 2-4-8 知っている相談機関・制度】



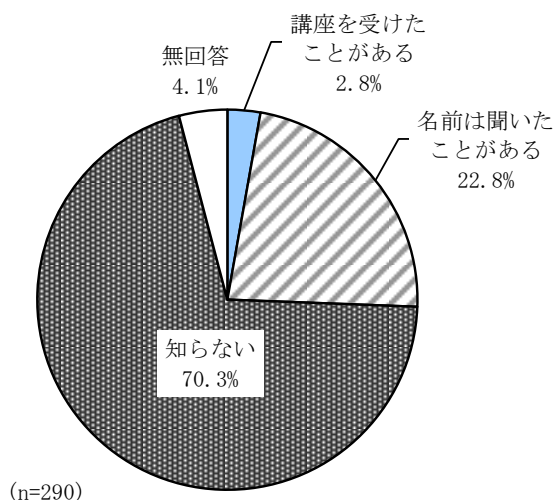
## (8) 認知症サポーター養成講座について

### ①認知状況

問 26 草津市では「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

認知症サポーター養成講座を「知らない」が70.3%で最も多い。「名前は聞いたことがある」は18.3%で、「講座を受けたことがある」は2.8%と少ない。(図表 2-4-9)

【図表 2-4-9 認知症サポーター養成講座の認知状況】

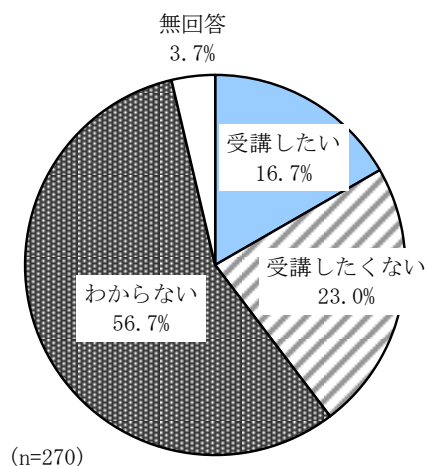


### ②認知症サポーター養成講座の受講意向

問 27 問 26 で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えた方にお聞きします。あなたは「認知症サポーター養成講座」があれば受講したいと思いますか。

認知症サポーター養成講座を受講したことの無い人に受講意向をたずねたところ、「わからない」が56.7%となっており、「受講したい」は16.7%である。これに対し、「受講したくない」は23.0%となっている。(図表 2-4-10)

【図表 2-4-10 認知症サポーター養成講座の受講意向】



## ■資料（調査票）

### 1. 一般市民用

## 認知症の高齢者に関するアンケートの実施について

関係者各位

草津市健康福祉部  
長寿福祉課

草津市では認知症になっても本人、家族ともに安心して生活できるまちをめざして、認知症の正しい理解の啓発や、早期発見・対応、地域での見守り、認知症の人やその家族への支援体制の充実、権利擁護など様々な視点から支援を行う体制づくりに取り組んでいます。

このアンケートは、地域で認知症の高齢者やその家族を支えるうえでの課題を明らかにし、今後の地域づくりに役立つ目的で、一般市民の方に実施するものです。

率直なご意見をお寄せいただきますよう、お願い申し上げます。

平成25年8月6日

#### ■ご記入にあたってのお願い

- ① このアンケートは、草津市在住で20歳以上～69歳以下の方を無作為抽出して、あなたに送付いたしました。
- ② それぞれの設問にはあてはまる番号を○で囲んでお答えください。「あてはまるものすべてに○」など、指定があるものはそれにしたがって、指定のないものはひとつを選んでお答えください。
- ③ このアンケートは同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、8月26日（月）までにご返送くださいますよう、お願い申し上げます。
- ④ アンケートに関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

※平成25年8月5日時点で死亡・転出されている方には送付されないようにしていますが、システムの都合上送付される場合があります。ご了承ください。

お問い合わせ先 草津市健康福祉部 長寿福祉課  
担当：山下、原田  
TEL 077-561-2362  
FAX 077-561-6780



**問4 認知症の情報を何から得られていますか。(あてはまるものすべてに○)**

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 認知症の講演会や催し物        | 2. テレビ、ラジオ等のマスコミ    |
| 3. 雑誌等の書物             | 4. 友人・知人からの話        |
| 5. 市役所（地域包括支援センター）など  | 6. 医療機関、診療所など       |
| 7. 介護関連事業所（ケアマネジャー）など | 8. 民生委員             |
| 9. 社会福祉協議会            | 10. パンフレットなどの認知症啓発物 |
| 11. その他（              | ） 12. 特にない          |

**問5 これまでに認知症に関する講演会や催し物に参加したことがありますか。**

- |             |             |              |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 1～2回参加した | 2. 3回以上参加した | 3. 参加したことがない |
|-------------|-------------|--------------|

**問6 認知症の治療に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んでください。**

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 治療すれば、治すことができる         |
| 2. 治療すれば、進行を遅らせることができる    |
| 3. 治療したり、医師に診てもらわなければならない |

**問7 あなたが、認知症の予防になると思うものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)**

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 1. 現在取り組んでいる趣味や家事を続ける     |   |
| 2. 新しいことに取り組む             |   |
| 3. 適度な運動を行う               |   |
| 4. バランスの良い食生活を送る          |   |
| 5. クイズ、計算、手指の体操など、頭の体操をする |   |
| 6. ものごとを前向きにとらえる          |   |
| 7. その他（                   | ） |
| 8. 認知症の予防はできない            |   |

**問8 認知症の予防についてどのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)**

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1. 自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい    |   |
| 2. 認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい  |   |
| 3. 近くの市民センター等で予防活動を行っていれば参加したい |   |
| 4. 予防活動等に取り組む必要を感じない           |   |
| 5. その他（                        | ） |

## Ⅱ もし、あなたやあなたの家族が認知症になったら

問9 現在、あるいは過去に認知症の方を介護した経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族など身近な人の介護で、過去に経験がある
2. 家族など身近な人の介護で、現在も介護をしている
3. 仕事やボランティアで経験がある
4. 経験はない

問10 もし、あなたや、あなたの家族が認知症になった場合、気になる項目は次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. まず、どこに相談すればよいか
2. 病院で何科に見てもらえばよいか
3. 症状がどのように進行していくのか
4. 薬の効能や効果、副作用の有無
5. 医療・介護にかかる費用
6. その他 ( )

問11 あなたや、あなたの家族に認知症の疑いがあるとき、家族や知人以外では、まず、どこに(だれに)相談すると思いますか。(もっともあてはまるもの1つに○)

1. 地域包括支援センター
2. 市役所
3. 認知症専門医
4. かかりつけ医
5. 介護関連施設(ケアマネジャーなど)
6. 民生委員
7. 認知症の人と家族の会
8. 認知症コールセンター
9. どこに相談したらいいのかわからない
10. その他 ( )

問12 もし、あなたの家族が認知症になったら、どのように介護したいと考えますか。(あなたの考えにもっとも近いもの1つに○)

1. できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい
2. できる限り、近所の人にも協力をお願いしながら家族・親族中心に自宅で介護したい
3. できる限り、介護サービスの力をかりながら家族・親族中心に自宅で介護したい
4. 病院に入院させたい
5. 特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい
6. その他 ( )
7. わからない

問 13 もし、あなたが認知症になったら、どのように介護されたいと思いますか。(あなたの考えに  
もっとも近いもの1つに○)

1. できる限り、家族・親族だけで自宅で介護されたい
2. できる限り、近所の人にも協力をお願いしながら家族・親族中心に  
自宅で介護されたい
3. できる限り、介護サービスの力をかりながら家族・親族中心に自宅で介護されたい
4. 病院に入院したい
5. 特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい
6. その他 ( )
7. わからない

問 14 もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人知ってもらおうと思いますか。  
(もっともあてはまるものに○)

1. 知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい
2. 知っておくだけ知っておいてほしい
3. 隠す必要もないが、あえてそのことを知っておいてもらう必要もない
4. できればあまり知られたくないので隠したい
5. わからない
6. その他 ( )



問 14 で、そう思われる理由を教えてください。

問 15 介護サービスの量と費用負担について、あなたの考えに近いものに○をしてください。

1. 介護保険料が高くても、十分なサービスが利用できるほうが良い
2. サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い
3. わからない

### Ⅲ サービス・制度などについて

問 16 次の相談機関や制度のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 地域包括支援センター | 2. 消費生活センター |
| 3. 地域福祉権利擁護事業 | 4. 成年後見制度   |

※1 地域包括支援センター

高齢者の総合的な相談窓口

※2 消費生活センター

消費生活に関する困りごとや、契約・解約に関することなど消費生活全般の相談窓口

※3 地域福祉権利擁護事業

利用者ができる限り地域で自立した生活を継続していくために、福祉サービスの利用援助やそれに付随した日常的な金銭管理等の援助を行う。

※4 成年後見制度

財産管理や身上監護に関する契約等の法律行為全般を行う。

問 17 草津市では「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

- |                |
|----------------|
| 1. 講座を受けたことがある |
| 2. 名前は聞いたことがある |
| 3. 知らない        |

※認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成するための講座

問 18 問 17 で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えた方にお聞きします。

あなたは「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか。

- |          |            |
|----------|------------|
| 1. 受講したい | 2. 受講したくない |
| 3. わからない |            |

すべての方にお聞きします。

問 19 認知症の方が近所にいた場合、あなたはどう感じ、どう行動したいですか。(もっともあてはまるもの1つに○)

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 地域として何かできることがあれば協力したい     |
| 2. 今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい     |
| 3. 自分にはそういう力がないので、特にできることはない |
| 4. 何をどうしたらいいのかわからない          |
| 5. できるだけ関わりたくない              |
| 6. その他 ( )                   |



問 20 認知症の方とその家族を支えたとしたら、あなたにはどんなことができると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の方に対して	介護している家族に対して
1. 話し相手になる	1. 話し相手になる
2. 買い物や近くまでの外出などに付き添う	2. 買い物や家事などを手伝う
3. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う	3. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などを手伝う
4. 病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う	4. 病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助けを行う
5. 定期的に声をかける	5. 定期的に声をかける
6. 地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	6. 地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う
7. その他 ( )	7. その他 ( )
8. わからない	8. わからない
9. 自分にできることは何もない	9. 自分にできることは何もない

問 21 認知症の方の介護を続けていくために必要だと思う支援は何ですか。(特に必要だと思うものを3つまで)

1. 介護者が疲れたときなどに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設
2. 認知症の方が安心して入所できる施設や住まい
3. 認知症の方が喜んで通うことのできる場所
4. 家族の外出時に認知症の方を見守る支援
5. 医師の往診による診断・治療
6. もの忘れ相談医や認知症専門医療機関情報の周知
7. 認知症の方の話し相手や散歩の付き添い
8. 介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所
9. 地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
10. 認知症支援ボランティアの育成
11. 医療機関など認知症の方と家族に役立つサービス等をまとめた地域資源マップ
12. 心理士などの専門家による介護者に対するメンタル相談
13. 徘徊高齢者の情報を共有し、早期発見につなげるネットワークの構築
14. 訪問による家族相談
15. 電話やインターネットでの相談
16. 認知症の早期発見につながる取り組み、啓発活動
17. その他 ( )
18. 特にない (わからない)

問 22 認知症の方にとって、暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。ご自由にお書きください。

問 23 認知症の方やその家族を支える地域づくりについて、ご意見・ご感想がありましたら記入してください。

調査にご協力ありがとうございました。

お手数ですが、返信用封筒にこの用紙を入れて、8月26日（月）までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

## 2. 介護家族用

# 認知症の高齢者に関するアンケートの実施について

関係者各位

草津市健康福祉部  
長寿福祉課

草津市では認知症になっても本人、家族ともに安心して生活できるまちをめざして、認知症を正しく知ってもらうことや、早期発見・対応、地域での見守りなどの、認知症の人やその家族への支援の充実、さらに権利擁護など様々な視点から支援を行う体制づくりに取り組んでいます。

このアンケートは、日頃介護しておられる方の声をお聞かせいただき、地域で認知症の高齢者やその家族を支えるうえでの課題を明らかにし、今後の地域づくりに役立てる目的に実施するものです。

率直なご意見をお寄せいただきますよう、お願い申し上げます。

平成25年8月6日

### ■ご記入にあたってのお願い

- ① このアンケートは、草津市在住で現在介護をしておられる方をお願いしております。
- ② アンケートの中で「あなた」という表現がでてきますが、これは主に介護を行っている方を指しています。
- ③ それぞれの設問にはあてはまる番号を○で囲んでお答えください。「あてはまるものすべてに○」など、指定があるものはそれにしたがって、指定のないものはひとつを選んでお答えください。
- ④ このアンケートは同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、9月30日（月）までにご返送くださいますよう、お願い申し上げます。
- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

お問い合わせ先 草津市健康福祉部 長寿福祉課  
担当：山下、原田  
TEL 077-561-2362  
FAX 077-561-6780



## I 発症と医療機関までのつながりについて

発症から相談に至るまでについておうかがいします。

問3 あなたは、介護を受けておられる方の、どのような様子を見て、認知症ではないかと思い始めましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 約束を忘れたり、薬を飲み忘れたりすることが多くなった |
| 2. 同じことを何回も言ったり聞いたりするようになった   |
| 3. 物事への興味や関心が失われた             |
| 4. お金の管理ができなくなった              |
| 5. ものの名前が出てこなくなった             |
| 6. 慣れた道でも迷うようになった             |
| 7. 家事や、仕事の上のミスが多くなった          |
| 8. ささいなことで怒りっぽくなった            |
| 9. お金やものが盗まれたというようになった        |
| 10. 人に会うのを避けるようになった           |
| 11. その他 ( )                   |

問4 それは、介護を受けておられる方が何歳ごろの時でしたか。

年齢	_____ 歳ごろ
----	-----------

問5 あなたが、家族・知人以外の専門家に認知症のことで相談したのは、あなたが認知症ではないかと思い始めてからどのくらいの期間ですか。

- |             |               |              |
|-------------|---------------|--------------|
| 1. 1か月未満    | 2. 1か月以上6か月未満 | 3. 6か月以上1年未満 |
| 4. 1年以上2年未満 | 5. 2年以上3年未満   | 6. 3年以上5年未満  |
| 7. 5年以上     |               |              |

問6 家族・知人以外で最初に、認知症の相談をしたところはどこですか。

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 1. 地域包括支援センター        | 2. 市役所        |
| 3. 認知症専門医            | 4. かかりつけ医     |
| 5. 介護関連施設（ケアマネジャーなど） | 6. 民生委員       |
| 7. 認知症の人と家族の会        | 8. 認知症コールセンター |
| 9. その他 ( )           |               |

問7 相談の結果は、満足できましたか。

- |          |             |            |
|----------|-------------|------------|
| 1. 満足できた | 2. 満足できなかった | 3. どちらでもない |
|----------|-------------|------------|



問7でそう思われた理由を教えてください。

----------------------

以下、受診や診断についておうかがいします。

問8 介護を受けておられる方は認知症について病院に受診をし、診断を受けられましたか。

- |               |
|---------------|
| 1. はい (病院名… ) |
| 2. いいえ        |



受診をされていない理由を教えてください。

----------------------

問9～11は、問8で「1. はい」を回答した方のみお答えください。

問9 認知症の病名は次のどれですか。

- |                            |
|----------------------------|
| 1. アルツハイマー型認知症             |
| 2. 脳血管性認知症                 |
| 3. レビー小体型認知症               |
| 4. 前頭・側頭型認知症 (ピック病、意味性認知症) |
| 5. 病名の告知はない                |
| 6. わからない                   |
| 7. その他 ( )                 |

問10 介護を受けておられる方が、病院に受診されたのは、認知症ではないかとあなたが思い始めてからどのくらいの期間ですか。

- |             |               |              |
|-------------|---------------|--------------|
| 1. 1か月未満    | 2. 1か月以上6か月未満 | 3. 6か月以上1年未満 |
| 4. 1年以上2年未満 | 5. 2年以上3年未満   | 6. 3年以上5年未満  |
| 7. 5年以上     |               |              |

問 11 受診にいった理由（きっかけ）は何ですか。

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1. 家族・知人に勧められたから<br>(受診を勧めた人・・・) | ) |
| 2. 専門家に勧められたから<br>(受診を勧めた人・・・)   | ) |
| 3. 症状が進行したから<br>(具体的な症状・・・)      | ) |
| 4. かかりつけの病院だったから                 |   |
| 5. 認知症に関するパンフレットや講演などで受診を勧めていたから |   |
| 6. その他 (                         | ) |

## Ⅱ 相談相手と、周囲とのかかわりについて

問 12 あなたは、介護の悩みを相談できる人がいますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                |         |               |
|----------------|---------|---------------|
| 1. 家族（主に_____） | 2. 友人   | 3. かかりつけ医     |
| 4. 認知症の人と家族の会  | 5. 同僚   | 6. 近所の人       |
| 7. ケアマネジャー     | 8. 民生委員 | 9. その他（_____） |
| 10. 相談できる人はいない |         |               |

問 13 あなたは、周囲の人が認知症について理解してくれていると思いますか。

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 14 あなたは、介護を受けておられる方が認知症であることを周囲の人に話していますか。

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 話している | 2. 話していない |
|----------|-----------|

問 15 介護を受けておられる方にかかりつけ医はいますか。

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問 16 病院や診療所によって「認知症相談医」がいるところがあることを知っていますか。

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

※認知症相談医

県と県医師会が協働で創設した認定制度で、県の研修を修了し、この認定を受けたものは認知症の早期発見・早期対応や、専門医療機関への受診誘導、家族支援などを行う。

問 17 高齢者の総合的な相談窓口である「地域包括支援センター」を知っていますか。

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 18 認知症の人と家族の会「草津市なごみ会」では、毎月介護者のつどいをしていますが、参加しようと思いますか。

1. すでに参加している。(参加したことがある。)
2. 今後参加したい。
3. 参加したいとは思わない。

### Ⅲ サービス・制度について

問 19 介護を受けておられる方は、介護保険等のサービスを利用されていますか。利用中のサービスすべてに○をつけてください。

1. 訪問介護（ヘルパー訪問）
2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション
5. 通所介護（デイサービス）
6. 通所リハビリテーション（デイケア）
7. 居宅療養管理指導（定期的な往診、薬剤師による服薬管理など）
8. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホームやケアハウスなど）
9. 短期入所生活介護（特別養護老人ホーム短期入所）
10. 短期入所療養介護（療養型医療施設、老人保健施設短期入所）
11. 福祉用具貸与（ベッドや車いす、歩行器等の貸し出し）
12. 住宅改修（手すり、段差改修などの移動範囲を安全に広げるための小規模な住宅改造）
13. 小規模多機能型居宅介護（通い、訪問、泊まりのサービスが一体的に受けられるサービス）
14. 認知症対応型共同生活介護（認知症の高齢者が共同生活するホーム）
15. 認知症対応型通所介護（認知症対応型デイサービス）
16. どれも利用していない  
( 利用していない理由：ア. 本人が嫌がるため  
イ. 利用したいサービスがない  
ウ. 金額が高い  
エ. その他 ( ) )

前記以外に、こんなサービスがあれば利用したいと思う内容をご記入ください。

問 20 介護サービスの量と費用負担について、どう考えますか。

1. 介護保険料が上がっても十分なサービスが利用できるほうが良い
2. サービスが制限されても、介護保険料は低いほうが良い
3. わからない



問 21 認知症の方を介護していて困ること、負担に感じることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を受けておられる方を残して外出できない</li> <li>2. 自分の自由な時間がない</li> <li>3. 徘徊やもの盗られ妄想など、介護の負担が大きい</li> <li>4. 十分に睡眠をとることができない</li> <li>5. 適切な介護の仕方が分からない</li> <li>6. 認知症の症状を、病気としてわりきれない</li> <li>7. 介護に協力してくれる人がいない</li> <li>8. 仕事に出ることができない</li> <li>9. 自分自身の通院・治療が受けられない</li> <li>10. 現在利用している介護サービスに不満がある</li> <li>11. 地域に病気や介護についての理解がなく、気軽に話せない</li> <li>12. その他 ( )</li> </ol> |
|--|

問 22 認知症の方を介護していて、良かったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族で話す機会が増えた</li> <li>2. 話す話題が増えた</li> <li>3. 介護を通して知人が増えた</li> <li>4. 生活にメリハリができた</li> <li>5. 自身の体調を気にするようになった</li> <li>6. 専門的な知識・技術が身についた</li> <li>7. 出かける場所が広がった</li> <li>8. 地域の役に立つことができた</li> <li>9. その他 ( )</li> </ol> |
|---|

問 23 認知症の方を介護している者として、身近に地域であつたらいいなと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の方に対して	介護している方に対して
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話し相手</li> <li>2. 買い物や近くまでの外出などの付き添い</li> <li>3. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い</li> <li>4. 病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け</li> <li>5. 定期的な声かけ</li> <li>6. 認知症カフェのような、本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所</li> <li>7. 地震など、災害時の安否確認</li> <li>8. その他 ( )</li> <li>9. わからない</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話し相手</li> <li>2. 買い物や家事などの手伝い</li> <li>3. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈などの手伝い</li> <li>4. 病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの手助け</li> <li>5. 定期的な声かけ</li> <li>6. 認知症カフェのような、本人・介護者が気軽に立ち寄り時間を過ごせる場所</li> <li>7. 地震など、災害時の安否確認</li> <li>8. その他 ( )</li> <li>9. わからない</li> </ol>

問 24 認知症の対策として、重要だと思われる施策は何ですか。(特に重要と思うものを3つまでお答えください。)

1. 介護者が疲れたときなどに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設
2. 認知症の方が安心して入所できる施設や住まい
3. 認知症の方が喜んで通うことのできる場所
4. 家族の外出時に認知症の方を見守る支援
5. 医師の往診による診断・治療
6. もの忘れ相談医や認知症専門医療機関情報の周知
7. 認知症の方の話し相手や散歩の付き添い
8. 介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所
9. 地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
10. 認知症支援ボランティアの育成
11. 医療機関など認知症の方と家族に役立つサービスをまとめた地域資源マップ
12. 心理士などの専門家による介護者に対するメンタル相談
13. 徘徊高齢者の情報を共有し、早期発見につなげるネットワークの構築
14. 訪問による家族相談
15. 電話やインターネットでの相談
16. 認知症の早期発見につながる取り組み、啓発活動
17. その他 ( )
18. 特にない (わからない)

問 25 次の相談機関や制度のうち、あなたが知っているものすべてに○をしてください。

- |             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 1. 消費生活センター | 2. 日常生活自立支援事業 (旧地域福祉権利擁護事業) |
| 3. 成年後見制度   |                             |

※1 消費生活センター

消費生活に関する困りごとや、契約・解約に関することなど消費生活全般の相談窓口

※2 日常生活自立支援事業 (旧地域福祉権利擁護事業)

利用者ができる限り地域で自立した生活を継続していくために、福祉サービスの利用援助やそれに付随した日常的な金銭管理等の援助を行う。

※3 成年後見制度

財産管理や身上監護に関する契約等の法律行為全般を行う。

問 26 草津市では「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

- 1. 講座を受けたことがある
- 2. 名前は聞いたことがある
- 3. 知らない

※認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成するための講座

問 27 問 26 で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えた方にお聞きします。あなたは「認知症サポーター養成講座」があれば受講したいと思いますか。

- 1. 受講したい
- 2. 受講したくない
- 3. わからない

すべての方にお聞きします。

問 28 このほか、高齢者の暮らしを支える地域づくりについて、ご意見・ご感想がありましたら記入してください。

調査にご協力ありがとうございました。

お手数ですが、返信用封筒にこの用紙を入れて、9月30日（月）までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。



認知症の高齢者に関するアンケート報告書

平成 26 年(2014 年) 3 月

発行 草津市健康福祉部長寿いきがい課

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目 13 番 30 号

電話番号 : 077-561-2362

F A X : 077-561-6780